FUJIFILM

操作説明書

リプロサーバ BT-X

はじめに

このたびは、リプロサーバ BT-Xをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本書は、リプロサーバ BT-Xをはじめてご使用になるかたを対象に、インストール方法、BT-X/Client、BT-X/Serverの操作方法、および使用上の注意事項などについて記載しています。

なお、本書の内容は、パーソナルコンピューターの環境や、ネットワーク環境の基本的な知識や操作方法を習得されていることを前提に説明しています。お使いのパーソナルコンピューターの環境や、ネットワーク環境の基本的な知識や操作方法については、パーソナルコンピューター、オペレーティングシステム（以降、OSと表記します）、ネットワークシステムなどに付属のマニュアルをお読みください。

Microsoftは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Adobe、PostScript、およびPostScript 3は、米国ならびに他の国におけるAdobeの登録商標または商標です。
その他の社名、または商品名等は各社の登録商標または商標です。
Microsoft Corporationの許可を得て画面写真を使用しています。

・本書の編集、変更、または無断での転載はしないでください。
・本書に記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
・本書に記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OS のバージョンによって異なることがあります。

FUJIFILM、およびFUJIFILMロゴは、富士フイルム株式会社の登録商標または商標です。
DocuWideは、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標または商標です。
本書は富士ゼロックスブランドの商品を含みます。富士ゼロックスブランドの商品は、米国ゼロックス社からライセンスを受けている商品です。

目次

はじめに 2
目次 3
本書の表記 6

1 概要

1.1 BT-X とは 7
1.1.1 ソフトウェアの構成 7
1.1.2 BT-X の主な機能 9
1.1.3 PJ Sheet がある場合とない場合の違い 10
1.1.4 対象プロッター 10
1.2 接続構成 11
1.2.1 接続構成（1） 11
1.2.2 接続構成（2） 11
1.2.3 接続構成（3） 12
1.2.4 接続構成（4） 12

2 インストール

2.1 動作環境 13
2.2 インストール手順 13
2.2.1 BT-X/C のインストール 13
2.2.2 BT-X/S のインストール 17
2.3 アンインストール手順 19
2.3.1 BT-X/C のアンインストール 19
2.3.2 BT-X/S のアンインストール 20
2.4 ソフトウェアの起動 21
2.4.1 BT-X/C の起動 21
2.4.2 BT-X/S の起動 22
2.5 ユーザー環境のバックアップ 24
2.5.1 BT-X/C のバックアップ 24
2.5.2 BT-X/S のバックアップ 24

3 BT-X/C

3.1 ［BT-X/Client］画面の説明 25
3.2 ジョブ設定 26
3.2.1 ジョブ設定の登録 26
3.2.2 ジョブ設定の選択 27
3.2.3 ジョブ設定の変更 28
3.2.4 ジョブ設定の削除 28
3.3 出力者名の設定 29
3.3.1 出力者名の登録 29
3.3.2 出力者名の設定／変更 29
3.3.3 出力者名の削除 29
3.4 出力設定 30
3.4.1 出力設定の選択 30
3.5 システム設定 30
3.5.1 出力設定の登録 30

3.5.2 出力設定の変更／参照 39
3.5.3 出力設定の削除 39
3.5.4 配布先設定の登録 40
3.5.5 配布先設定の削除 41
3.5.6 配布パターンの登録 41
3.5.7 配布パターンの削除 42
3.5.8 ファイル選択（選択） 43
3.6 出力ファイル操作（順番変更） 43
3.7 出力ファイル操作（削除） 44
3.8 出力ファイル操作（出力） 44
3.9 一時的な設定の変更（ファイルごと） 45
3.10 一時的な設定の変更（配布先ごと） 48
3.11 操作例 51
3.11.1 基本的な出力（丁合なし） 51
3.11.2 丁合出力 51
3.11.3 プログラム丁合出力（配布先ごとの丁合出力） 52

4 BT-X/S

4.1 [BT-X/Server] 画面の説明 53
4.2 [サーバー] メニューの操作 56
4.2.1 サーバーの起動 56
4.2.2 サーバーの停止 56
4.2.3 サーバーの設定 57
4.2.4 ログ管理（出力集計情報の参照） 59
4.2.5 ログ管理（出力集計情報の削除） 59
4.2.6 パラメータ管理（パラメータの印刷） 60
4.2.7 サーバーの終了 60
4.3 [キュー] メニューの操作 61
4.3.1 キューの新規作成 61
4.3.2 キューの設定 74
4.3.3 キューの起動 74
4.3.4 キューの停止 75
4.3.5 キューの削除 75
4.4 [ウィンドウ] メニューの操作 76
4.4.1 重ねて表示 76
4.4.2 並べて表示 77
4.4.3 アイコンの整列 77
4.5 [ジョブ] メニューの操作 78
4.5.1 ジョブの保留 78
4.5.2 ジョブの再開 78
4.5.3 ジョブの優先出力 78
4.5.4 ジョブの削除 79
4.5.5 ジョブの優先変換 79
4.5.6 ジョブの強制出力 79

5 PJ Sheet

5.1 PJ Sheet について 80
5.2 出力設定を行う 82
5.2.1 PJ Sheet で出力設定を行う 82

5.2.2 BT-X/S のキューに出力設定を行う 83
5.2.3 出力設定の優先度 83
5.2.4 効率のよい PJ Sheet の書き方 83
5.3 JobDefine セクション 84
5.4 Files セクション 108
5.5 SortPatDefine セクション 109
5.6 FileDefine セクション 109
5.7 PlotDefine セクション 110
5.8 使用例 112

6 画面にないパラメーターの設定方法
6.1 画面にないパラメーターの設定方法 121
6.2 INI ファイルによるパラメーターの設定 123

7 バッチファイル起動
7.1 バッチファイルについて 125

8 出力集計情報
8.1 出力集計情報について 127

9 丁合機能
9.1 丁合機能について 129

10 エラーメッセージ
10.1 エラーメッセージ一覧 130
10.1.1 BT-X/C のメッセージ 130
10.1.2 BT-X/S のメッセージ 131

11 注意制限事項
11.1 注意制限事項 134

本書の表記

・本書では、次の記号を使用しています。

〈　〉キー	キーボードのキーを表します。 例：<Enter>キーを押します。
[　]	画面に表示されるメニュー、ボタン、項目を表します。 例：[新規作成] をクリックします。
「　」	同一マニュアル内の参照箇所を表します。 また、強調する用語やメッセージも表します。 例：「1 概要」 「名前が指定されていません。」と表示されます。
『　』	参照するマニュアルの名前を表します。 例：『BT-PlotAssistant ユーザーズガイド』
{　}	ユーザー名やサーバー名など、操作時に変わる値を表します。 例：[{ユーザー名}] をクリックします。
＞	メニューやWebページの階層を表します。 例：[システムとセキュリティ] ＞ [管理ツール]
注記	必ず知っておいていただきたい情報、操作するときに必ず確認していただきたい情報を記載しています。
補足	機能や操作に関する補足説明を表します。
参照	参照する事項があることを表します。
＿＿＿＿	参照先タイトルやページへのリンクがあることを表します。 例：「1 概要」(P.6)

・本文中の「コンピューター」は、パーソナルコンピューターやワークステーションの総称です。
・Microsoft Windows Operating System を「Windows」と表記しています。
・パーソナルコンピューターを「 PC」と表記しています。
・本書では、主に Windows 10 と Windows 11 で使用した場合の操作例を記述しています。Windows 10 や Windows 11 以外の OS をお使いの場合は、操作方法や画面が異なることがあります。

1 概要

1.1 BT-X とは

リプロサーバBT-X（以降、「BT-X」と表記します）は、アプリケーションで設定情報を付加したプリントデータを送ることによって、配布先ごとに部数、拡大／縮小、紙折りなどを設定した複雑なプリントできるサーバーソフトウェアです。

1.1.1 ソフトウェアの構成

BT-Xは、次の2つのモジュールから構成されています。

・BT-X/Client
・BT-X/Server

BT-X/Client

BT-X/Client（以降、「BT-X/C」と表記します）は、ハードディスクなどにあるデータを、BT-X/Serverに送るモジュールです。

BT-X/Cでは、次の処理を行います。

・プロットデータの入力
・BT-X/Server への出力
・ペン指定やスケールなどの出力設定

BT-X/Server

BT-X/Server（以降、「BT-X/S」と表記します）は、BT-X/CまたはCADなどの、ほかのアプリケーションから直接送られてきたプロットデータを、対象プロッターに出力するモジュールです。

BT-X/Sでは、次の処理を行います。

・データの検出と対象プロッターへの出力
・データコンバーターの実行
・PJ Sheet の受け付け
・丁合の制御
・スタンプの制御
・2 カラー描画の制御
・紙折りの制御

参照 対象プロッターについては、「1.1.4 対象プロッター」（P.10）を参照してください。

BT-X/C を使った場合の処理

BT-X/Cを使ったときの処理の流れを図1.に示します。

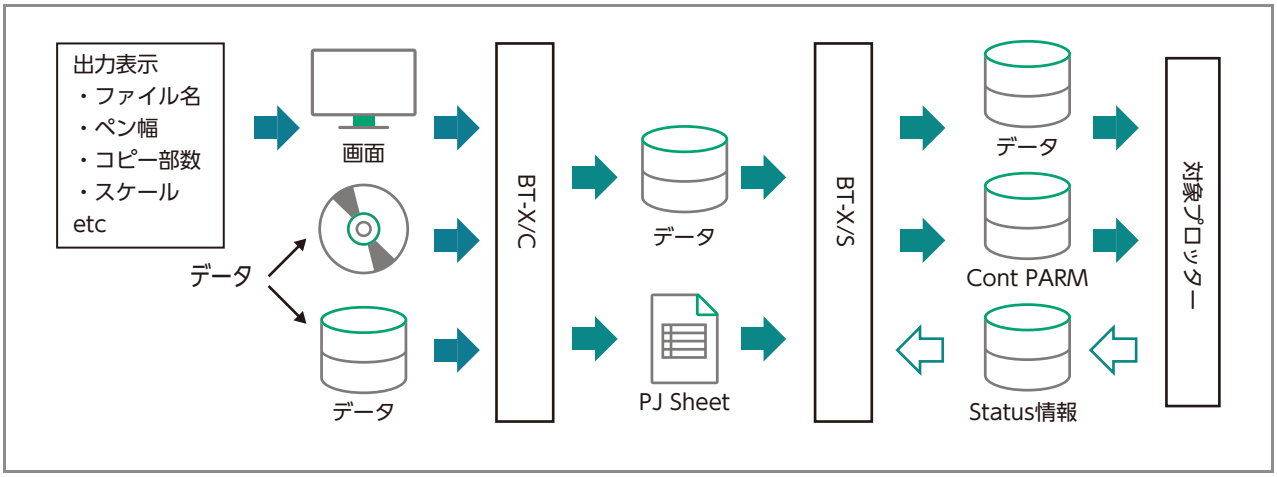


図1. BT-X/Cを使った場合の処理の流れ

BT-X/Cは、PJ SheetとプロットデータをBT-X/Sへ送ります。

BT-X/Sは、PJ Sheetとプロットデータをキューに受け付けることによって、出力処理を開始します。

BT-X/CとBT-X/Sは、それぞれ独立したモジュールのため、同一のコンピューターにインストールする必要はありません。

BT-X/C を使わなかった場合の処理

BT-X/Sでは、入力仕様（データの種類やPJ Sheetのフォーマット）を公開しているので、BT-X/Sの入力仕様に準拠しているデータであれば、BT-X/Cを介さないで、直接データを受け付けることができます。

BT-X/Cを使わなかったときの処理の流れを、図2.および図3.に示します。

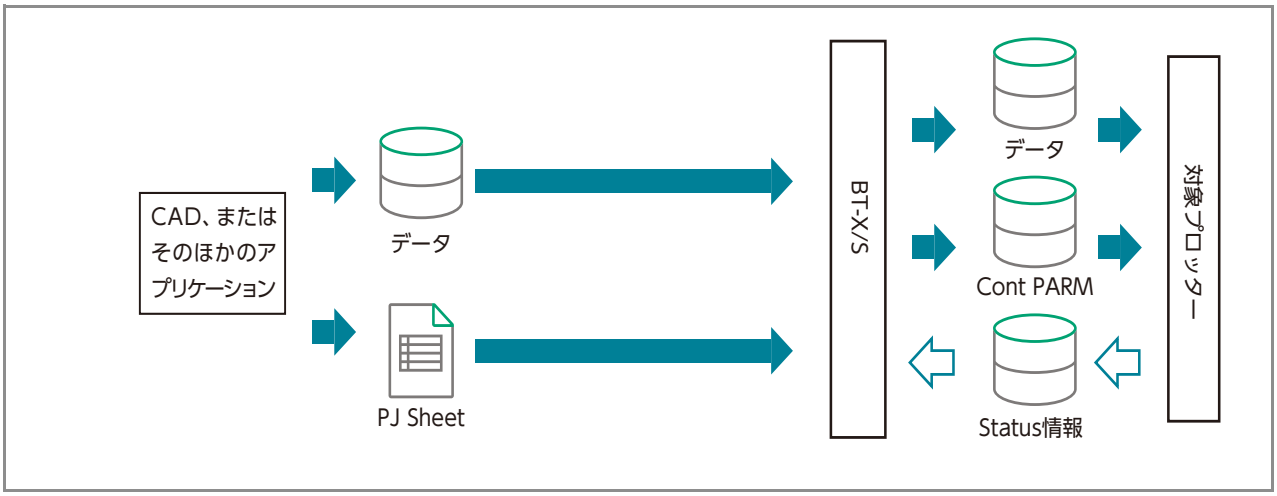


図2. BT-X/Cを使わなかった場合の処理の流れ（PJ Sheetあり）

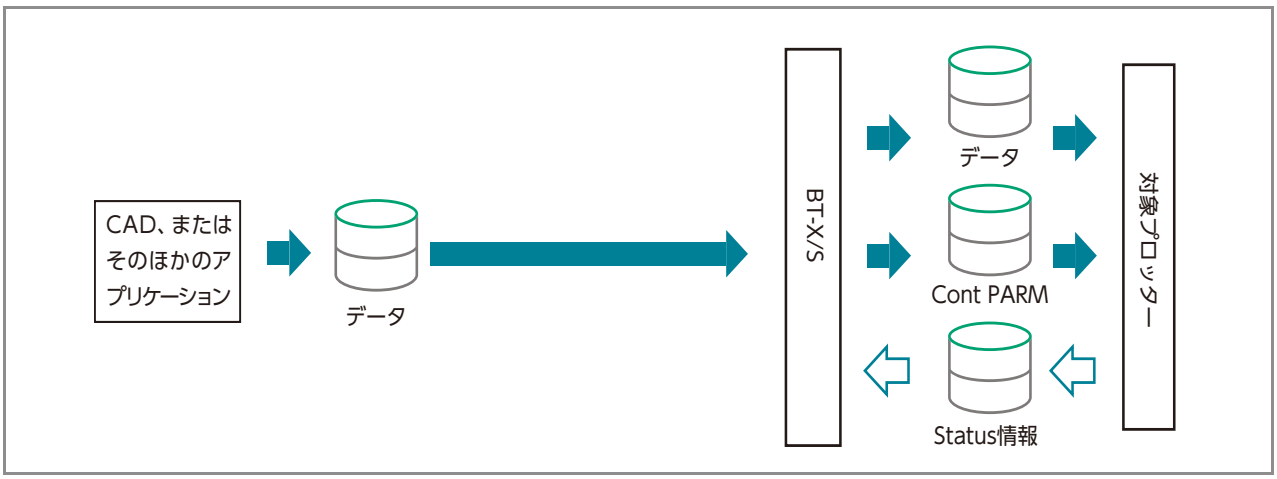


図3. BT-X/Cを使わなかった場合の処理の流れ（PJ Sheetなし）

BT-X/Sは、PJ Sheetありで処理するか、なしで処理するかを、キューごとに設定できます。PJ Sheetありで処理すると設定したキューでは、PJ Sheetに記述してある内容を最優先に処理を行います。PJ Sheetなしで処理すると設定したキューでは、キューにあらかじめ設定してある内容どおりに処理を行います。

1.1.2 BT-X の主な機能

BT-Xの主な機能について記述します。

参照 対象プロッターについては、「1.1.4 対象プロッター」（P.10）を参照してください。

プロット機能

ハードディスクにある出力ファイルを画面上から選択して、対象プロッターに出力する機能です。

プロットサーバー機能

ネットワーク上のアプリケーションから転送された出力ファイルを検出して、自動的に対象プロッターに出力します。

丁合機能

丁合機能には、次の2種類があります。

・単純丁合
ジョブの中で指定されたデータを、1 つのかたまりとして配布先ごとに仕分け出力します。

・プログラム丁合
データごとに、配布先および部数を指定し、仕分け出力します。

データコンバート機能

バッチファイル起動

指定されたバッチファイルを起動します。バッチファイルにデータコンバーターの記述をすることで、各種データコンバーターを起動できます。

2 カラー出力機能

指定したペン番号やラスターエリアなどを赤および黒で描画します。

スタンプ制御機能

対象プロッターに登録されているスタンプを制御します。

紙折り制御機能

対象プロッターの紙折り機能を制御します。

PJ Sheet 受け付け機能

PJ Sheet（Print Job Sheet）は、出力するファイル名やペン幅などの各種設定を記述したテキストファイルです。このテキストファイルを受け付けて、そこに記述してある内容を最優先にして処理を行います。

参照 PJ Sheet については、「5 PJ Sheet」（P.80）を参照してください。

出力集計情報収集機能

出力した結果をログとして収集します。

参照 出力集計情報については、「8 出力集計情報」（P.127）を参照してください。

1.1.3 PJ Sheet がある場合とない場合の違い

PJ Sheetがある場合は、それを1つのジョブとして扱うので、丁合処理ができます。

PJ Sheetない場合には、1つのデータで1つのジョブとなるので、丁合処理はできません。PJ Sheetを作成、送付する必要がないので、BT-X/Sを簡単に利用できます。

1.1.4 対象プロッター

BT-X/Sの接続対象になるプロッターは、次のとおりです。

弊社製

・ApeosWide 3030/6050

富士ゼロックス製

・DocuWide 3037/6057

・DocuWide 9098α

補足 各プロッターは Ethernet（イーサネット）に接続されている必要があります。
プロッターによって、使用できる機能に制限があります。

参照 最新のサポート機種については、弊社公式サイトをご覧ください。

折り制御機能、スタンプ制御機能は、それぞれフォルダー、スタンプオプションがプロッターに接続または搭載されている場合に、BT-Xから制御できます。

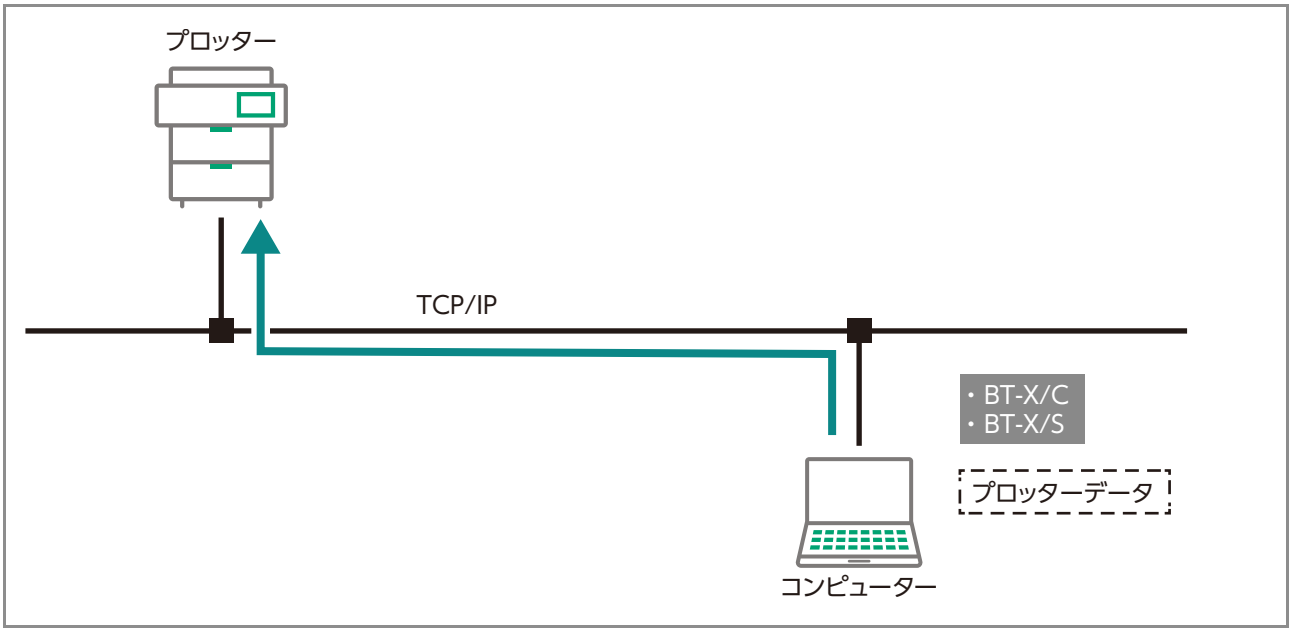
本体丁合機能がないプロッターに対して、BT-X/CまたはPJ Sheetで制御を指定した場合、PJ Sheetエラーになり、ジョブはキャンセルされます。

1.2 接続構成

ここでは、BT-Xのシステム構成例について説明します。

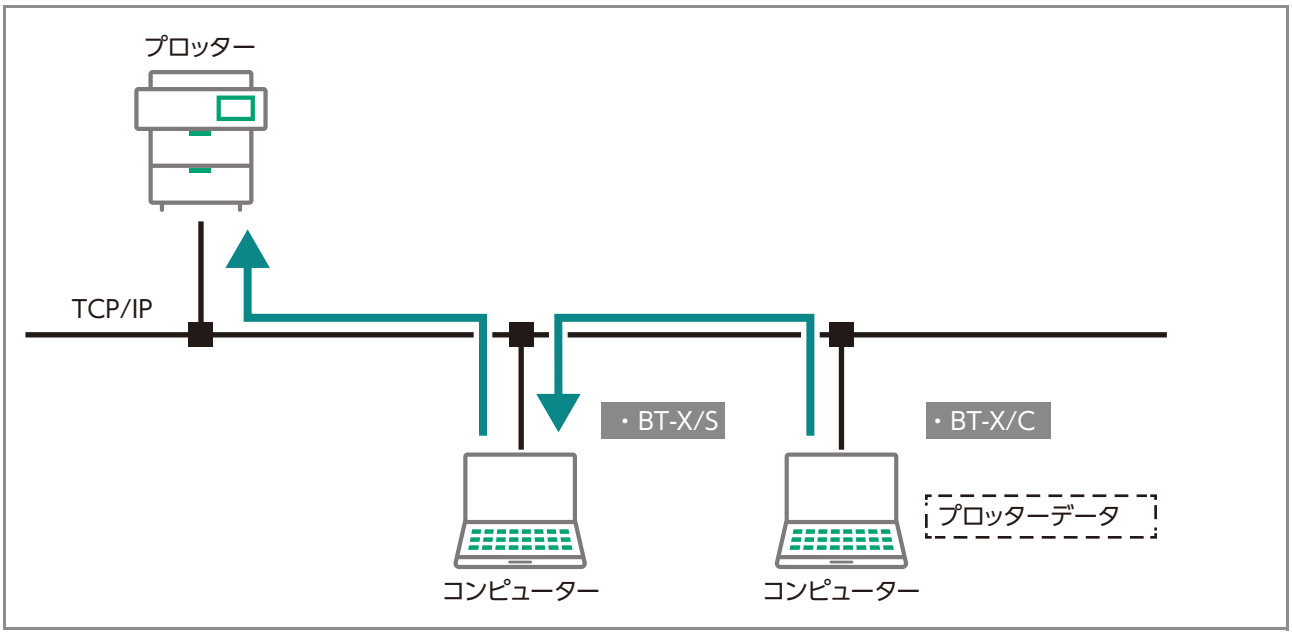
1.2.1 接続構成（1）

1台のコンピューターにBT-X/CとBT-X/Sを共存させ、プロッターデータをプロッターに出力する接続構成です。



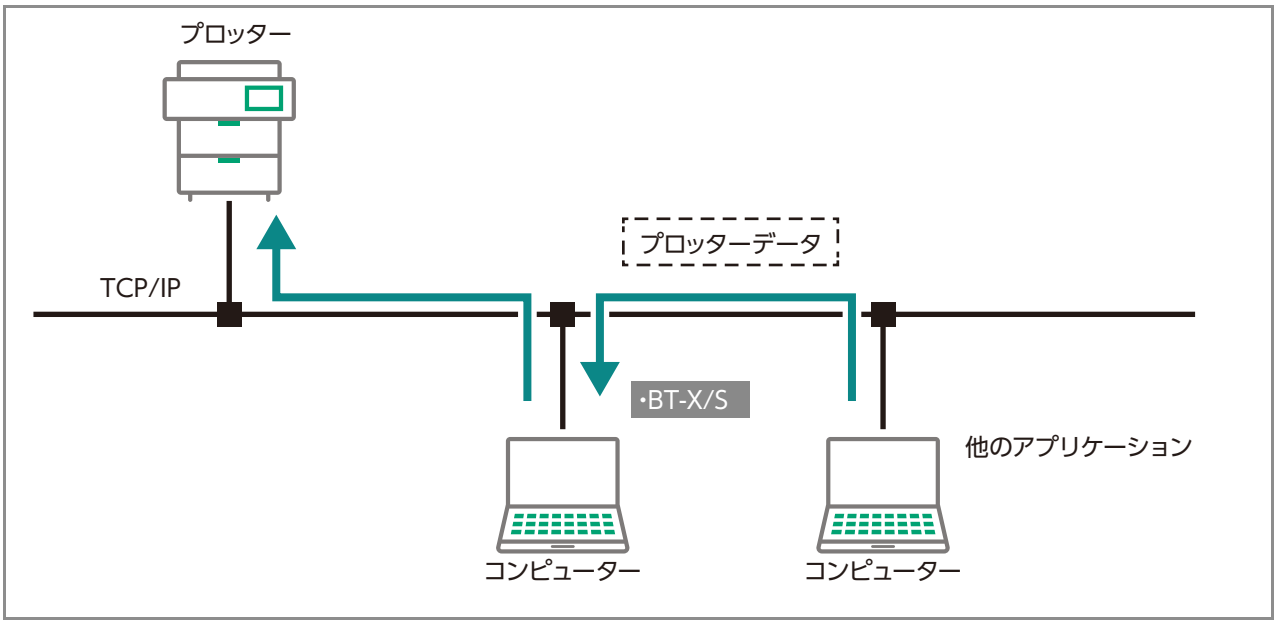
1.2.2 接続構成（2）

別々のコンピューターにBT-X/CとBT-X/Sをインストールし、プロッターデータをプロッターに出力する接続構成です。



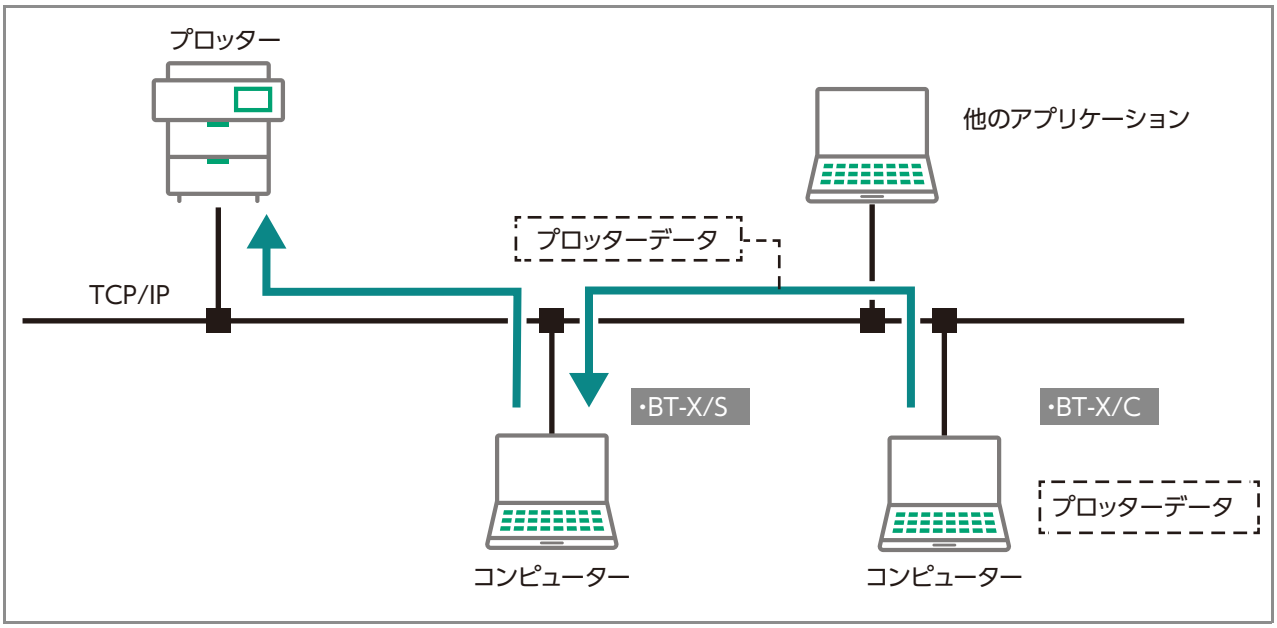
1.2.3　接続構成（3）

コンピューターにBT-X/Sだけインストールし、プロッターデータを他のアプリケーションからネットワーク経由で、BT-X/Sに転送している接続構成です。



1.2.4　接続構成（4）

BT-X/Cからの出力と、他のアプリケーションからの出力を共存させる接続構成です。



2 インストール

2.1 動作環境

BT-Xの動作環境について説明します。

BT-X/CとBT-X/Sの動作環境は同じです。
対応OS　　：　Windows 11 (64ビット) 日本語版

補足
・最新の対応 OS については、弊社公式サイトをご覧ください。
・コンピューターの動作環境については、各 OS の推奨値に準拠します。

2.2 インストール手順

BT-Xの各ソフトウェアをインストールする手順について説明します。また、バージョンアップする手順についても説明します。

補足
・インストールするには、Administrator の権限を持つユーザーでサインインする必要があります。
・Administrator の権限を持つユーザーでインストールしたあとに、ユーザーを切り替えて一般ユーザーで使用する場合には、インストールしたフォルダー（標準のインストールフォルダーは「C:¥BT-X」）のアクセス権を変更してください。
アクセス権の変更手順は、次のとおりです。
① Administrator の権限を持つユーザーでサインインします。
② エクスプローラーでインストールフォルダー（例：C:\BT-X）を右クリックし、［プロパティ］を選択します。
③［セキュリティ］タブを開き、［編集］ボタンをクリックします。
④ アクセス権を変更したいユーザーまたはグループを選択し、［変更］の［許可］にチェックマークを付けます。
⑤［適用］、［OK］をクリックして設定を保存し、ウィンドウを閉じます。

2.2.1 BT-X/C のインストール

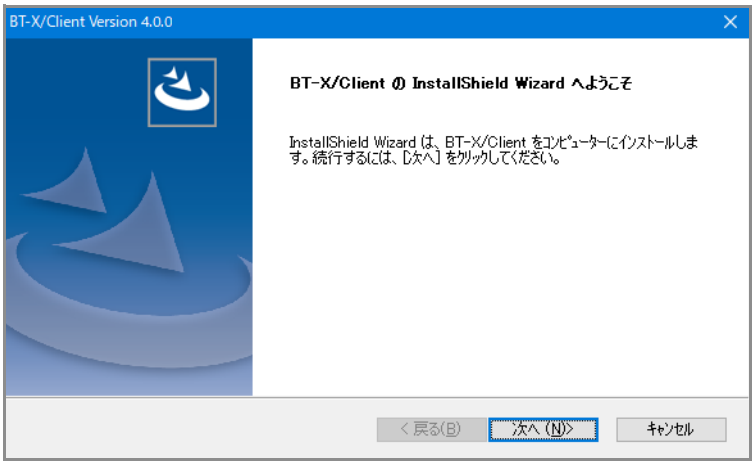
富士ゼロックス製のBT-X/Cがインストールされている場合は、アンインストールしてから弊社製のBT-X/Cをインストールしてください。

補足
富士ゼロックス製の BT-X/C をアンインストールした場合、バックアップファイルや削除されずに残っているフォルダーと、フォルダー内にあるファイルがあれば削除してください。
BT-X/C がインストールされていたデフォルトのフォルダーは、「C:¥BT-X¥BTX-C」です。

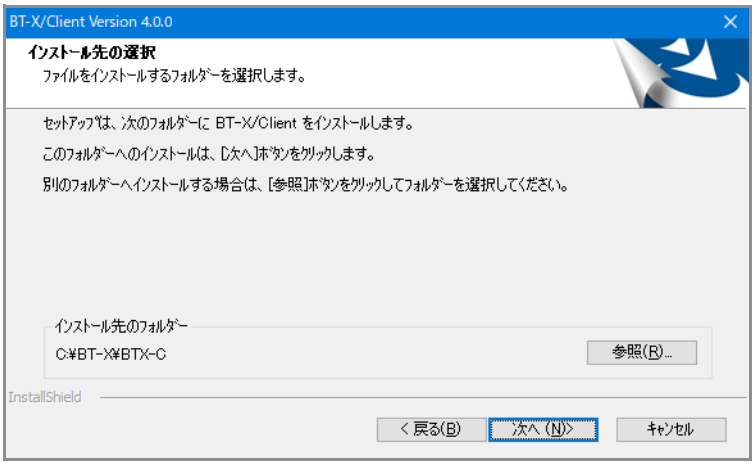
BT-X/Cのインストラーは、インストールメディアの他に、公式サイトからダウンロードできます。ここでは、インストールメディアを使用したインストールする手順について説明します。

1. BT-X のインストールメディアを PC のメディアドライブにセットます。
2. BT-X のインストールメディアの BT-X/C の「 setup.exe 」をダブルクリックします。
セットアッププログラムが起動し、インストーラー画面が表示されます。

3. [次へ] をクリックします。

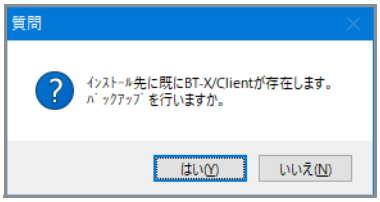


4. [次へ] をクリックします。
新規に BT-X/C をインストールする場合は手順 8 に、バージョンアップする場合は手順 5 に進みます。

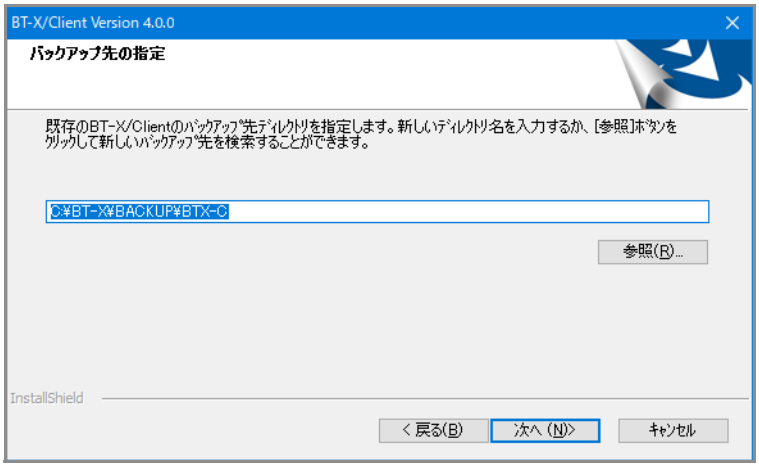


補足
・富士ゼロックス製の BT-X/C からのバージョンアップはできません。
・インストール先のフォルダーのデフォルトは、「C:¥BT-X¥BTX-C」です。

5. すでに BT-X/C がインストールされている場合は、バックアップを行うかどうかの確認メッセージが表示されるので、[はい] をクリックします。
[いいえ] をクリックした場合は、手順 7 に進みます。



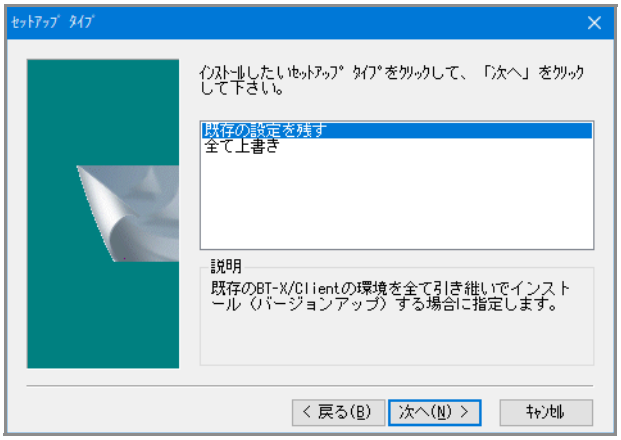
6. バックアップ先を入力して、［次へ］をクリックします。



7. バージョンアップ方法を選択し、［次へ］をクリックします。

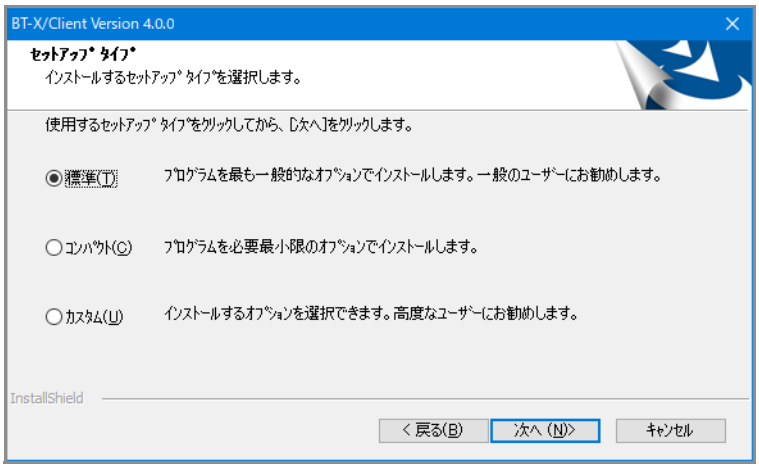
・既存の設定を残す
　ジョブ設定、システム設定以外を上書きします。

・全て上書き
　すべてのファイルを上書きします。



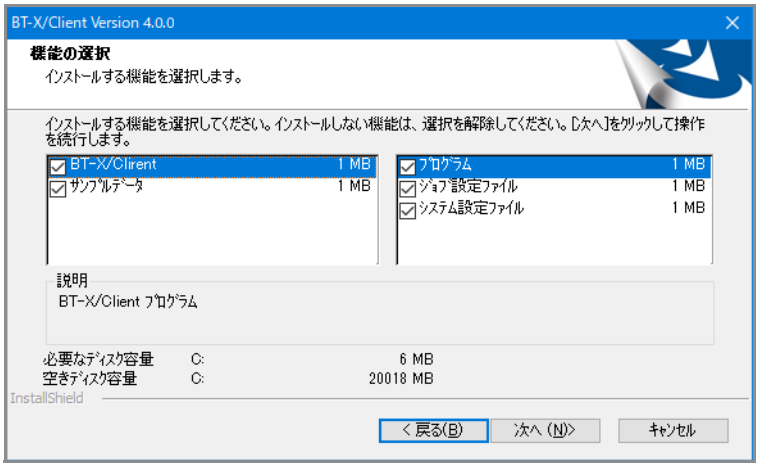
8. 新規にインストールする場合には、［標準］をクリックして、［次へ］をクリックします。

［標準］および［コンパクト］を選択した場合は手順 10 に、［カスタム］を選択した場合は手順 9 に進みます。



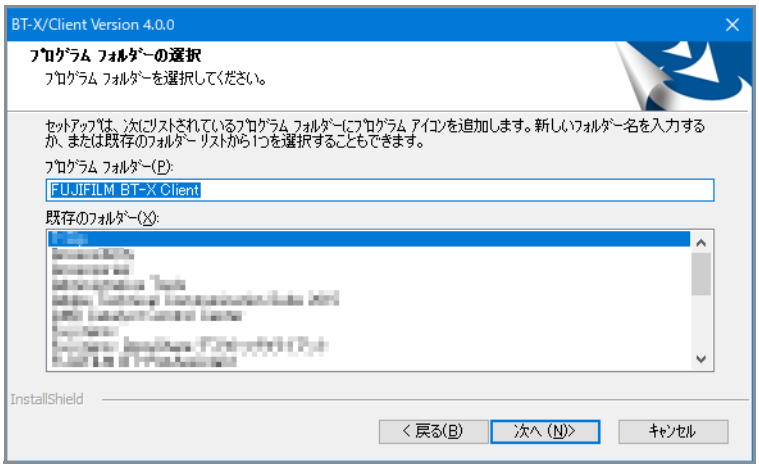
補足　［コンパクト］では、サンプルデータがインストールされませんが、それ以外のインストール内容は［標準］と同様です。

9. インストールするコンポーネントを選択して、[次へ] をクリックします。



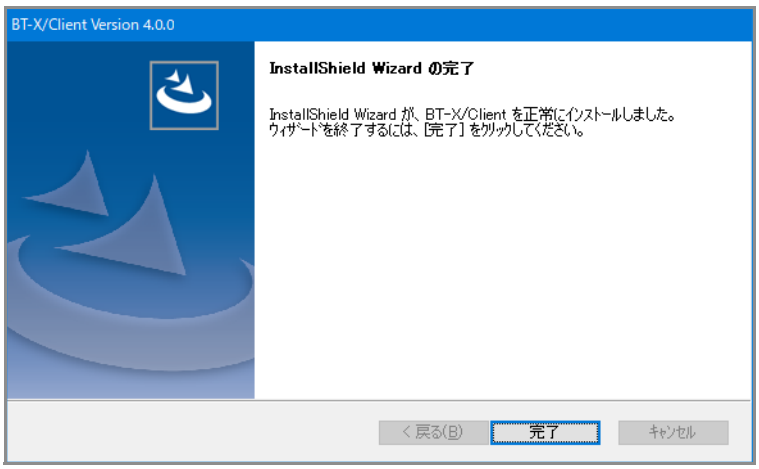
補足 [ジョブ設定ファイル] にチェックマークを付けると、バージョンアップ前までの設定が変更されることがあります。

10. プログラムフォルダーを確認して、[次へ] をクリックします。



補足 ・標準では「FUJIFILM BT-X Client」フォルダーに、プログラムアイコンが登録されます。
・バージョンアップの場合は、既存のフォルダーから、現在使用しているフォルダーを選択してください。

11. [完了] をクリックします。

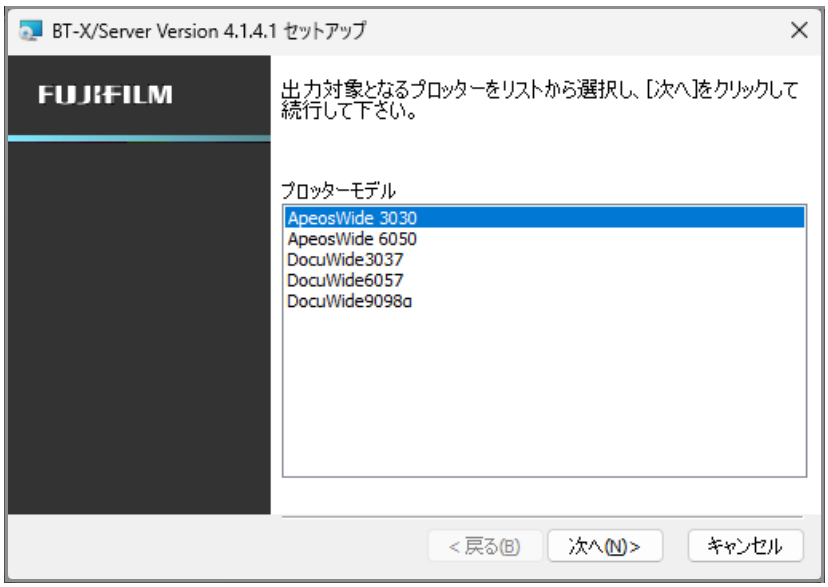


2.2.2 BT-X/S のインストール

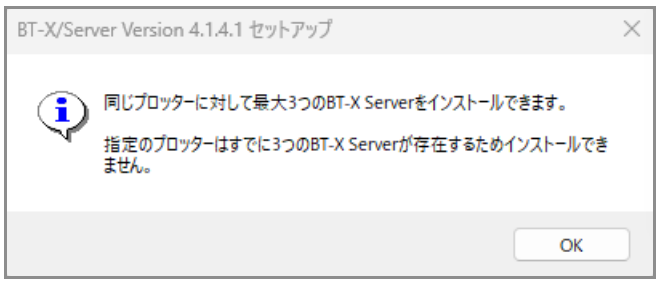
富士ゼロックス製のBT-X/Sがインストールされている場合は、アンインストールしてから弊社製のBT-X/Sをインストールしてください。

補 足 ・富士ゼロックス製の BT-X/C をアンインストールした場合、バックアップファイルや削除されずに残っているフォルダーと、フォルダー内にあるファイルがあれば削除してください。
BT-X/S がインストールされていたデフォルトのフォルダーは、「C:¥BT-X¥BTX-S」です。
・公式サイトでダウンロードできるインストーラーは、「バージョンアップキット」です。アップデートの場合に使用します。

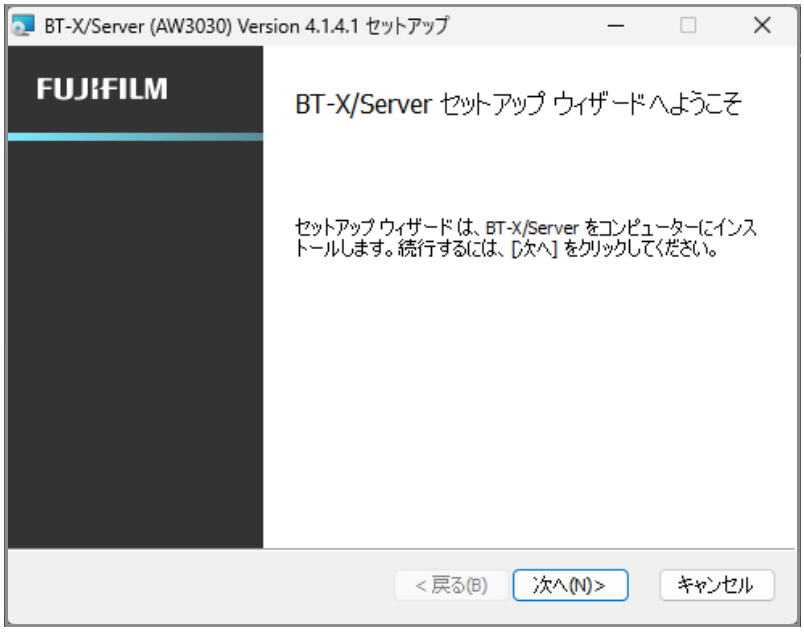
1. BT-X のインストールメディアを PC のメディアドライブにセットします。
2. BT-X のインストールメディアの BT-X/S の「 Install.exe 」をダブルクリックします。
セットアッププログラムが起動し、インストーラー画面が表示されます。
3. 出力対象になるプロッターを選択して、［次へ］ をクリックします。



補 足 プロッターモデルごとに最大 3 回 BT-X Server をインストールできます。BT-X Server を 3 回インストールしたプロッターモデルを選択して「次へ」をクリックした場合、次のメッセージが表示されます。



4. ［次へ］をクリックします。



5. ［次へ］をクリックします。



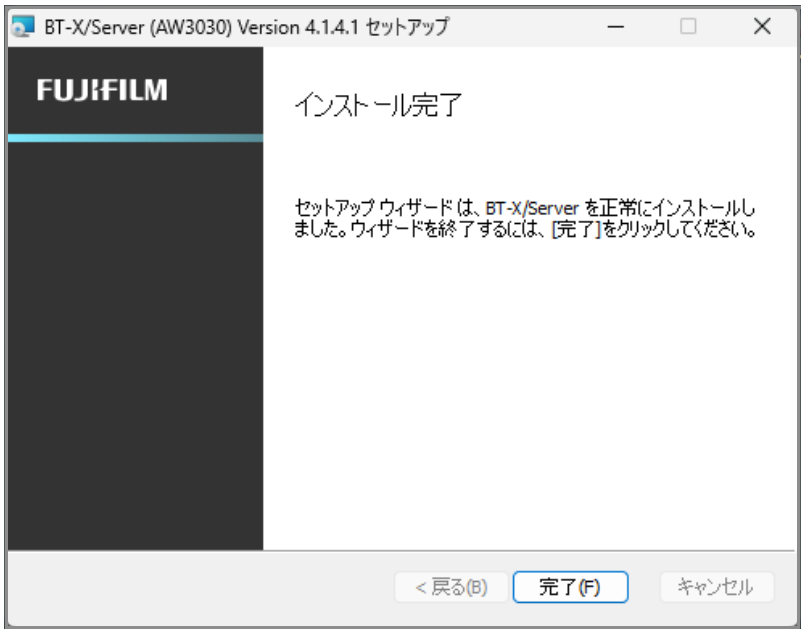
バージョンアップする場合は公式 HP からアップデートキットをダウンロードしてご利用ください。

補足
- 初回のインストールでは、インストール先のフォルダーのデフォルトは「C:\BT-X\BTX-S\」です。
- 2 回以降のインストールでは、インストール先のフォルダーのデフォルトは「C:\BT-X\BTX-S_［プロッターモデル名の略称］\」です。
  例：C:\BT-X\BTX-S_AW6050\
- 指定したインストール先にすでに BT-X Server がインストールされていた場合、インストール先のフォルダーのデフォルトは次のようになります。
  「C:\BT-X\BTX-S_［プロッターモデル名の略称］_［インストール回数（2 または 3)］\」
  例：C:\BT-X\BTX-S_AW3030_3\

6. [インストール] をクリックします。



7. [完了] をクリックします。



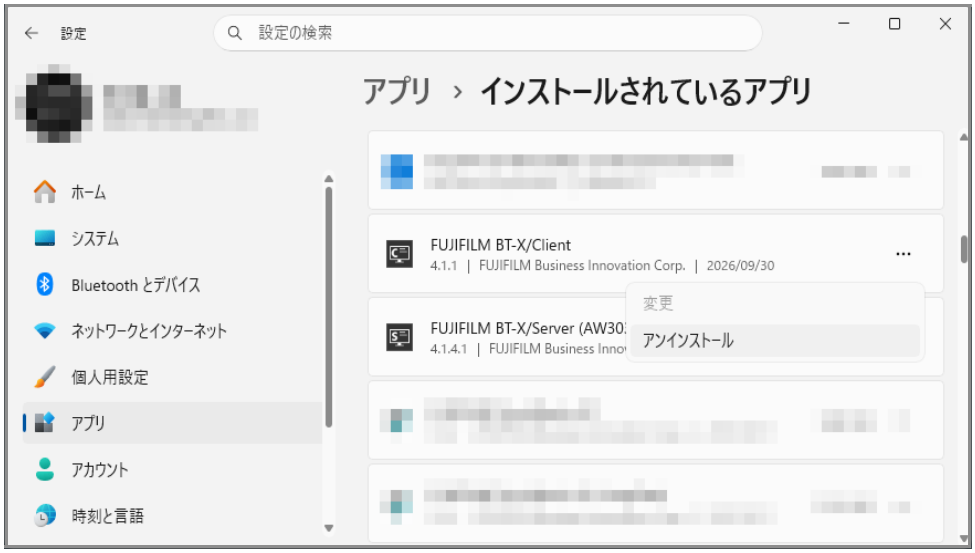
2.3 アンインストール手順

BT-Xの各ソフトウェアをアンインストールする手順について説明します。

2.3.1 BT-X/C のアンインストール

1. Windows の [スタート] メニューから、[設定] > [アプリ] > [インストールされているアプリ] を選択します。
   [インストールされているアプリ] 画面が表示されます。

2. [FUJIFILM BT-X/Client] の横にある「...」をクリックし、「アンインストール」を選択します。



確認の画面が表示されます。

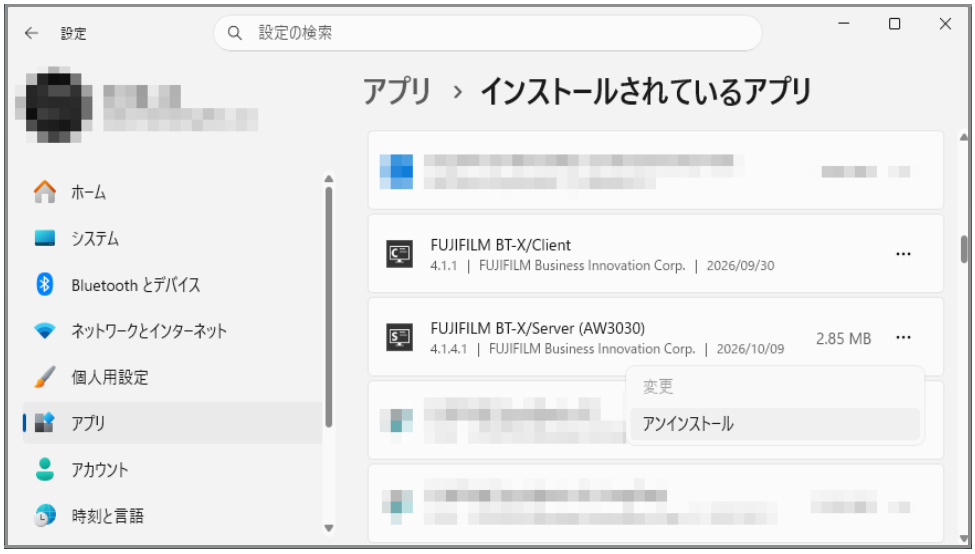
3. [アンインストール] をクリックします。

補足 アンインストールをしても「Envfile」、「Jobfile」、「Temp」、「User」のフォルダーは削除されません。

2.3.2 BT-X/S のアンインストール

1. Windows の［スタート］メニューから、［設定］>［アプリ］>［インストールされているアプリ］を選択します。
［インストールされているアプリ］画面が表示されます。

2. [FUJIFILM BT-X/Server（[プロッターモデル名の略称]）] の横にある「...」をクリックし、「アンインストール」を選択します。



確認の画面が表示されます。

補足 ・複数の BT-X Server がインストールされている場合、項目ごとに表示されます。
・選択した BT-X Server のみが削除されます。

3. [アンインストール] をクリックします。

補足 アンインストールをしても「Param」、「Save」、「Spool」のフォルダーは削除されません。

2.4　ソフトウェアの起動

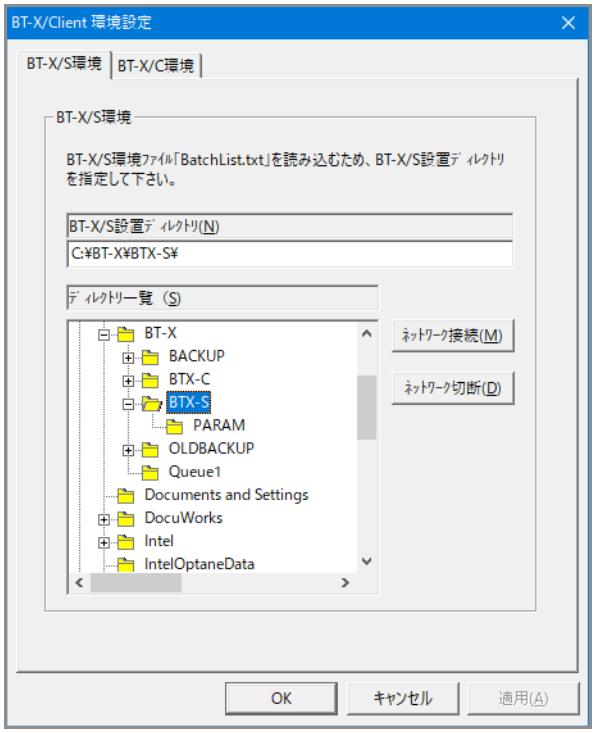
BT-Xの各モジュールのソフトウェアを起動する手順について説明します。

2.4.1　BT-X/C の起動

1. Windows の［スタート］メニューから、［FUJIFILM BT-X Client］＞［BT-X Client Version X.X.X］を選択します。
［BT-X/Client 環境設定］画面が表示されます。

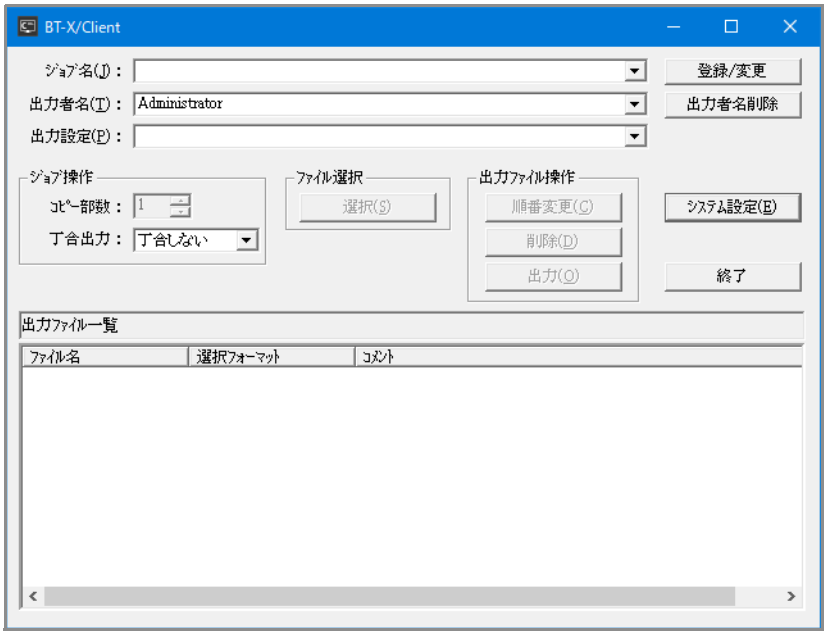
補 足　「X.X.X」にはバージョン番号が入ります。

2. BT-X/S の設置ディレクトリーを入力します。
［ディレクトリー覧］から BT-X/S の設置ディレクトリーをダブルクリックします。



補 足　［BT-X/S 設置ディレクトリ］に、入力したディレクトリーが正しく表示されていることを確認してください。
事前に BT-X/S のインストールが終了している必要があります。

3. ［OK］をクリックします。
BT-X/C が起動し、［BT-X/Client］画面が表示されます。



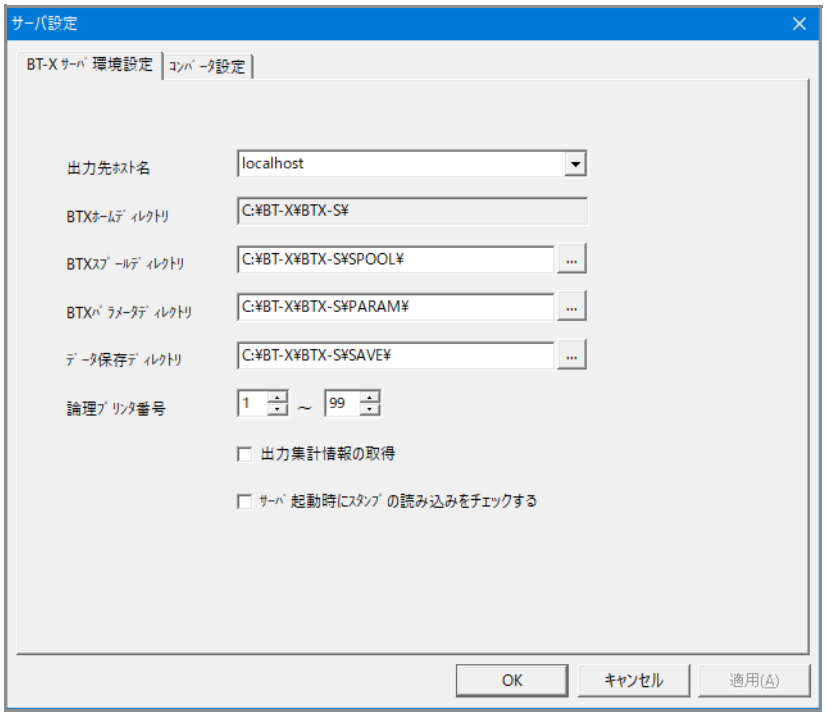
補 足 ［出力者名］には、デフォルトで Windows のサインインユーザー名が表示されます。

2.4.2 BT-X/S の起動

1. Windows の［スタート］メニューから、［FUJIFILM BT-X Server］＞［BT-X Server Version X.X.X］を選択します。
［サーバ設定］画面が表示されます。

補 足 ・プロッターが立ち上がっていることを確認してから起動してください。
・［X.X.X］にはバージョン番号が入ります。

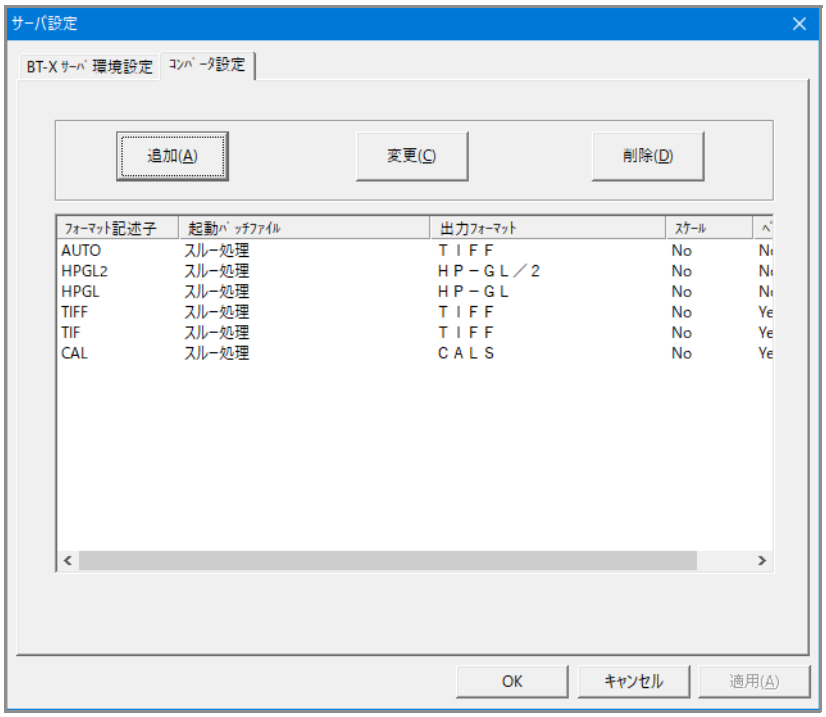
2. BT-X/S を起動する前に、必要な項目を入力します。



補 足 ホスト名の登録は、Windows のインストールディレクトリーにある ¥system32¥drivers¥etc¥hosts ファイルで事前に行ってください。

参照 入力の詳細については、「4.2.3 サーバーの設定」（P.57）を参照してください。

「C:¥BT-X¥BTX-S¥」以外のフォルダーに、BT-X/S をインストールした場合には、［コンバータ設定］タブを選択して、起動バッチファイルの設定を、インストールしたフォルダーに変更してください。

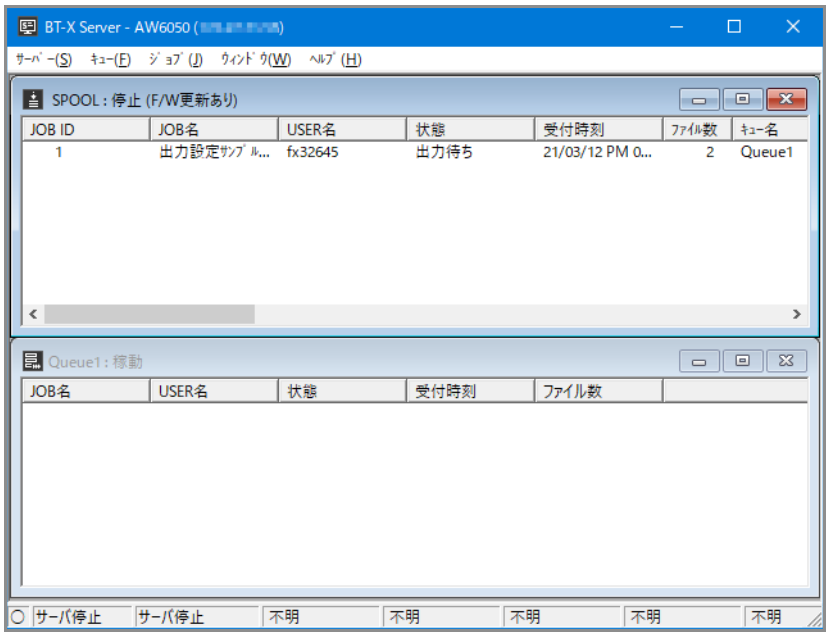


補足 C:¥BT-X¥BT-S¥ 以外のディレクトリーにインストールした場合は、バッチファイル内のディレクトリーのパス名を変更する必要があります。

参照 入力の詳細については、「4 BT-X/S」の「4.2.3 サーバーの設定」（P.57）を参照してください。

3. ［OK］をクリックします。

BT-X/S が起動し、［BT-X/Server］画面が表示されます。



4. プロッターのファームウェアのバージョンを変更した直後に起動すると、確認の画面が表示されるので、［はい］、または［いいえ］をクリックします。

［はい］をクリックすると、BT-X/S とプロッターのファームウェアのバージョンを統一したあと、メイン画面が表示されます。

［いいえ］をクリックすると、BT-X/S は起動しません。

2.5　ユーザー環境のバックアップ

BT-Xのユーザー環境のバックアップについて説明します。
万が一のトラブルに備えて、ユーザー環境をバックアップすることをお勧めします。

2.5.1　BT-X/C のバックアップ

BT-Xの設置ディレクトリーの「BTX-C」フォルダーにある、次のファイルをCD-R/RWなどのメディアにバックアップしてください。

・Jobfile
・Envfile
・User

2.5.2　BT-X/S のバックアップ

BT-Xの設置ディレクトリーの「BTX-S」フォルダーにある、次のファイルをCD-R/RWなどのメディアにバックアップしてください。

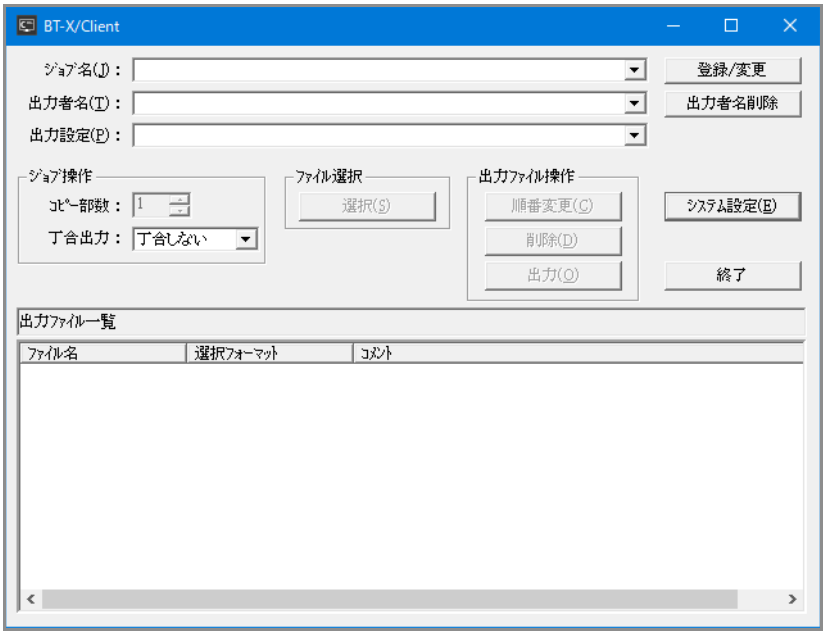
・Param
・

3 BT-X/C

3.1 ［BT-X/Client］画面の説明

ここでは、BT-X/Cのメイン画面である［BT-X/Client］画面について説明します。

参照 BT-X/C の起動については、「2.4.1 BT-X/C の起動」（P.21）を参照してください。



表示内容		説明
［ジョブ名］		出力するジョブの名称を入力します。 ［登録／変更］をクリックすると表示される、［ジョブ設定］画面で、ジョブを登録できます。
［登録／変更］		ジョブのデフォルト設定を行います。（P.26）
［出力者名］		ジョブを実行するユーザー名を入力します。
［出力者名削除］		登録されているユーザー名を削除します。
［出力設定］		あらかじめ登録してある出力設定名を［出力設定］から選択します。 出力設定の登録は、［システム設定］をクリックすると表示される、［BT-X/Clientシステム設定］画面で行います。（P.30）
［システム設定］		出力するジョブの設定、配布先の設定やパターン、環境の設定を行います。（P.30）
ジョブ操作		
	［コピー部数］	出力設定であらかじめ設定されているコピー部数が表示されます。
	［丁合出力］	出力設定であらかじめ設定されている丁合出力指示が表示されます。
ファイル選択		
	［選択］	コンピューター上の各ドライブから出力ファイルを選択します。（P.43） 選択したファイルは、BT-X/Cの出力対象ファイルになります。

表示内容		説明
出力ファイル操作		
	[順番変更]	BT-X/Cの出力対象ファイルの出力する順番を変更できます。(P.43)
	[削除]	BT-X/Cの出力対象ファイルを出力対象から除外できます。(P.44)
	[出力]	BT-X/Cの出力対象ファイルの出力を指示できます。(P.44)
[出力ファイル一覧]		ファイル名、選択フォーマット、コメント、配布先別部数（プログラム丁合を指定したとき）を表示できます。
[終了]		BT-X/Cを終了します。

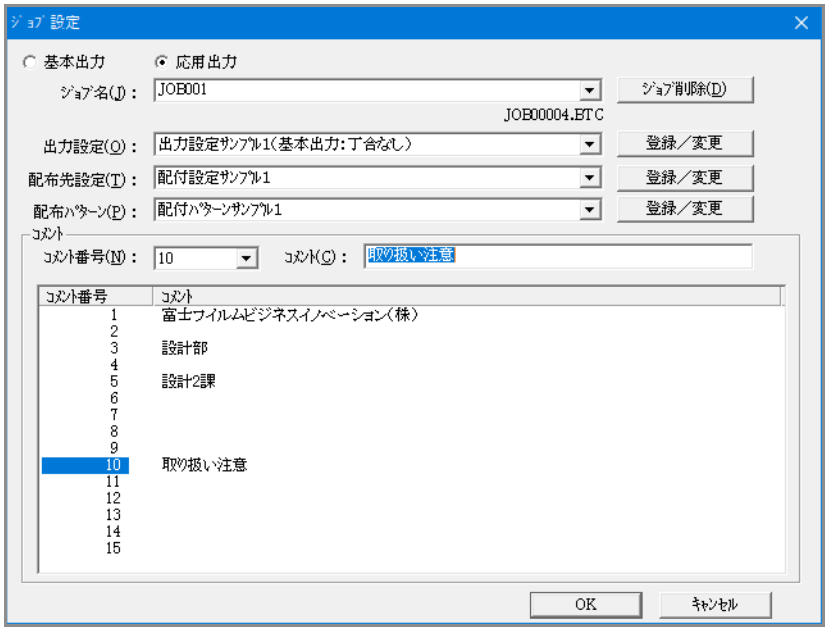
3.2 ジョブ設定

ジョブ設定では、出力するジョブに対して次の項目を登録／変更できます。
・ジョブ名
・出力設定
・配布先設定
・配布パターン
・ジョブコメント

3.2.1 ジョブ設定の登録

1. [BT-X/Client] 画面の［登録／変更］をクリックします。
［ジョブ設定］画面が表示されます。

2. ［ジョブ設定］画面の項目を設定します。



(1) ［基本出力］または［応用出力］を選択します。
［基本出力］は丁合を含む単純出力時に、［応用出力］はプログラム丁合出力時に指定します。

(2) ［ジョブ名］にジョブの名称を入力します。

補 足 最大半角 80 文字まで設定できます。

(3) [出力設定] で、出力設定を選択します。

補足 出力設定を登録、変更するには、[登録／変更] をクリックします。登録／変更の詳細については、[3.5.1 出力設定の登録] (P.30) を参照してください。

(4) [応用出力] を選択した場合は、[配布先設定] で配布先設定を選択します。

補足 ・[基本出力] を選択した場合は、入力できません。
・配布先設定を登録、変更するには、[登録／変更] をクリックします。
登録／変更の詳細については、[3.5.4 配布先設定の登録] (P.40) を参照してください。

(5) [応用出力] を選択した場合は、[配布パターン] で配布先パターンを選択します。

補足 ・[基本出力] を選択した場合は、入力できません。
・配布パターンを登録、変更するには、[登録／変更] をクリックします。
登録／変更の詳細については、[3.5.6 配布パターンの登録] (P.41) を参照してください。

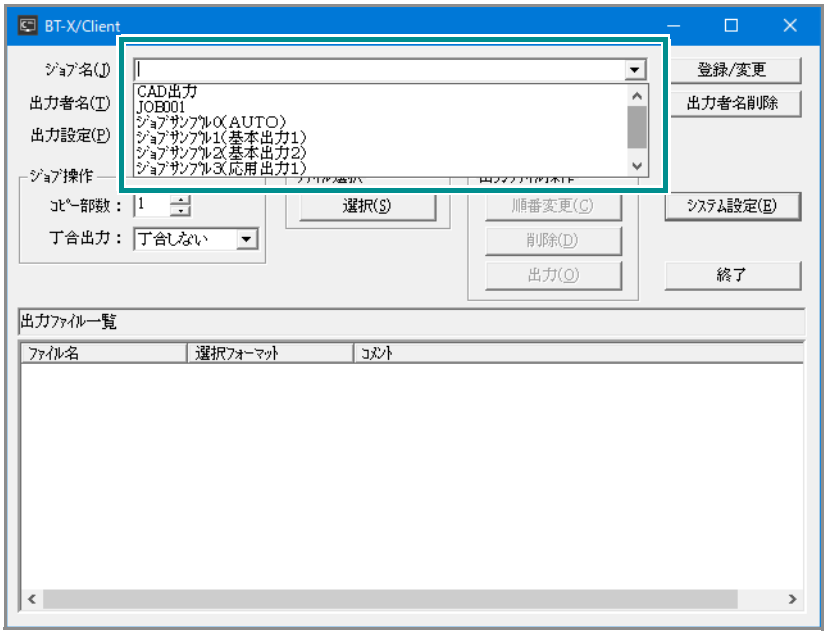
(6) ジョブに対する 15 種類の任意のコメントを入力します。
[コメント番号] で、コメント番号を選択してから [コメント] にコメントを入力します。

補足 最大半角 1200 文字（半角 80 文字 ×15）まで設定できます。

3. [OK] をクリックします。
入力内容が保存され、[BT-X/Client] 画面に戻ります。

3.2.2 ジョブ設定の選択

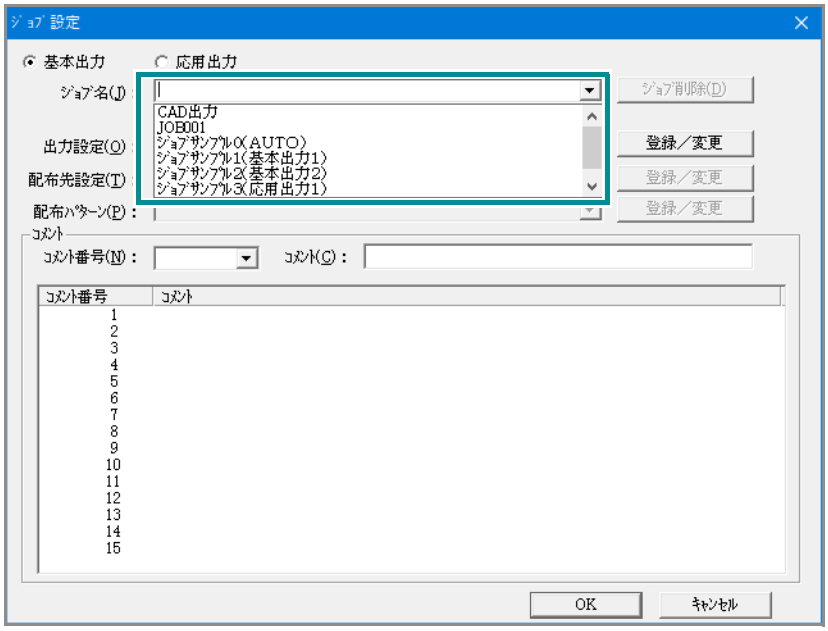
1. [ジョブ名] で、登録したジョブを選択します。



ジョブを選択すると、ジョブに登録されている出力設定、配布先設定、配布パターンが同時に選択されます。

3.2.3　ジョブ設定の変更

1. [BT-X/Client] 画面の［登録／変更］をクリックします。
   ［ジョブ設定］画面が表示されます。
2. ［ジョブ名］で、変更したいジョブ名を選択します。



   ジョブを選択すると、ジョブに登録されている出力設定、配布先設定、配布パターンが同時に選択されます。
3. 表示された内容を変更して、［OK］をクリックします。
   入力内容が保存され、［BT-X/Client］画面に戻ります。

3.2.4　ジョブ設定の削除

1. [BT-X/Client] 画面の［登録／変更］をクリックします。
   ［ジョブ設定］画面が表示されます。
2. ［ジョブ名］で、削除したいジョブ名を選択します。
   ジョブ名を選択すると、ジョブに登録されている出力設定、配布先設定、配布パターンが同時に選択されます。
3. ［ジョブ削除］をクリックします。
   確認の画面が表示されます。
4. ［はい］をクリックします。
   ジョブ名が削除され、［BT-X/Client］画面に戻ります。

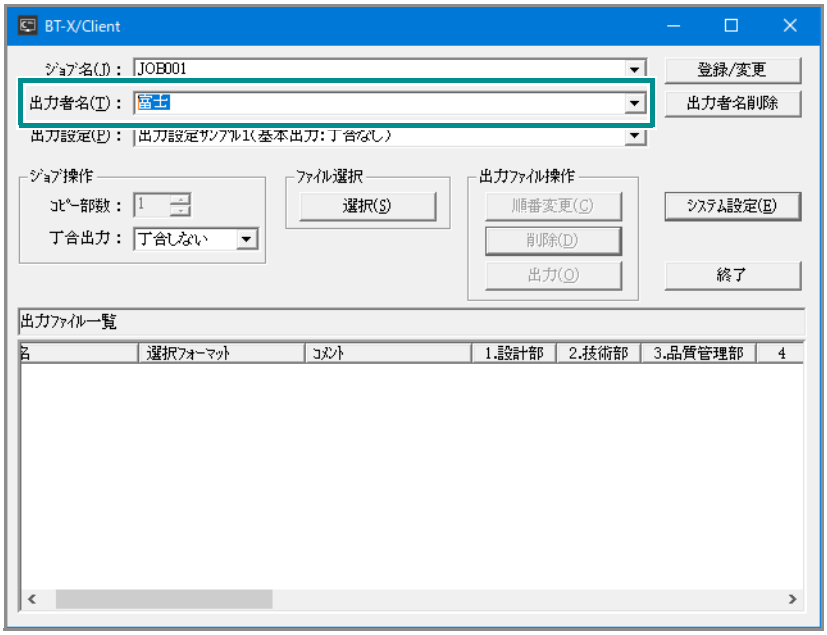
3.3 出力者名の設定

出力者名では、出力するジョブのユーザー名を設定します。

補 足 ユーザー名は、省略できます。省略した場合は、自動的に Windows のサインインユーザー名が割り当てられます。

3.3.1 出力者名の登録

1. [出力者名] で、出力者名を入力します。



補 足 最大半角 80 文字まで設定できます。
実際のユーザー名の登録は、入力時点ではなく、ジョブ実行後に行われます。
一度登録したユーザー名は保持されているので、出力ごとに再入力する必要はありません。

3.3.2 出力者名の設定／変更

1. [出力者名] で、変更したい出力者名を選択、または、出力者名を直接入力します。

3.3.3 出力者名の削除

1. [出力者名] で、削除したい出力者名を選択して、[出力者名削除] をクリックします。
確認の画面が表示されます。

2. [はい] をクリックします。
出力者名が削除されます。

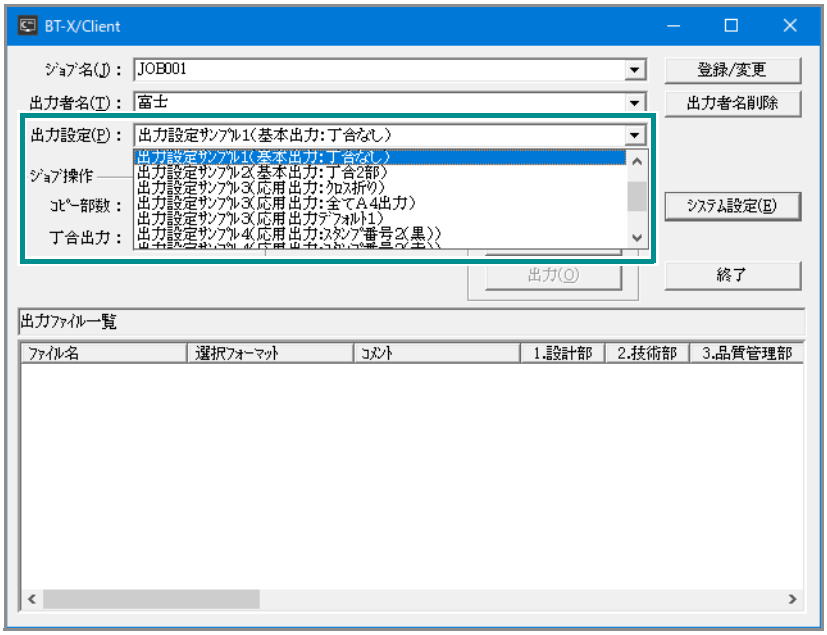
3.4　出力設定

出力設定では、出力に関する設定をします。

補足　ジョブ名を選択すると、そのジョブに対する出力設定が自動的に設定されるので、一時的に出力設定を変更する場合を除き、ここでの入力操作は必要ありません。

3.4.1　出力設定の選択

1. ［出力設定］で、設定したい出力設定名を選択します。



3.5　システム設定

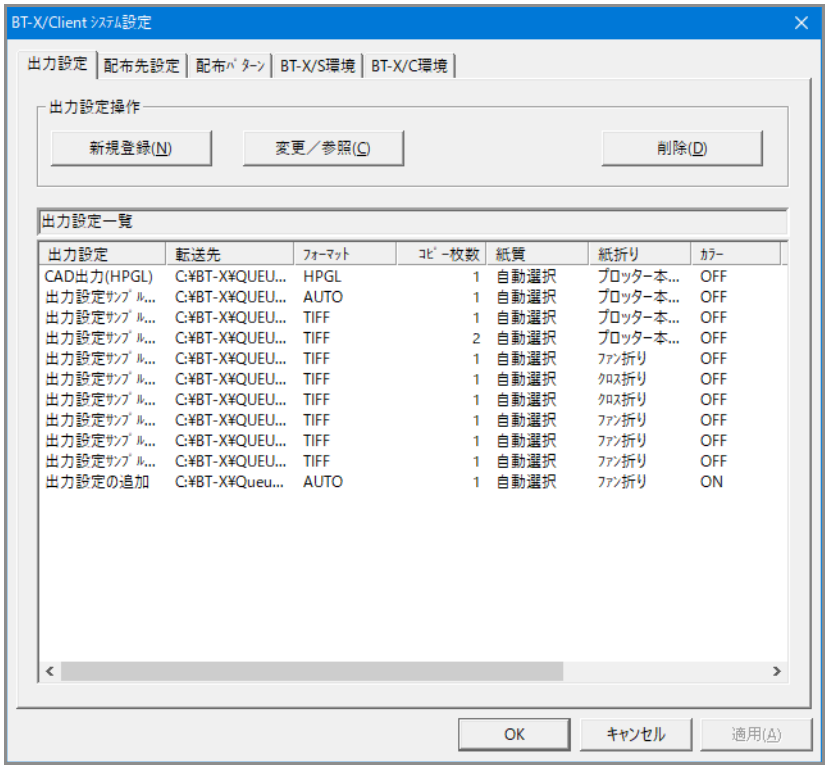
システム設定では、次の項目を登録、変更できます。

・出力設定　　ペン幅、スケールなどの出力属性を設定します。
・配布先設定　　丁合時の配布先名称を設定します。
・配布パターン　丁合時の各配布先に対する配布部数を設定します。

3.5.1　出力設定の登録

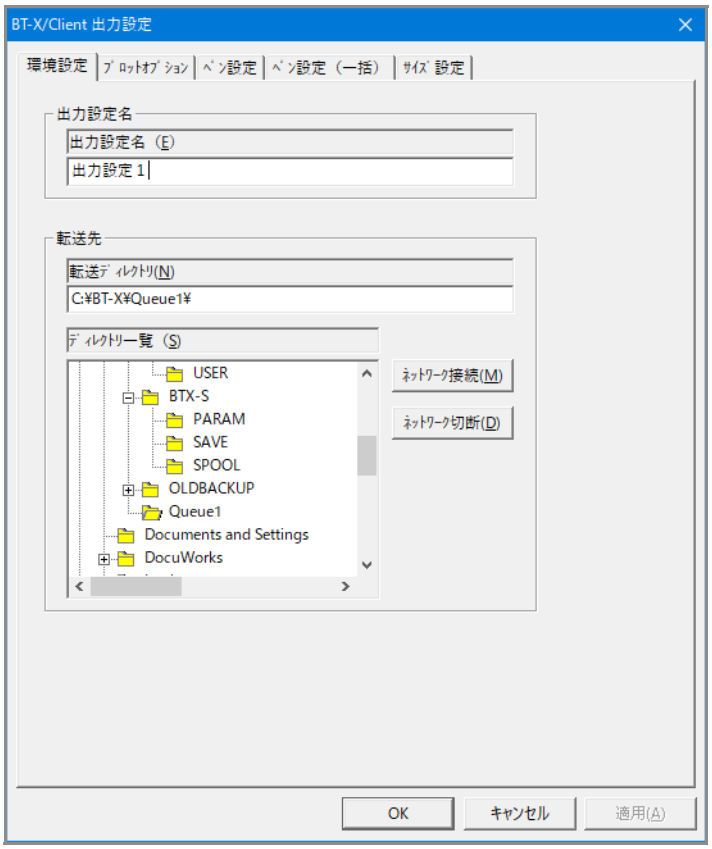
1. ［BT-X/Client］画面の［システム設定］をクリックします。
   ［BT-X/Client システム設定］画面の［出力設定］タブが表示されます。

2. [新規登録] をクリックします。



[BT-X/Client 出力設定] 画面の [環境設定] タブが表示されます。

3. [環境設定] タブの設定をします。



(1) [出力設定名] に出力設定名を入力します。この名称で設定内容が登録されます。

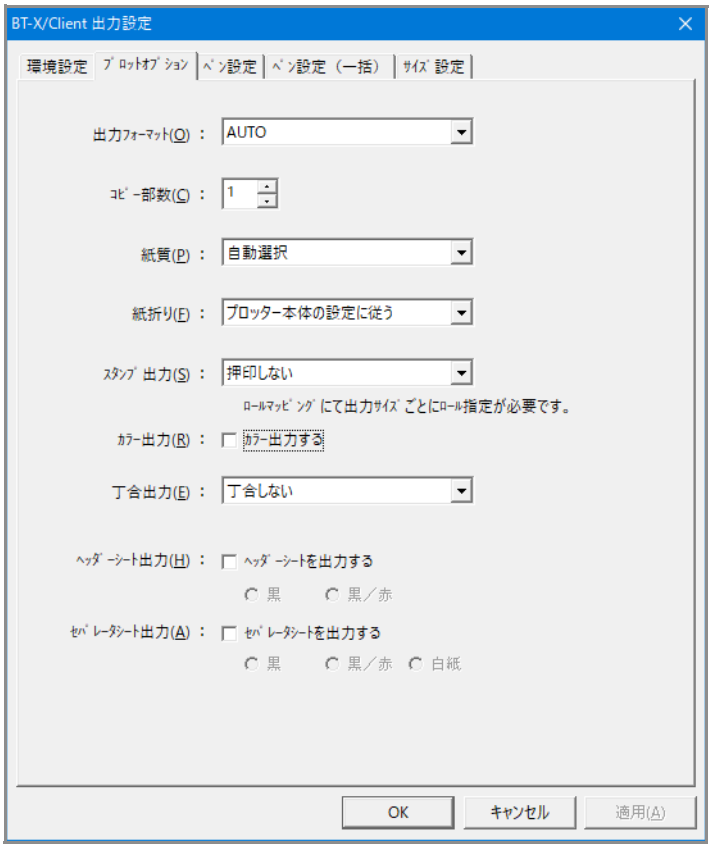
補足 最大半角 80 文字まで設定できます。

(2) BT-X/S のキューディレクトリーを入力します。

・ドライブ名の［+］をクリックすると、PC に接続されているドライブが表示されるので、キューが存在するドライブをダブルクリックして入力します。

・［転送ディレクトリ］には、選択されたドライブのフォルダーが表示されるので、キューが存在するフォルダーをダブルクリックして入力します。

4. ［プロットオプション］タブをクリックし、設定をします。



(1) ［出力フォーマット］で、出力するデータのデータフォーマットを選択します。

参照 表示されるデータフォーマットの設定については、「4.2.3 サーバーの設定」（P.57）を参照してください。

(2) ［コピー部数］に出力部数を入力します。

入力欄に値を直接入力するか、または上下矢印をクリックして値を入力します。

(3) ［紙質］で、出力する用紙タイプを選択します。

［自動選択］、［普通紙］、［トレーシング］、［フィルム］があります。

(4) ［紙折り］で、紙折り方法を選択します。

［プロッター本体設定に従う］、［折らない］、［ファン折り］、［ファン折り（単方向）］、［クロス折り］、［クロス折り（単方向）］、［特殊折り］、［特殊折り（単方向）］があります。

(5) ［スタンプ出力］で、スタンプを出力するかどうかを選択します。

［プロッター本体設定に従う］、［押印しない］、［押印する］があります。

補足 ［サイズ設定］タブのロールマッピングで［自動選択］が指定されている場合には、スタンプ出力を設定できません。

(6) カラーで出力するかどうかを設定します。

［カラー出力する］にチェックマークを付けると、カラー出力できます。

(7) ［丁合出力］で、丁合をするかどうかを選択します。

［丁合しない］、［丁合する（可能な限り本体丁合する）］、［プロッター本体で丁合する］、［BT-X で丁合する］があります。

補足 本体丁合機能がない場合、［丁合する（可能な限り本体丁合する）］は［BT-X で丁合する］と同じ動作をし、［プロッター本体で丁合する］は PJ Sheet エラーになります。

(8) [ヘッダーシートを出力する] にチェックマークを付けると、ジョブの先頭に、ヘッダーシートが出力されます。
[黒] を選択すると黒で印字されたヘッダーシートが、
[黒／赤] を選択すると黒と赤で印字されたヘッダーシートが出力されます。

(9) [セパレータシートを出力する] にチェックマークを付けると、配布先の先頭にセパレーターシートが出力されます。
[黒] を選択すると黒で印字されたセパレーターシートが、
[黒／赤] を選択すると黒と赤で印字されたセパレーターシートが出力されます。

5. [ペン設定] タブを選択し、ペンの設定をします。
1 ～ 32 番ペンを設定できます。
[戻る] と [次へ] をクリックすることで、ペン番号を変更できます。



(1) [ペン幅] で、ペン幅を、0 ～ 511dot の範囲で入力します。

補 足 ・ペン幅はデータが HP-GL のときに有効です。
・単位はプロッターの dot 値です。

(2) [終端処理] で、線の終端形状を選択します。
[SQUARE]、[ROUND]、[EXTEND]、[TRIANGLE] があります。

(3) [結合処理] で、線と線の接続形状を選択します。
[UNJOINT]、[BEVEL]、[MITTER]、[ROUND] があります。

(4) [色指定] で、ペン色を選択します。
ペン色には、黒、赤、白があります。

補 足 この設定は、[プロットオプション] タブで [カラー出力する] にチェックマークを付けたときに有効です。

6. [ペン設定（一括）] タブを選択し、設定をします。
このタブでは、指定した範囲のペン属性を一括して変更できます。



(1) [ペン番号] に一括して変更するペン番号を、1 ～ 32 の範囲で入力します。

補 足 ペン幅はデータが HP-GL のときに有効です。

(2) [ペン幅] で、ペン幅を、0 ～ 511dot の範囲で入力します。

補 足 単位はプロッターの dot 値です。

(3) [終端処理] で、線の終端形状を選択します。
[SQUARE]、[ROUND]、[EXTEND]、[TRIANGLE] があります。

(4) [結合処理] で、線と線の接続形状を選択します。
[UNJOINT]、[BEVEL]、[MITTER]、[ROUND] があります。

(5) [色指定] で、ペン色を選択します。
ペン色には、黒、赤、白があります。

補 足 この設定は、[プロットオプション] タブで [カラー出力する] にチェックマークを付けたときに有効です。

7. ［サイズ設定］タブを選択し、出力用紙サイズの設定をします。



(1) **［用紙系列］で、用紙の種類を指定します。**
［JIS A］、［特 A］、［ARCH］があります。

(2) **［サイズマッピング］で、入力サイズごとのスケールサイズを入力します。**
サイズマッピングには、サイズ別出力と同一サイズ出力があります。
サイズ別出力の場合は、各［出力］で、用紙サイズを選択します。
同一サイズ出力では、すべての出力ファイルを同一サイズに出力するためのスケールサイズを入力します。

(3) **同一サイズ出力の場合は、［用紙カット方法］で、用紙カット方法を選択します。**

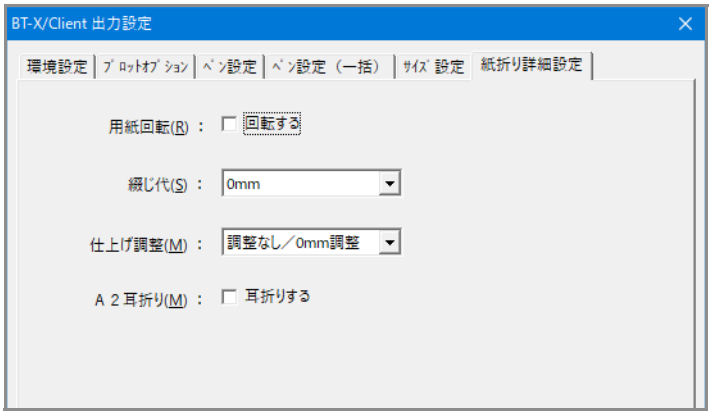
(4) **［ロールマッピング］では、出力サイズごとに、出力ロール／カット紙を選択します。**
各［出力ロール／カット］で、用紙サイズを選択します。

補 足 出力サイズで設定したサイズに対して、適切な出力ロールサイズを入力してください。適切なロールサイズについては、次の表を参照してください。

	出力サイズ	適切なロールサイズ
JIS A系	A0	A0
	A1	A0またはA1
	A2	A1またはA2
	A3	A2またはA3
	A4	A3またはA4
	A0L	A0
	A1長尺	A1
	A2長尺	A2
	A3長尺	A3
	A4長尺	A3

	出力サイズ	適切なロールサイズ
特A系	特A0	特A0
	特A1	特A0または特A1
	特A2	特A1または特A2
	A3	特A2またはA3
	A4	A3またはA4
	特A0長尺	特A0
	特A1長尺	特A1
	特A2長尺	特A2
	A3長尺	A3
	A4長尺	A3
ARCH系	E	E
	D	D
	A2	A1またはA2
	A3	A2またはA3
	A4	A3またはA4
	E長尺	E
	D長尺	D
	A2長尺	A2
	A3長尺	A3
	A4長尺	A3

8. ［紙折り詳細設定］タブを選択し、設定をします。



補 足 ・［プロットオプション］タブの［紙折り］で、［ファン折り］、［ファン折り（単方向）］、［クロス折り］、［クロス折り（単方向）］のどれかが設定されていると、表示されます。
・出力対象になるプロッターに、フォルダーが接続されているときに設定できます。

◆ ファン折りの場合

(1) ［回転する］にチェックマークを付けると、丁合出力時に、配布先ごとに用紙が 90° 回転して出力します。

(2) ［綴じ代］で、とじしろ値を選択します。
［0mm］、［20mm］、［25mm］、［30mm］、［50mm］があります。

補 足 A2 サイズは、とじしろを設定しても 18mm になります。A3 サイズは、とじしろを設定できません。

(3) [仕上げ調整] で、仕上げ調整を選択します。
[調整なし／ 0mm 調整]、[+5mm 調整]、[-5mm 調整] があります。

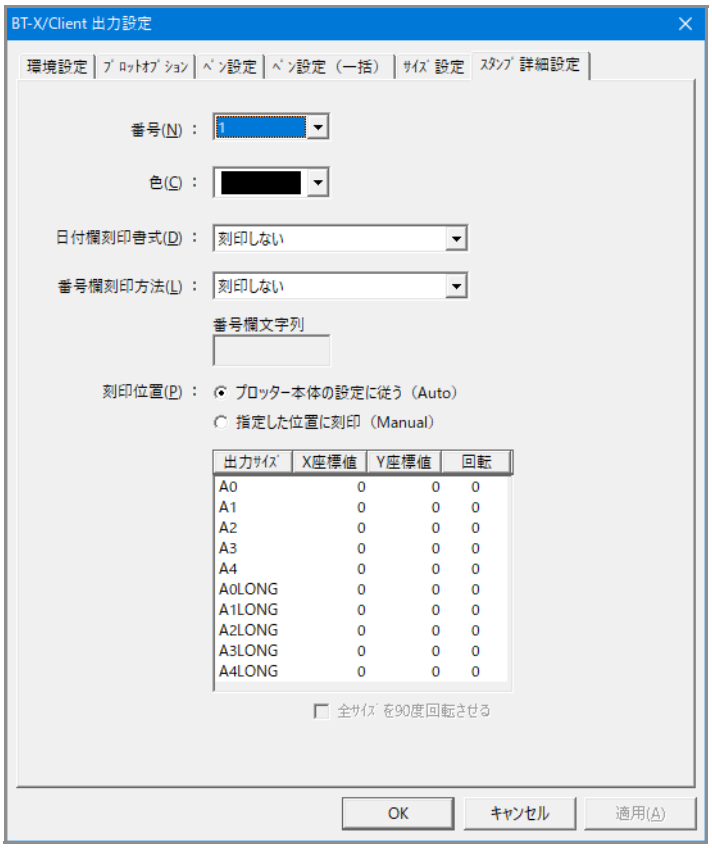
(4) [耳折りする] にチェックマークを付けると、A2 サイズは耳折りされます。
クロス折りの場合、次の項目を設定します。

(5) [回転する] にチェックマークを付けると、丁合出力時に配布先ごとに用紙が 90° 回転して出力します。

◆ 特殊折りの場合

(1) [回転する] にチェックマークを付けると、丁合出力時に配布先ごとに用紙が 90° 回転して出力します。

9. [スタンプ詳細設定] タブを選択し、設定をします。



補足 ・[プロットオプション] タブの [スタンプ出力] で、[押印しない] 以外に設定されていると、このタブは表示されます。
・[スタンプの詳細設定] では、スタンプを 2 つ出力できるプロッターでも 1 つしか設定できません。

(1) [番号] で、スタンプ番号を入力します。

補足 本体のメモリーに読み込まれていないスタンプ番号も表示されます。

(2) [色] で、スタンプ色を選択します。
黒と赤があります。

(3) [日付欄刻印書式] で、スタンプの日付欄刻印を選択します。
[刻印しない]、[年 . 月 . 日で刻印する]、[月 . 日 . 年で刻印する]、[日 . 月 . 年で刻印する] があります。

(4) [番号欄刻印方法] で、スタンプの番号欄刻印を選択します。
[刻印しない]、[データ中の文字列を刻印する]、[指定文字列を刻印する]、[セット番号を指定文字列に付加する] があります。

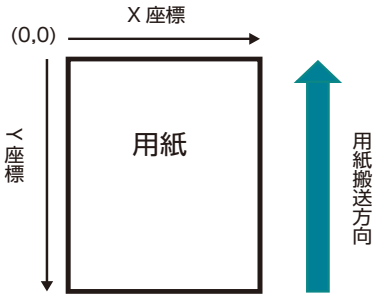
補足 [セット番号を指定文字列に付加する] に設定すると、指定した文字列に続けて連番を刻印します。

(5) [指定文字列を刻印する] または [セット番号を指定文字列に付加する] を選択した場合は、[番号欄文字列] に、印字する文字列を入力します。

補足 最大半角 12 文字まで設定できます。
入力可能な文字は、スペース (空白文字)、A ～ Z、#、$、%、&、'、(、)、-、,、/、|、0 ～ 9 です。

(6) [刻印位置] で、[プロッター本体の設定に従う（Auto)] または [指定した位置に刻印（Manual)] を選択します。
[プロッター本体の設定に従う（Auto)] を選択すると、本体に設定されている位置に、スタンプが刻印されます。

(7) [指定した位置に刻印] を選択した場合は、出力サイズごとにスタンプの刻印位置（X 座標、Y 座標）およびスタンプの回転について入力します。

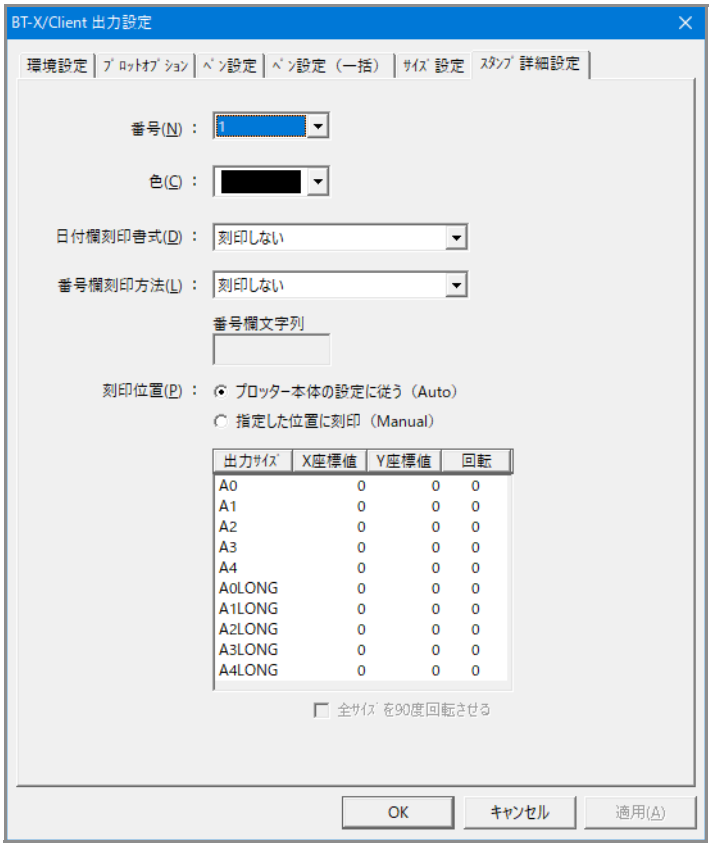


それぞれの項目欄をダブルクリックして表示される入力ボックスに、スタンプの刻印位置の値を入力します。

補 足 ・単位は mm です。
・スタンプ刻印位置の座標は用紙の搬送方向に関係しています。データ中の実座標とは関係ありません。上図を参照してください。
出力サイズとは、実際に出力されるサイズ（[サイズ設定] タブで出力用紙サイズを設定した場合は、設定後のサイズ）のことです。

(8) [全サイズを 90° 回転させる] にチェックマークを付けると、すべてのサイズが 90° 回転されます。

10. [カラー詳細設定] タブを選択します。



補 足 [プロットオプション] タブで [カラー出力する] にチェックマークを付けると、表示されます。

(1) [入力データのカラーコマンドを無効とする] をチェックすると、ラスターデータの出力色を設定できます。
出力色には、白、黒、赤があります。

補 足 ラスターデータの出力色は、[ペン設定] タブで設定します。

(2) [入力データのカラーコマンド設定を有効とする] にチェックマークを付けると、ベクターデータとラスターデータのカラーマッピングを設定できます。
出力色には、白、黒、赤があります。

11. [OK] をクリックします。
確認の画面が表示されます。

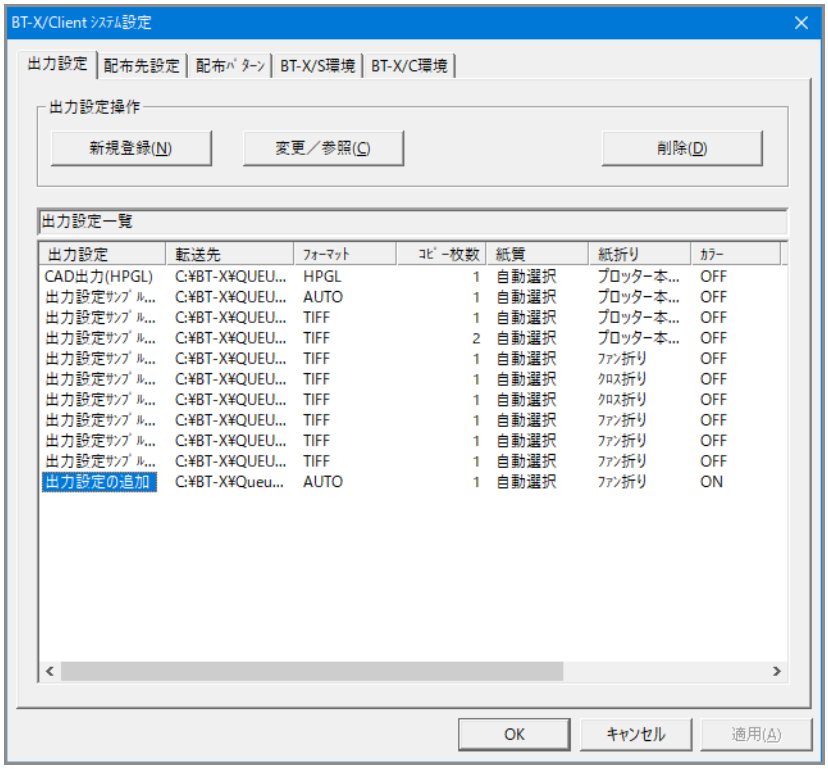
12. [OK] をクリックします。
[BT-X/Client システム設定] 画面が表示され、[出力設定一覧] に設定した内容が反映されます。

13. [OK] をクリックします。
[BT-X/Client システム設定] 画面に戻ります。

3.5.2 出力設定の変更／参照

1. [BT-X/Client] 画面の [システム設定] をクリックします。
[BT-X/Client システム設定] 画面の [出力設定] タブが表示されます。

2. [出力設定一覧] から変更、または参照したい出力設定を選択し、[変更／参照] をクリックします。



[BT-X/Client 出力設定] 画面が表示されます。

以降の操作は、新規登録と同様です。

3.5.3 出力設定の削除

1. [BT-X/Client] 画面の [システム設定] をクリックします。
[BT-X/Client システム設定] 画面の [出力設定] タブが表示されます。

2. [出力設定一覧] から、削除したい出力設定を選択し、[削除] をクリックします。
確認の画面が表示されます。

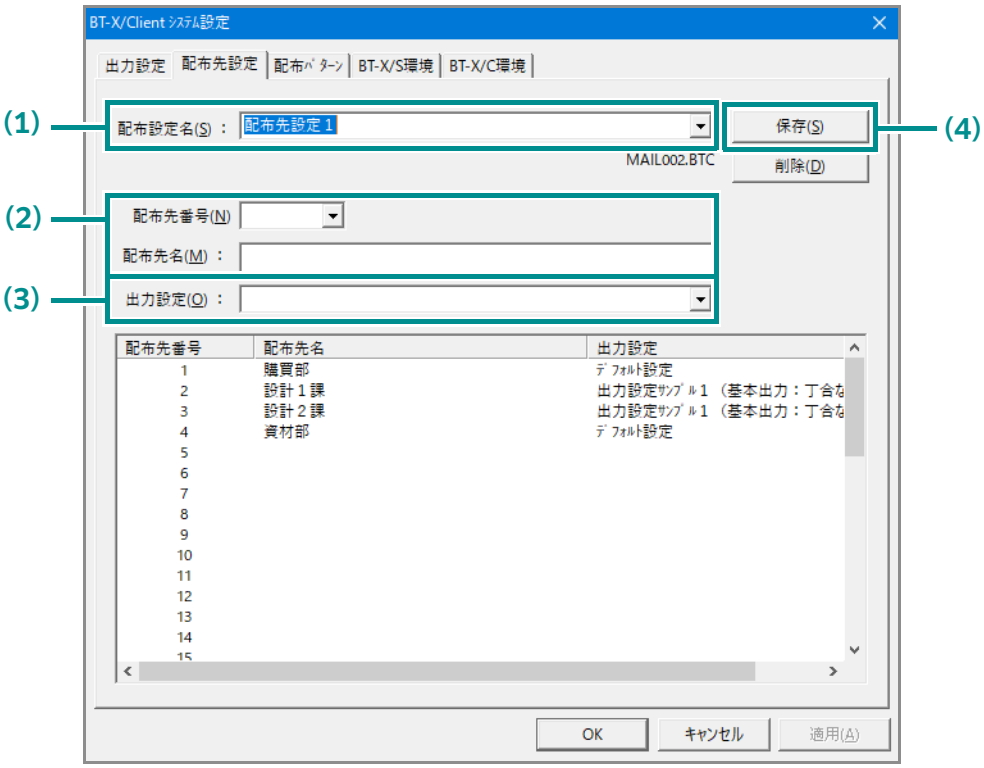
3. [はい] をクリックします。
[BT-X/Client システム設定] 画面に戻ります。

3.5.4 配布先設定の登録

1. [BT-X/Client] 画面の［システム設定］をクリックします。
[BT-X/Client システム設定] 画面が表示されます。

2. [配布先設定] タブを選択します。

3. 配布先設定では、1 ～ 40 の配布先に対して名称と出力設定を設定します。



(1) 配布先設定名を入力します。

補足 最大半角 80 文字まで設定できます。

(2) 設定する配布先番号を選択し、配布先名を入力します。

(3) 出力設定を選択します。

補足 何も指定しない場合は、出力指示を行ったときの出力設定が割り当てられます。

(4) [保存] をクリックします。
設定が登録されます。

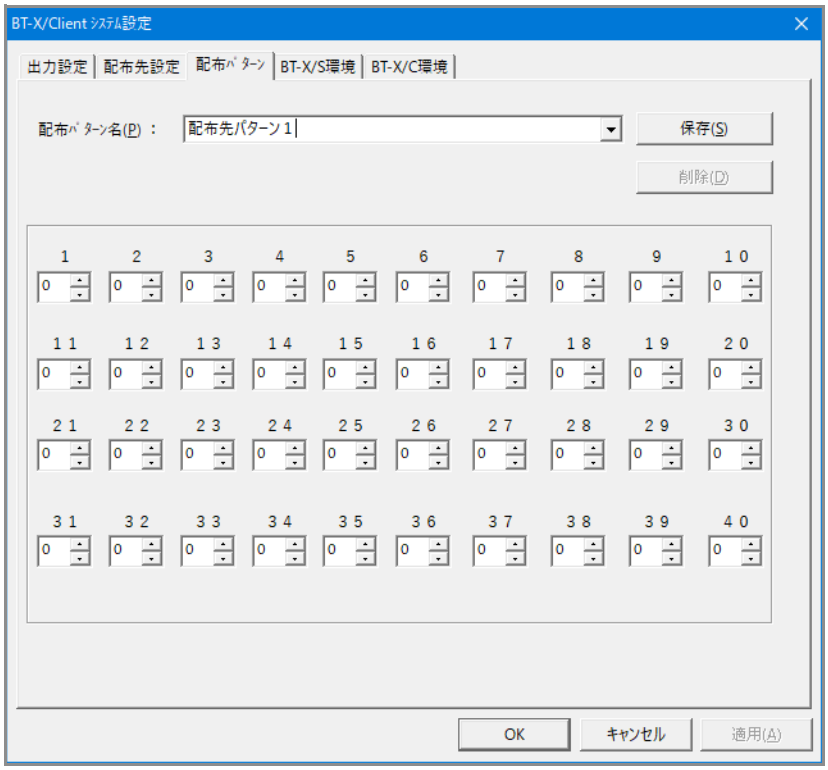
補足 [OK] をクリックすると、設定した内容が保存されないで、システム設定画面が終了するので、注意してください。

3.5.5　配布先設定の削除

1. [BT-X/Client] 画面の［システム設定］をクリックします。
   [BT-X/Client システム設定] 画面が表示されます。
2. [配布先設定] タブを選択します。
3. [配布設定名] で削除したい配布先設定名を選択し、[削除] をクリックします。
   確認の画面が表示されます。
4. [はい] をクリックします。
   [BT-X/Client システム設定] 画面に戻ります。

3.5.6　配布パターンの登録

1. [BT-X/Client] 画面の［システム設定］をクリックします。
   [BT-X/Client システム設定] 画面が表示されます。
2. [配布パターン] タブを選択します。
3. [配布パターン] タブでは、1 ～ 40 の配布先に対して配布する部数を設定して、[保存] をクリックします。



(1) [配布パターン名] で、登録する配布パターンの名称を入力します。

補足　最大半角 80 文字まで設定できます。

(2) 配布先の番号に、配布部数を入力します。設定値を入力欄に直接入力するか、または上下矢印をクリックして入力します。

補足　・[OK] をクリックすると、設定した内容が保存されないでシステム設定画面が終了するので、注意してください。
・入力できる最大部数は 99 です。

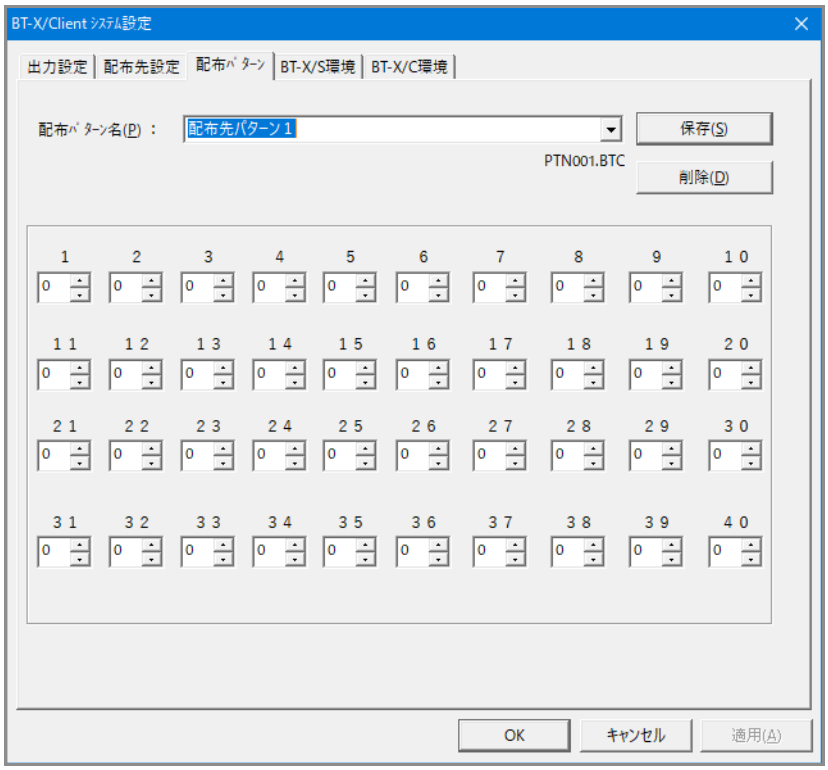
4. 確認の画面が表示されるので、[OK] をクリックします。
   [BT-X/Client システム設定] 画面に戻ります。

3.5.7　配布パターンの削除

1. [BT-X/Client] 画面の［システム設定］をクリックします。
   [BT-X/Client システム設定] 画面が表示されます。

2. [配布パターン] タブを選択します。
   [配布パターン] タブが表示されます。

3. [配布パターン名] で、削除したい配布パターン名を選択して、[削除] をクリックします。



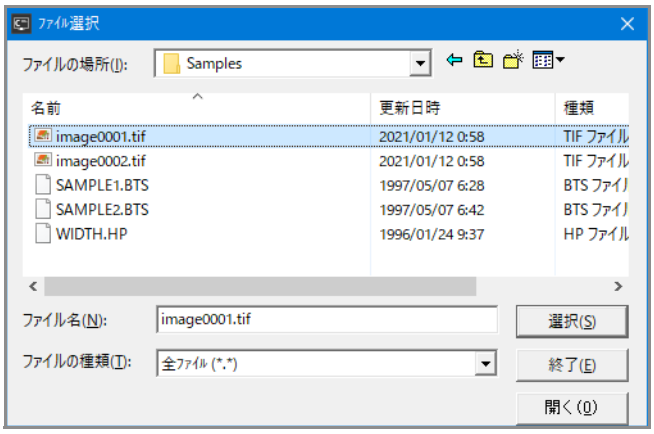
確認の画面が表示されます。

4. [はい] をクリックします。
   [BT-X/Client システム設定] 画面に戻ります。

3.5.8　ファイル選択（選択）

出力ファイルをコンピューターのドライブから選択します。

1. ［BT-X/Client］画面の［選択］をクリックします。
   ［ファイル選択］画面が表示されます。
2. 出力ファイルを選択し、［選択］をクリックします。



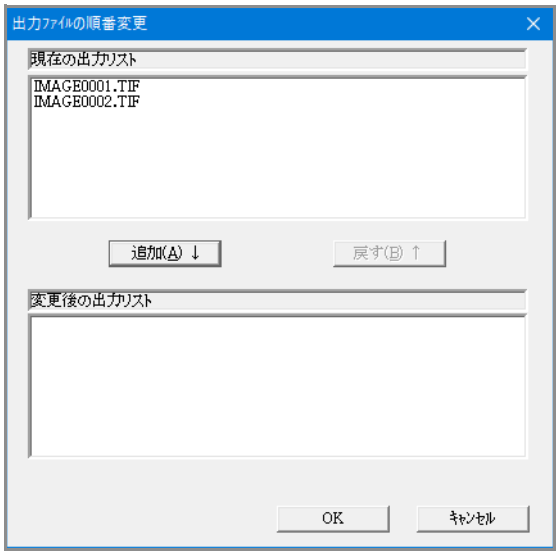
選択されたファイルが［BT-X/Client］画面に表示されます。

補足　［終了］をクリックすると、選択されたファイルが表示されないで、［BT-X/Client］画面に戻ります。

3.6　出力ファイル操作（順番変更）

出力するファイルの順番を変更できます。

1. ［BT-X/Client］画面に出力ファイルが表示されている状態で、［順番変更］をクリックします。
   ［出力ファイルの順番変更］画面が表示されます。
2. 順番を変更して、［OK］をクリックします。



・［現在の出力リスト］に表示されているファイルをダブルクリックするか、ファイルをクリックして［追加］をクリックすると、指示された順番で［変更後の出力リスト］に、ファイルが表示されます。
・［変更後の出力リスト］に表示されたファイルを元の［現在の出力リスト］に戻すには、ファイルをダブルクリックするか、ファイルをクリックして［戻す］をクリックします。

［変更後の出力リスト］の順番で、［BT-X/Client］画面に表示されます。

3.7　出力ファイル操作（削除）

出力ファイルを出力対象から除外できます。

1. [BT-X/Client] 画面に出力ファイルが表示されている状態でファイルを選択して、[削除] をクリックします。



確認の画面が表示されます。

2. [はい] をクリックします。
選択されたファイルが削除されて、[BT-X/Client] 画面に戻ります。

3.8　出力ファイル操作（出力）

出力するファイルをBT-X/Sに送ります。

1. [BT-X/Client] 画面に出力ファイルが表示されている状態で [出力] をクリックします。



出力ファイルが BT-X/S に転送され、確認の画面が表示されます。

2. [OK] をクリックします。
[BT-X/Client] 画面に戻ります。

3.9 一時的な設定の変更（ファイルごと）

ペン幅やカラー出力などの設定をファイルごとに、一時的に変更できます。

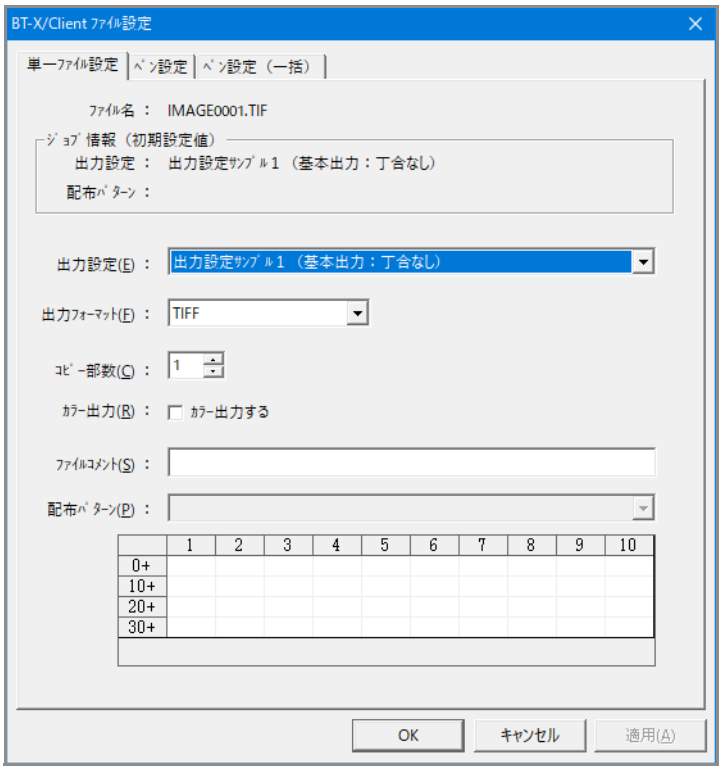
補足 ここで設定した内容は、一度出力を実行するとすべてクリアされます。この設定を行ったあと「ジョブの登録／変更」を行うと、この設定内容はすべて取り消されます。

1. [BT-X/Client] 画面の出力ファイル一覧に表示されている出力ファイルをダブルクリックします。



[BT-X/Client ファイル設定] 画面が表示されます。

2. [単一ファイル設定] タブで、単一ファイルの設定をします。



(1) [出力設定] で、変更したい出力設定を選択します。

補足 出力設定に設定されている内容で有効になるのは、ペン関連、カラー関連、コピー部数です。それ以外の設定は無視されます。

(2) [出力フォーマット]、[コピー部数]、[カラー出力] を入力します。

参照 設定の詳細については、「3.5.1 出力設定の登録」(P.30)を参照してください。

(3) [ファイルコメント] にファイルのコメントを入力します。

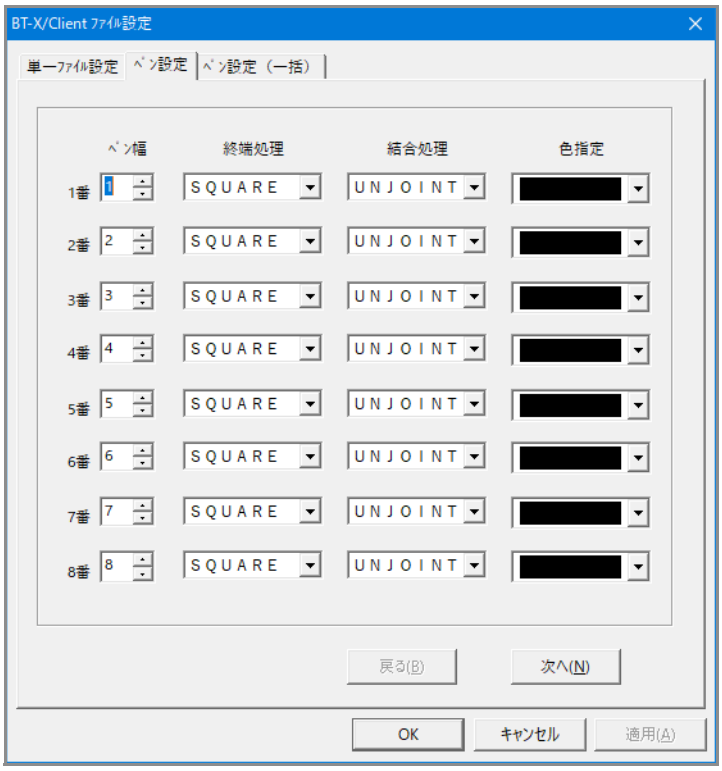
補足 最大半角 80 文字まで設定できます。

(4) [配布パターン] で、変更したい配布パターンを選択します。
入力された配布パターンの設定内容が一覧表示されます。

参照 設定の詳細については、「3.5.6 配布パターンの登録」(P.41)を参照してください。

配布パターンの設定内容を変更するには、表示されている値をクリックします。左クリックすると値が増え、右クリックすると値が減ります。

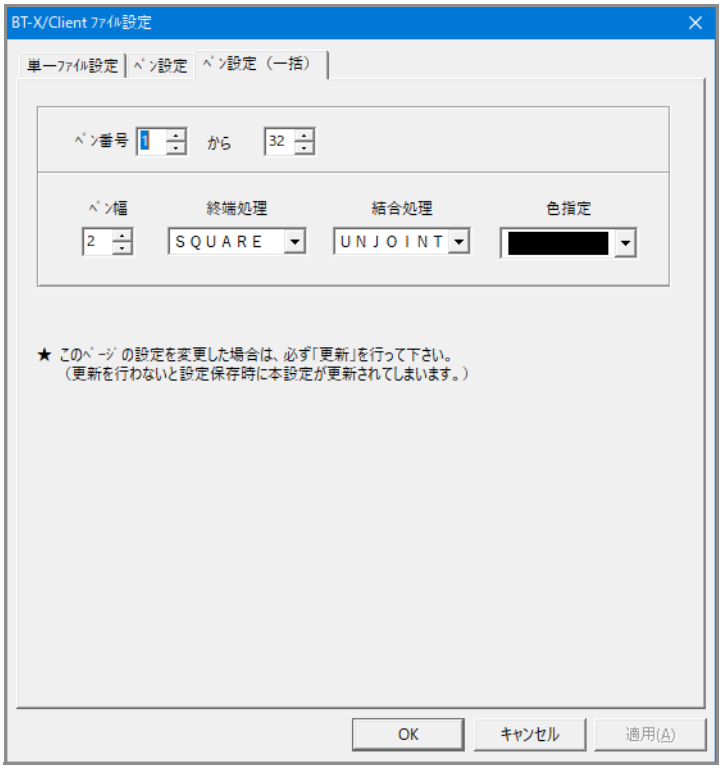
3. [ペン設定] タブを選択し、設定をします。



(1) [ペン幅]、[終端処理]、[結合処理]、[色指定] を設定します。

参照 設定の詳細については、「3.5.1 出力設定の登録」(P.30)を参照してください。

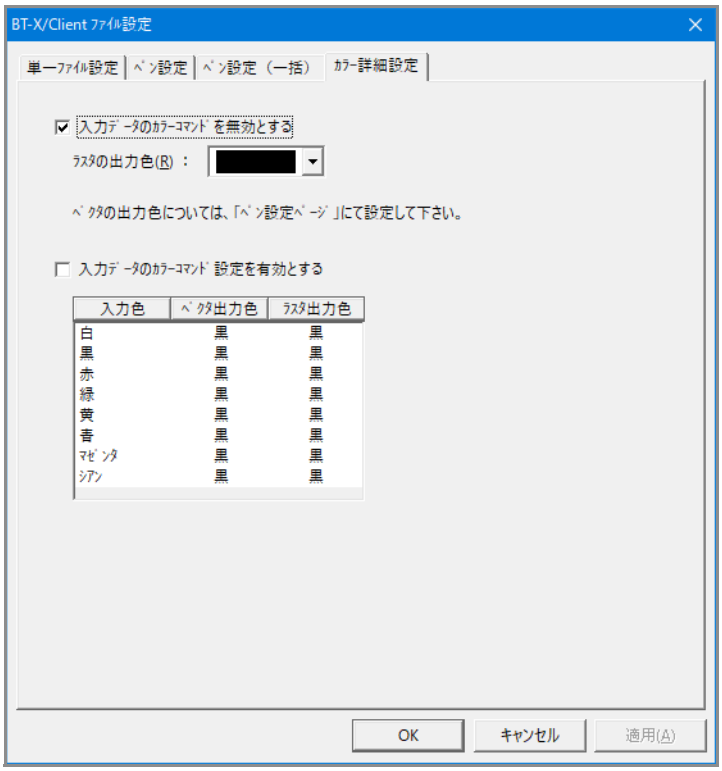
4. [ペン設定（一括）] タブを選択し、設定をします。



(1) [ペン幅]、[終端処理]、[結合処理]、[色指定] を一括して設定します。

参照 設定の詳細については、「3.5.1 出力設定の登録」（P.30）を参照してください。

5. [カラー詳細設定] タブを選択し、設定をします。



補足 [カラー詳細設定] タブは、[単一ファイル設定] タブで [カラー出力する] にチェックマークを付けている場合に表示されます。

(1) 各種カラー設定を設定します。

参照 設定の詳細については、「3.5.1 出力設定の登録」（P.30）を参照してください。

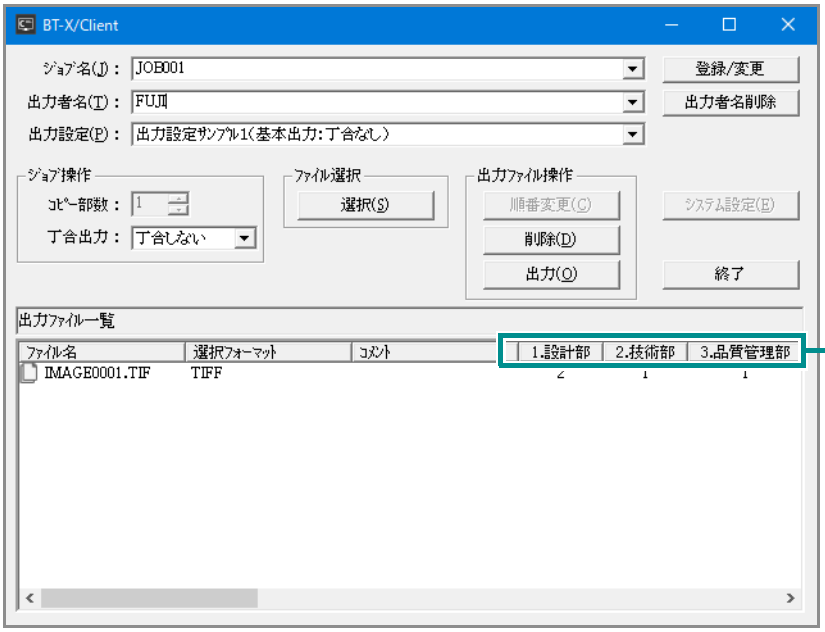
6. [OK] をクリックします。
設定内容が一時的に保持されて、[BT-X/Client] 画面に戻ります。

3.10　一時的な設定の変更（配布先ごと）

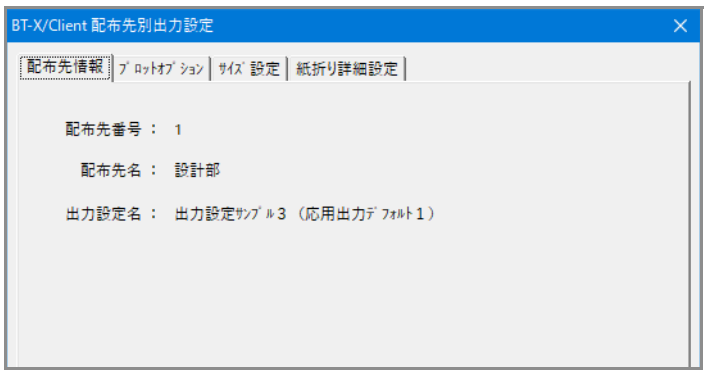
配布先ごとの設定を一時的に変更できます。

補足　ここで設定した内容は、一度出力を実行するとすべてクリアされます。配布先ごとの設定は、ジョブ設定で [応用出力] が選択されている場合に行うことができます。この設定を行ったあと、[ジョブの登録／変更]、[システム設定] を行うと、この設定内容はすべてクリアされます。

1. [BT-X/Client] 画面に出力ファイルが表示されている状態で、出力ファイル一覧の配布先名をダブルクリックします。



[BT-X/Client 配布先別出力設定] 画面の [配布先情報] タブが表示されます。



[配布先情報] タブには、クリックした配布先に対する [配布先番号]、[配布先名]、[出力設定名] が表示されます。

2. [プロットオプション] タブを選択し、設定をします。



(1) 各項目を設定します。

参照 設定の詳細については、「3.5.1 出力設定の登録」(P.30)を参照してください。

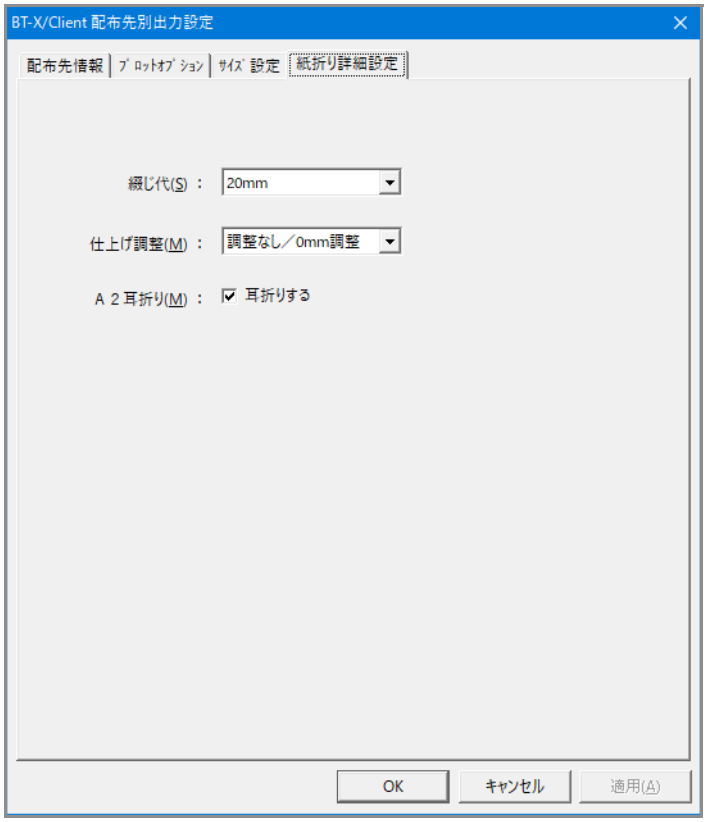
3. [サイズ設定] タブを選択し、設定をします。



(1) 各項目を設定します。

参照 設定の詳細については、「3.5.1 出力設定の登録」(P.30)を参照してください。

4. ［紙折り詳細設定］タブを選択し、設定をします。

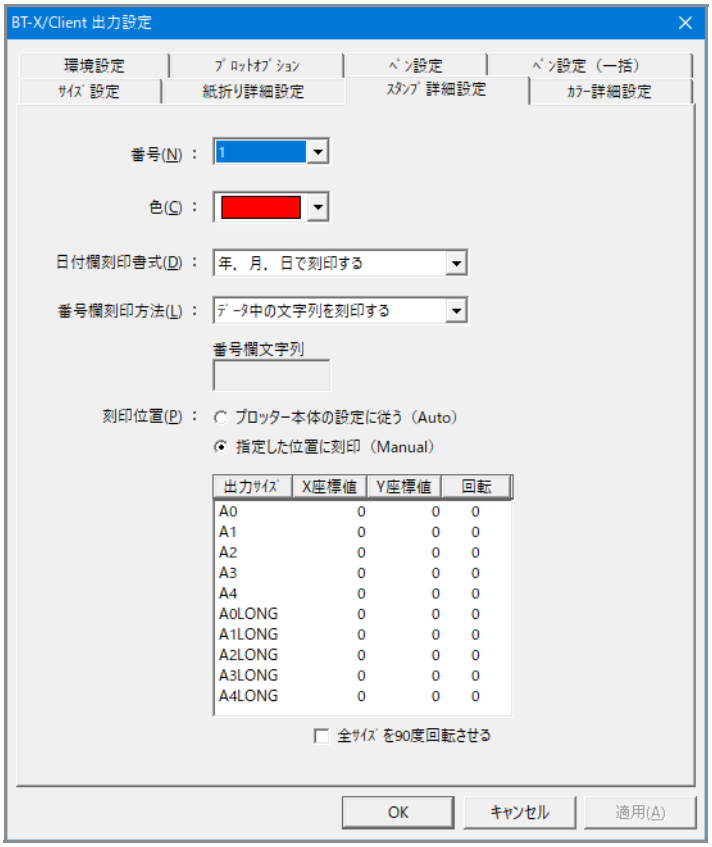


補 足 ［紙折り詳細設定］タブは、［プロットオプション］タブで［紙折り］が設定されているときに表示されます。

(1) 各項目を設定します。

参 照 設定の詳細については、「3.5.1 出力設定の登録」（P.30）を参照してください。

5. ［スタンプ詳細設定］タブを選択し、設定をします。



補足 ［スタンプ詳細設定］タブは、［プロットオプション］タブの［スタンプ出力］で、［押印しない］以外に設定されているときに表示されます。

(1) 各項目を設定します。

参照 設定の詳細については、「3.5.1 出力設定の登録」（P.30）を参照してください。

6. ［OK］をクリックします。
設定内容が一時的に保持されて、［BT-X/Client］画面に戻ります。

3.11 操作例

BT-X/Cの操作例について説明します。

3.11.1 基本的な出力（丁合なし）

1. 出力設定を登録します。
2. ジョブを登録します。
(1) 基本出力を選択します。
(2) ジョブ名を入力します。
(3) 出力設定を選択します。
(4) コメントを入力します。
3. ジョブを選択します。
4. ［ファイル設定］の［選択］で出力ファイルを選択します。
5. ［出力ファイル操作］の［出力］を実行します。

3.11.2 丁合出力

1. 出力設定を登録します。
(1) ［丁合出力する］に設定します。
(2) 丁合する部数を入力します。
2. ジョブを登録します。
(1) 基本出力を選択します。
(2) ジョブ名を入力します。
(3) 出力設定を選択します。
(4) コメントを入力します。
3. ジョブを選択します。
4. ［ファイル設定］の［選択］で出力ファイルを選択します。
5. ［出力ファイル操作］の［出力］を実行します。

3.11.3　プログラム丁合出力（配布先ごとの丁合出力）

1. 出力設定を登録します。

(1) 丁合出力するに設定します。

2. 配布先設定を登録します。

3. 配布パターンを登録します。

4. ジョブを登録します。

(1) 応用出力を選択します。

(2) ジョブ名を入力します。

(3) 出力設定を選択します。

(4) 配布先設定を選択します。

(5) 配布パターンを選択します。

(6) コメントを入力します。

5. ジョブを選択します。

6. ［ファイル設定］の［選択］で出力ファイルを選択します。

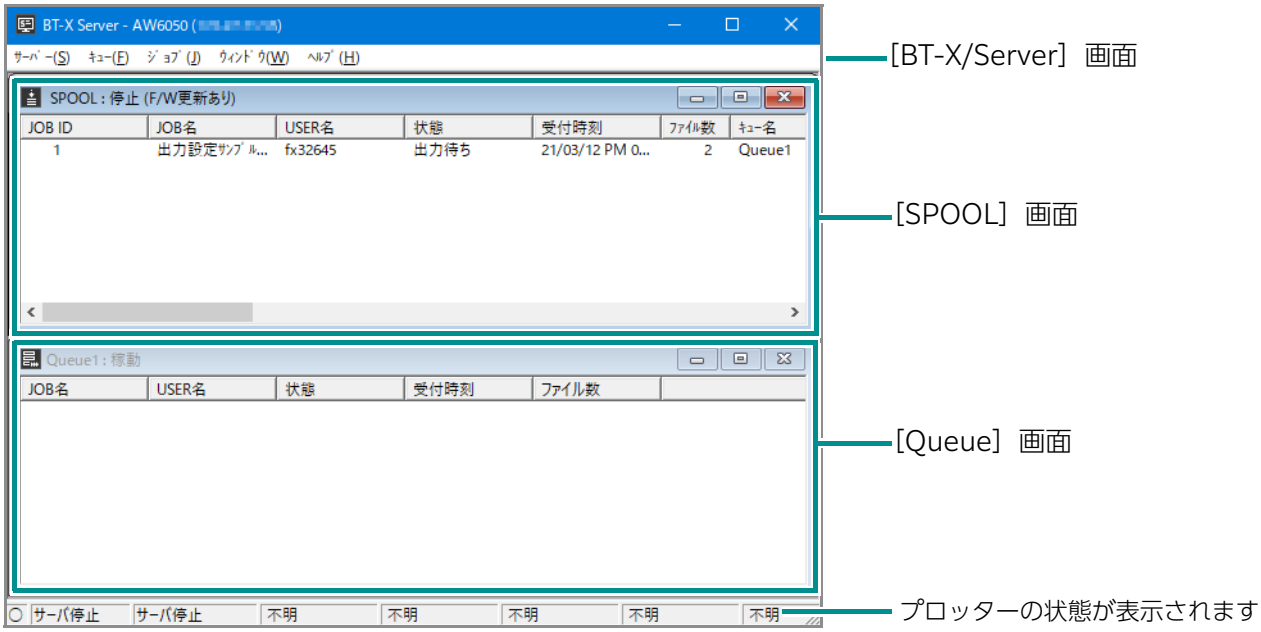
7. ［出力ファイル操作］の［出力］を実行します。

4 BT-X/S

4.1 ［BT-X/Server］画面の説明

ここでは、BT-X/Sのメイン画面である［BT-X/Server］画面について説明します。

参照 BT-X/S の起動については、［2.4.2 BT-X/S の起動］（P.22）を参照してください。



［BT-X/Server］画面

［BT-X/Server］画面は、メニューからBT-X/Sの各種操作および設定を行う画面です。各メニューからは、次の操作および設定ができます。

・［サーバー］メニュー
　サーバー起動、サーバー停止、サーバー設定、ログ管理、パラメータ管理、BTX の終了
・［キュー］メニュー
　キュー起動、キュー停止、キュー設定、新規作成、キュー削除
・［ジョブ］メニュー
　保留、再開、優先変換、優先出力、強制出力、削除
・［ウィンドウ］メニュー
　重ねて表示、並べて表示、アイコンの整列
・［ヘルプ］メニュー
　バージョン情報

また、［BT-X/Server］画面のフレーム下部には、接続されているプロッターの現在の状態が表示されます。表示される内容と意味は、次のとおりです。

・プロッターの受け付け状態

表示項目	説明
ONLINE	接続先のプロッターがオンライン状態です。
OFFLINE	接続先のプロッターがオフライン状態です。
接続失敗	プロッターとの接続が失敗しました。プロッター本体の状態や電源が入っているかを確認してください。

・プリンターの状態

表示項目	説明
READY	プリンターが待機中です。
RUNNING	プリンターがプリント中です。
WARM UP	プリンターがウォームアップ中です。
OFFLINE	プリンターがオフラインの状態です。操作パネルを見て、原因を確認してください。
POWER SAVING	プリンターが節電モードまたはスリープモードに入っています。
SERVICE CALL	カストマーコンタクトセンターに連絡してください。
JAM ERROR	プリンターに紙づまりが発生しました。紙づまりの原因になっている用紙を取り除いてください。
TONER ERROR	プリンターのトナーがなくなりました。
DOOR OPEN	プリンターのドアが開いています。プリンターのドアを閉じてください。
POWER OFF	プリンターの電源が入っていません。
NO PAPER	プリンターに用紙がありません。用紙がなくなったトレイに用紙を補給してください。
UNKNOWN ERROR	プリンターに回復できない障害が発生しました。プリンターの電源を切り、再度電源を入れてください。回復しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターに連絡してください。
接続失敗	プリンターとの接続が失敗しました。プリンター本体の状態や電源が入っているかを確認してください。

［SPOOL］画面

［SPOOL］画面は、BT-X/S全体での処理結果が表示される画面です。［SPOOL］画面は、BT-X/S に1つだけ存在します。表示される内容は、次のとおりです。

補足 それぞれの項目の表示幅は、項目欄をクリックすることで、表示幅を自由に変更できます。表示されない項目は、表示幅を変更してください。

・JOB ID
BT-X/S で任意に付けられる番号を表示します。

・JOB 名
ジョブ名を表示します。

・USER 名
ユーザー名を表示します。

・状態
処理状態を表示します。

表示項目	説明
受信中	キューにデータを受信しています。
受信終了	キューへのデータ受信を終了しました。
変換待ち	データ変換を待っています。
変換中	データ変換を行っています。
出力待ち	プロッターへの送信を待っています。
送信中	プロッターへ送信しています。
送信終了	プロッターへの送信を終了しました。

表示項目	説明
出力終了	出力先プロッターへの出力が終了しました。
削除	ジョブを削除しました。
保留	ジョブを保留しました。
優先出力	指定されたジョブを優先的に出力します。
タイムアウト	一定時間を経過してもデータがキューに到着しませんでした。
変換エラー	データ変換でエラーが発生しました。
PJ Sheet エラー	PJ Sheetの記述に誤りがあります。

・受付時刻
ジョブを受け付けた時刻を表示します。
・ファイル数
ジョブで受け付けたデータ数を表示します。
・キュー名
ジョブを受け付けたキュー名称を表示します。
・コメント 1 ～ 15
ジョブコメントを表示します。

［Queue］画面

［Queue］画面は、キューごとの処理状況が表示される画面です。

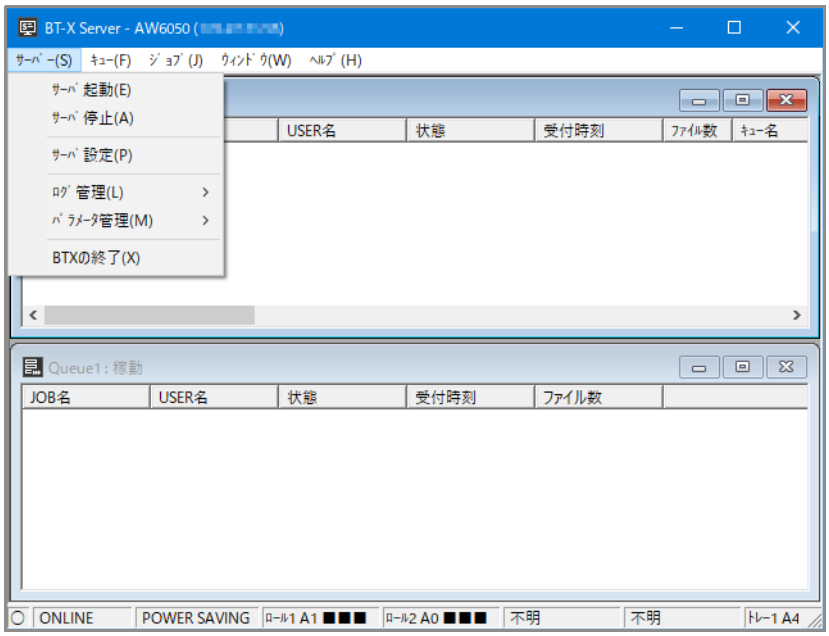
［Queue］画面は、キューの数と同じ数だけ存在します。

補足 それぞれの項目の表示幅は、項目欄をクリックすることで、自由に変更できます。表示されない項目は、表示幅を変更してください。

・JOB 名
ジョブ名を表示します。
・USER 名
ユーザー名を表示します。
・状態
処理状態を表示します。表示内容は［SPOOL］画面と同様です。
・受付時刻
ジョブを受け付けた時刻を表示します。
・ファイル数
ジョブで受け付けたデータ数を表示します。

4.2 ［サーバー］メニューの操作

［サーバー］メニューでは、BT-X/Sのサーバー機能の操作および設定を行います。



4.2.1 サーバーの起動

1. タイトルバーの状態が一時停止であることを確認します。

補足 サーバーが稼動中の場合には、サーバーの起動は実行できません。

2. ［サーバー］メニュー（P.56）の［サーバ起動］を選択します。

サーバーが起動され、タイトルバーの状態が、［稼動］に変わります。

4.2.2 サーバーの停止

1. タイトルバーの状態が稼動であることを確認します。

補足 サーバーが一時停止の場合には、サーバーの停止は実行できません。

2. ［サーバー］メニュー（P.56）の［サーバ停止］を選択します。

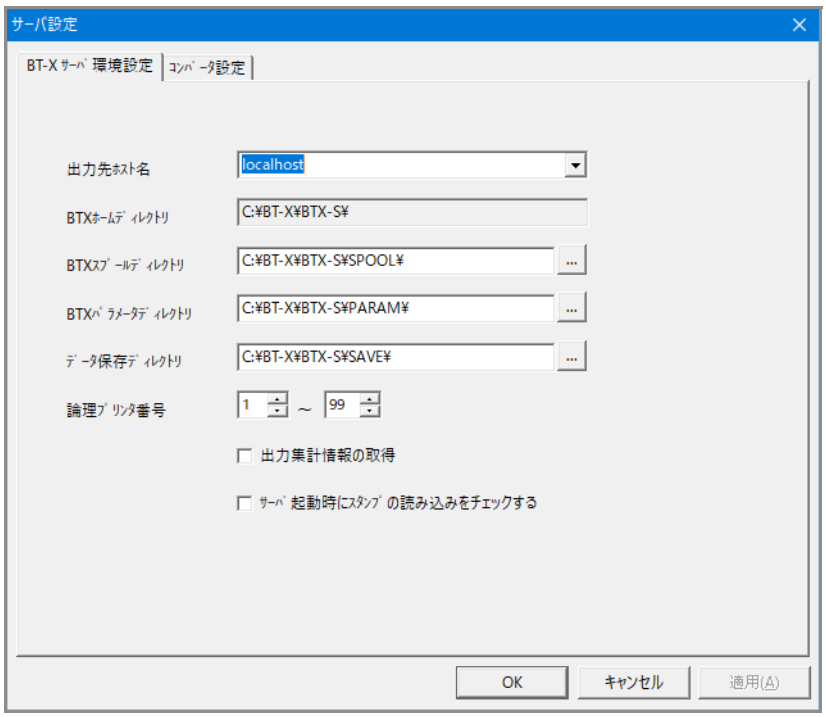
サーバーが停止され、タイトルバーの状態が、［停止］に変わります。

4.2.3 サーバーの設定

1. ［サーバー］メニュー（P.56）の［サーバ設定］を選択します。
［サーバ設定］画面が表示されます。

補 足 サーバーが稼動中の場合は、サーバーの停止を確認するメッセージが表示されます。

2. ［サーバ画面］画面で、［BT-X サーバ環境設定］タブをクリックします。



［BT-X サーバ環境設定］タブが表示されます。

補 足 設定方法は、キューの新規登録でのキュー用ディレクトリーの設定と同様です。設定の詳細については、［4.3.1 キューの新規作成］（P.61）を参照してください。

・出力先ホスト名または IP アドレスを入力します。出力先ホスト名は、出力するプロッターのホスト名のことです。
［出力先ホスト名］に登録されているホスト名が表示されます。

補 足
・IPv6 アドレスで登録することができます。
ただし、コントローラーのバージョンが 1.2.0 未満の FUJI XEROX DocuWide 9095α は、対応していません。
・ホスト名の登録は、事前に Windows のインストールディレクトリー下にある ¥system32¥drivers¥etc¥hosts ファイルで行ってください。

・［BTX ホームディレクトリ］に BT-X/S のホームディレクトリーを入力します。
・［BTX スプールディレクトリ］に BT-X/S のスプールディレクトリーを入力します。
・［BTX パラメータディレクトリ］に BT-X/S のパラメーターディレクトリーを入力します。
・［データ保存ディレクトリ］に BT-X/S のデータ保存先のディレクトリーを入力します。
・［論理プリンタ番号］に BT-X/S で使用するプロッターの論理プリンター番号の範囲を入力します。

補 足 ここで指定した論理プリンター番号は、BT-X/S 専用になるので、他のシステムで使用しないでください。

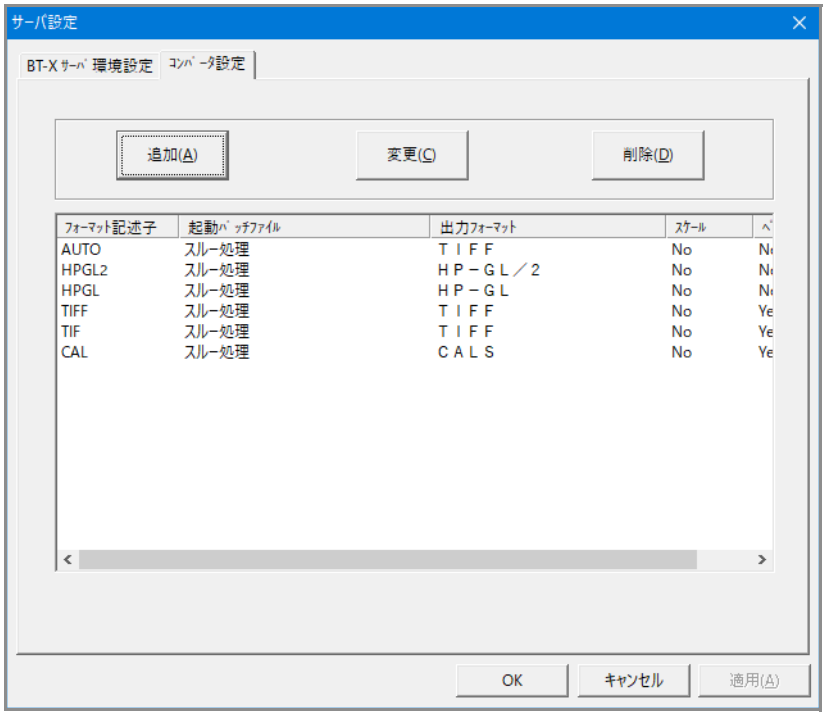
・出力集計情報を取得する場合は、［出力集計情報の取得］にチェックマークを付けます。

補 足
・他のシステムとプロッターを共存して使用する場合には、正常に出力集計情報を取得できないことがあるので、出力集計情報を取得しないでください。
・出力集計情報を取得する場合、取得しないときに比べて出力に時間がかかります。

・スタンプを押す場合は、［サーバ起動時にスタンプの読み込みをチェックする］にチェックマークを付けます。

補 足 本体にスタンプが読み込まれていない場合にサーバーを立ち上げると、エラーメッセージが表示され、サーバーが立ち上がりません。

3. ［コンバータ設定］タブを選択します。

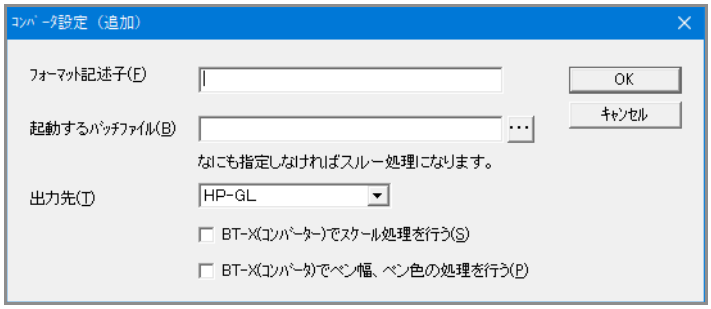


データフォーマットとそれに対応して起動されるバッチファイルの関連付けを行います。

新規で登録を行う場合は［追加］を、登録済みの内容を変更する場合は［変更］を、登録済みの内容を削除する場合は［削除］をクリックします。

補足 PS/PDF キットがあるプリンターに、PDF や PostScript ファイルを出力する場合は、［追加］をクリックして、新規に登録を行ってください。

4. ［コンバータ設定］タブで、［追加］または［変更］をクリックします。



内容を入力する［コンバータ設定（追加）］または［コンバータ設定（変更）］画面が表示されます。

・［フォーマット記述子］には、起動されるバッチファイルに対応した任意の名称を入力します。通常、データフォーマットを入力します。
また、フォーマット記述子に、［AUTO］を指定した場合、BT-X/S は、ファイルの拡張子と同じフォーマット記述子のデータとして処理します。

補足 フォーマット記述子として登録した名称は、BT-X/C の出力設定、および BT-X/S のキュー設定のデータフォーマットとして参照されます。

・［起動するバッチファイル］にフォーマット記述子に対応して起動されるバッチファイル名を入力します。入力は、［...］をクリックして表示される画面から選択します。
バッチファイルを起動しないで、そのままデータを出力する場合には、ここには何も入力しません。何も入力しないで［OK］をクリックすると、［スルー処理］と表示されます。

・［出力先］で、バッチファイル起動後のデータフォーマットを選択します。

・バッチファイル内で出力サイズにスケール処理を行う場合は、［BT-X（コンバーター）でスケール処理を行う］にチェックマークを付けます。

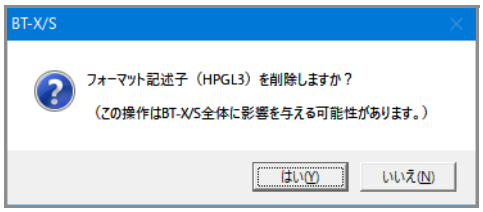
・バッチファイル内でペン幅やペン色の処理をする場合は、[BT-X（コンバータ）でペン幅、ペン色の処理を行う] にチェックマークを付けます。

5. [OK] をクリックします。
設定内容が確定されます。

6. [コンバータ設定] タブで削除するフォーマット記述子を選択し、[削除] をクリックします。
確認の画面が表示されます。

補足 削除すると、その拡張子のデータは出力できなくなります。BT-X/C や他のシステムに、そのフォーマット拡張子の登録がないことを確認したうえで、フォーマット記述子の削除を行ってください。

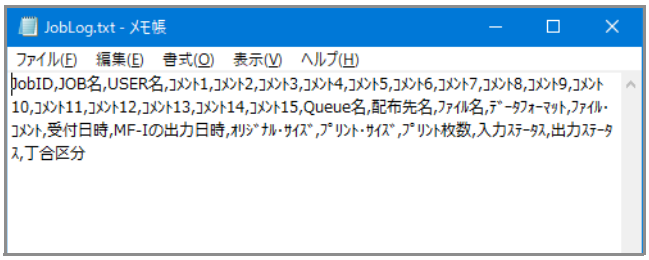
7. [はい] をクリックします。



選択されたフォーマット記述子が削除されます。

4.2.4 ログ管理（出力集計情報の参照）

1. [サーバー] メニュー（P.56）の [ログ管理] ＞ [出力集計情報を見る] を選択します。
出力集計情報が、メモ帳で表示されます。



参照 出力集計情報の詳細については、「8 出力集計情報」（P.127）を参照してください。

2. メモ帳の画面の [ファイル] メニューから、[メモ帳の終了] を選択します。
出力集計情報の画面が閉じます。

4.2.5 ログ管理（出力集計情報の削除）

1. [サーバー] メニュー（P.56）から、[ログ管理] の [出力集計情報を削除] を選択します。
サーバーが起動中の場合には、確認の画面が表示されます。

補足 サーバーが起動している状態では、出力集計情報を削除できません。

2. [はい] をクリックします。
サーバーが停止し、確認の画面が表示されます。

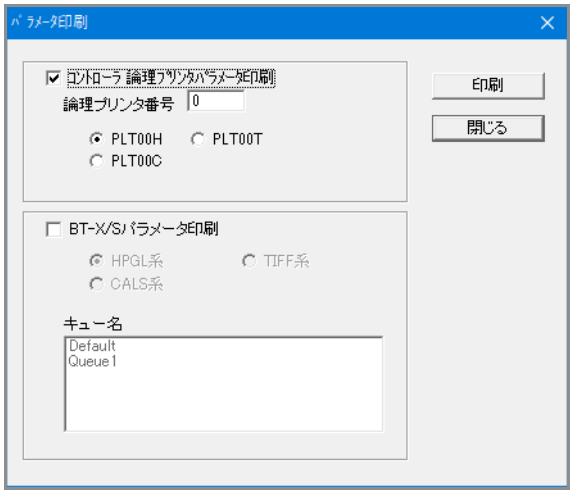
3. [はい] をクリックします。
出力集計情報の内容をバックアップしてから削除します。

補足 ・バックアップされた内容は、サーバーのホームディレクトリー下に「joblog 年 _ 月 _ 日 .txt」というファイル名で保存されます。
・[いいえ] をクリックするとバックアップしないで、出力集計情報を削除します。[キャンセル] をクリックすると、バックアップ、出力集計情報を削除しません。

4.2.6　パラメータ管理（パラメータの印刷）

1. ［サーバー］メニュー（P.56）から、［パラメータ管理］の［パラメータの印刷］を選択します。
［パラメータ印刷］画面が表示されます。

2. ［コントローラ論理プリンタパラメータ印刷］または［BT-X/S パラメータ印刷］にチェックマークを付けます。



［コントローラ論理プリンタパラメータ印刷］をチェックすると、プロッターの論理プリンターに設定されているパラメーター内容が印刷されます。

・［論理プリンタ番号］に 0 ～ 99 の範囲で数値を入力します。

・［PLT00H］（HP-GL 系）、［PLT00T］（TIFF 系）、［PLT00C］（CALS 系）のどれかを選択します。

参照　論理プリンターの詳細については、インターネットサービス（富士ゼロックス製の場合は CentreWare Internet Services）のヘルプを参照してください。

［BT-X/S パラメータ印刷］にチェックマークを付けると、BT-X/S のデフォルトおよびキューに設定されているパラメーター内容が印刷されます。

・［HP-GL 系］、［TIFF 系］、［CALS 系］のどれかを選択します。

・キュー名を入力します。

補足　Default とは、BT-X/S に設定されているデフォルトのパラメーターのことです。

3. ［印刷］をクリックします。
パラメーター内容が出力されます。

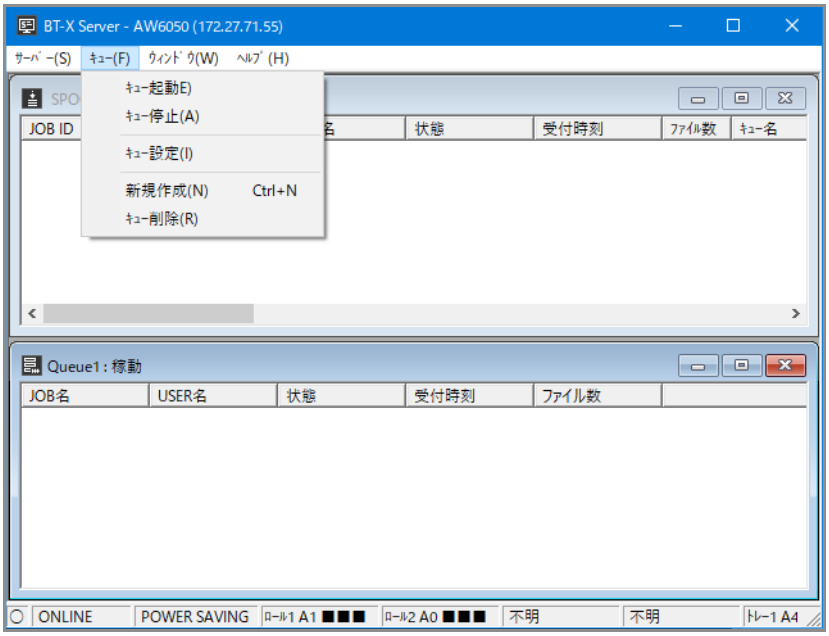
補足　［閉じる］をクリックすると、［BT-X/Server］画面に戻ります。

4.2.7　サーバーの終了

1. ［サーバー］メニュー（P.56）から、［BTX の終了］を選択します。
BT-X/S が終了します。

4.3 ［キュー］メニューの操作

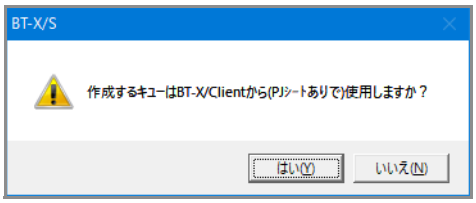
［キュー］メニューでは、BT-X/Sのキュー機能の操作および設定を行います。



4.3.1 キューの新規作成

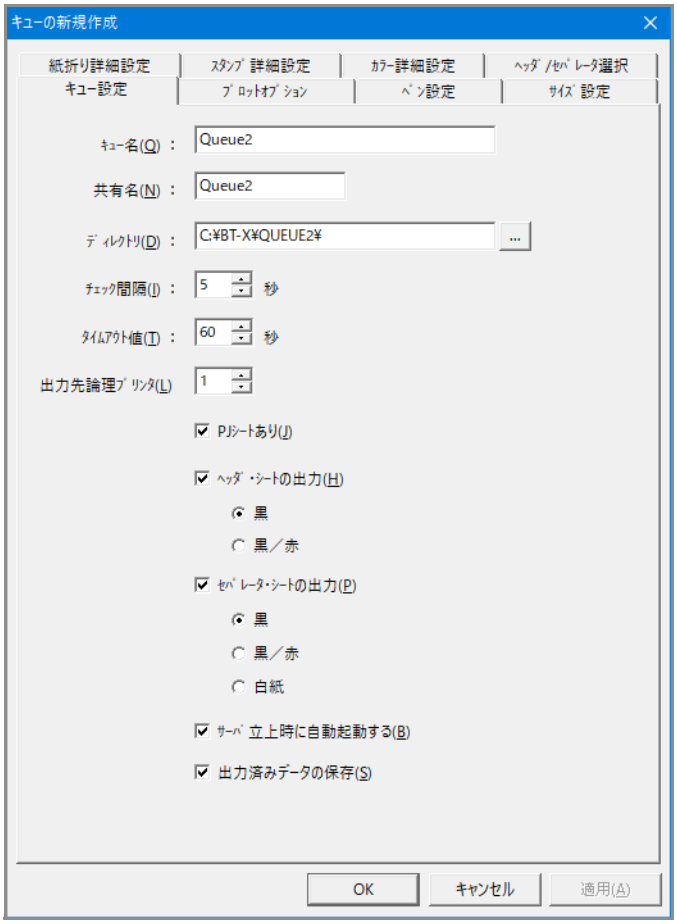
1. ［キュー］メニュー（P.61）から、［新規作成］を選択します。
［キューの新規作成］画面が表示されます。

2. PJ Sheet を使用した処理をするかどうかを設定します。
［はい］をクリックすると、PJ Sheet を使用した処理が行われます。



補 足 ・ここで［はい］を選択した場合、PJ Sheet がないと処理されません。
・BT-X/C から出力するときには、必ず［はい］を選択してください。

3. [キュー設定] タブを選択し、設定をします。



この画面からキューに対する各種設定が行えます。

(1) [キュー名] にキューの名前を入力します。

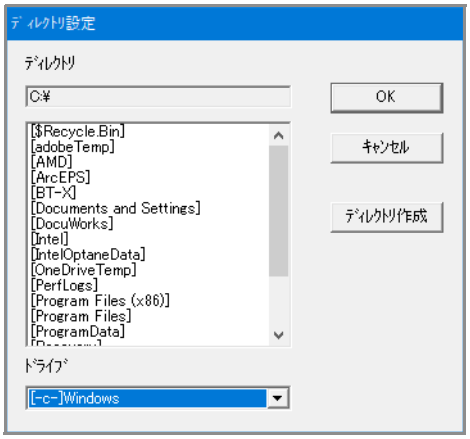
補足 最大半角 80 文字まで設定できます。

(2) [共有名] にキューディレクトリーを共有するための任意の共有名を入力します。

(3) [ディレクトリ] に実際に使用するキュー用のフォルダーを入力します。

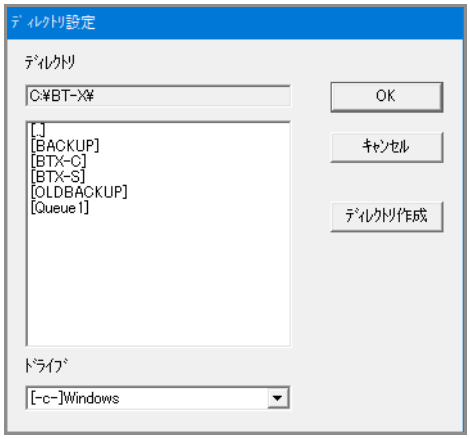
・[...] をクリックすると、[ディレクトリ設定] 画面が表示されます。
実際にシステムが持っているフォルダーが表示されます。

・対象のフォルダーをダブルクリックで選択します。



補足 ここでは、例として「BT-X」フォルダーを選択します。

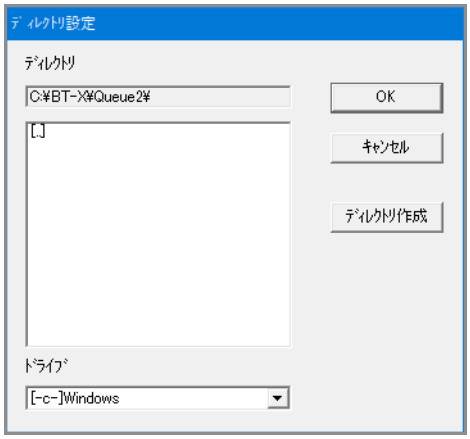
・ダブルクリックをしたフォルダー内に、フォルダーが存在すれば、それが表示されます。選択するフォルダーがあれば同様に、ダブルクリックで選択します。



・フォルダーを新規に作成する場合は、［ディレクトリ作成］をクリックします。
［ディレクトリの作成］画面が表示されます。
［作成するディレクトリ名］に、作成するフォルダー名を入力して、［OK］をクリックします。

補足 ・ここでは、例としてフォルダー名に「Queue2」を入力します。
・「Queue1」フォルダーは、初期設定として作成されるので、指定しないでください。

・フォルダーを新規に作成した場合は、そのフォルダー名が、［ディレクトリ設定］画面に表示されるので、ダブルクリックで選択します。



(4) ［OK］をクリックします。
［キュー設定］タブに、選択したフォルダー名が表示されます。

(5) ［チェック間隔］にチェック間隔の秒数を入力します。
チェック間隔とは、データの到着を監視する間隔のことです。

(6) ［タイムアウト値］にタイムアウトの秒数を入力します。
タイムアウト値には、PJ Sheet が BT-X/S に送付されてから、PJ Sheet に指定されているすべてのファイルが、BT-X/S に送付が完了するまでの最大待ち時間を設定します。

補足 設定した時間に達しても送付が完了しない場合は、BT-X/S で出力を保留し、状態表示を保留とします。
設定した時間に達することなく、すべてのファイルの送付が完了した場合は、その時点で出力処理を開始します。

(7) ［出力先論理プリンタ］にこのキューが使用する論理プリンタ番号を入力します。

補足 値の設定範囲は、サーバー設定の論理プリンタ番号で指定した範囲内の番号です。

(8) PJ Sheet を前提とした処理を行うかどうかを設定します。
［PJ シートあり］にチェックマークを付けると、PJ Sheet を前提とした処理が行われます。

補足 ・［PJ シートあり］にチェックマークを付けたキューでは、PJ Sheet がないと処理されません。
［PJ シートあり］にチェックマークを付けていないキューに対して、PJ Sheet を送信すると、PJ Sheet を出力データとして処理します。したがって、その結果については保証できません。
・BT-X/C から出力するときには、必ずチェックマークを付けてください。

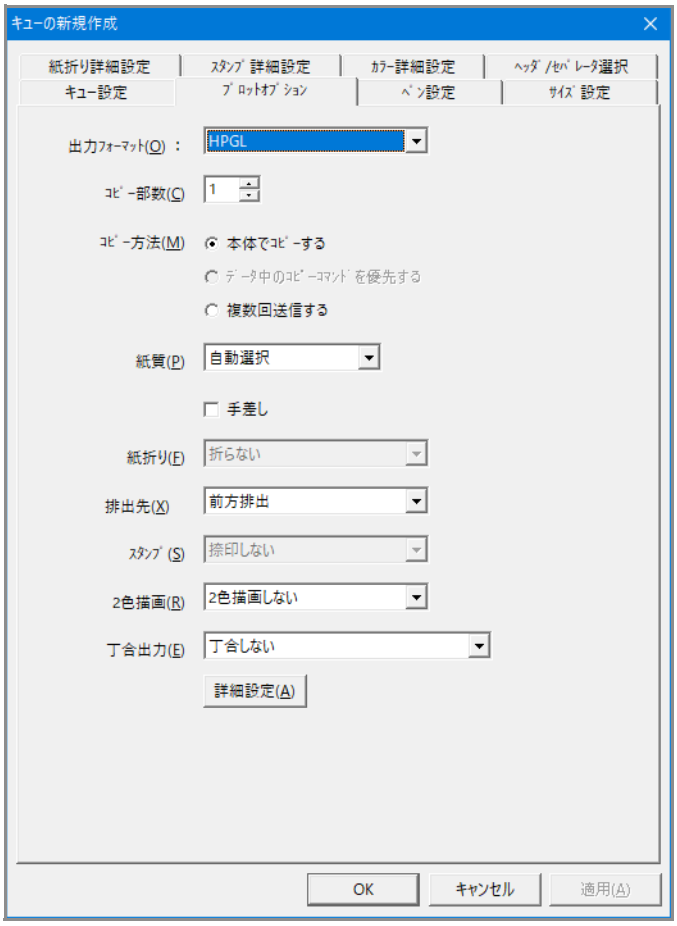
(9) [ヘッダ・シートの出力] にチェックマークを付けると、ジョブの先頭に、ヘッダーシートが出力されます。
[黒] を選択すると黒で印字されたヘッダーシートが、[黒／赤] を選択すると黒と赤で印字されたヘッダーシートが出力されます。

(10) [セパレータ・シートの出力] にチェックマークを付けると、配布先の先頭にセパレーターシートが出力されます。
[黒] を選択すると黒で印字されたセパレーターシートが、[黒／赤] を選択すると黒と赤で印字されたセパレーターシートが出力されます。
[白紙] を選択すると白紙のセパレーターシートが出力されます。

(11) サーバー立ち上げ時にキューを自動的に起動するかどうかを設定します。
[サーバ立上時に自動起動する] にチェックマークを付けると、サーバー立ち上げ時にキューが自動的に起動します。

(12) 出力済データを保存するかどうかを設定します。
[出力済みデータの保存] にチェックマークを付けると、[サーバ設定] 画面で設定されたデータ保存ディレクトリーに、出力済みデータが保存されます。

4. [プロットオプション] タブを選択し、各項目を設定します。



補足 接続しているプロッターに合わせて、項目が表示されます。

(1) [出力フォーマット] で、出力するデータのデータフォーマットを選択します。

参照 表示されるデータフォーマットの設定については、[4.2.3 サーバーの設定] (P.57) を参照してください。

(2) [コピー部数] に出力部数を入力します。
入力欄に値を直接入力するか、または上下矢印をクリックして値を入力します。

(3) コピー方法を選択します。
接続先のプロッターでコピーするときは [本体でコピーする] を、データ中のコピーコマンドを優先するときは [データ中のコピーコマンドを優先する] を、1 ファイル複数ページのファイルを丁合してコピーするときは [複数回送信する] を選択します。

(4) [紙質] で、出力する用紙タイプを選択します。
[自動選択]、[普通紙]、[トレーシング]、[フィルム] があります。

(5) 手差し印刷をするときは、[手差し] にチェックマークを付けます。

(6) [紙折り] で、紙折方法を選択します。
[プロッターの設定に従う]、[折らない]、[ファン折り]、[ファン折り (単方向)]、[クロス折り]、[クロス折り (単方向)]、[特殊折り]、[特殊折り (単方向)]、[170mm 折り] があります。

(7) [排出先] で、出力物の排出トレイを選択します。
[プリンタ上部トレイ]、[フォルダ上部トレイ] があります。

補足
- FUJI XEROX DocuWide 9095α/9098α に接続している場合で、[紙折り] で [折らない] を選択したときに使用できます。
- 弊社製の ApeosWide 3030/6050、または FUJI XEROX DocuWide 3037/6057 に接続している場合は、[後方排出]、[前方排出] という表示になります。なお、ApeosWide 3030、DocuWide 3037 では後方排出はオプションです。

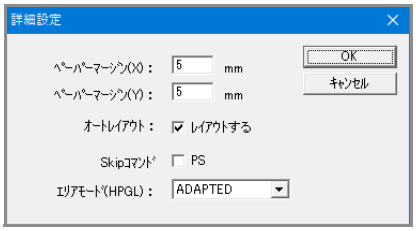
(8) [スタンプ] で、スタンプを出力するかどうかを選択します。
[プロッター本体の設定に従う]、[捺印しない]、[捺印する] があります。

補足 [サイズ設定] タブのロールマッピングで [自動選択] が指定されている場合には、スタンプ出力を設定できません。

(9) 2 色描画をするときは、[2 色描画] で描画方法を選択します。
[2 色描画しない]、[2 色描画する (ソリッド描画)]、[ハーフトーン描画する] があります。

(10) [丁合出力] で、丁合をするかどうかを選択します。
[丁合しない]、[BT-X で丁合する] があります。

(11) [詳細設定] をクリックすると、[詳細設定] 画面が表示されます。
詳細設定には、[ペーパーマージン]、[オートレイアウト]、[エリアモード (HPGL)]、[エリアモード (FX Format)] があります。
各項目の値を設定します。



参照 各項目の設定内容の詳細については、接続先のプロッターまたはコントローラーのマニュアルを参照してください。

5. ［ペン設定］タブを選択し、設定をします。



1 ～ 32 番ペンを設定できます。
［戻る］と［次へ］をクリックすることによって、ペン番号を変えられます。

(1) ［ペン幅］で、ペン幅を、0 ～ 511dot の範囲で入力します。

補 足 ・単位はプロッターの dot 値です。
・ペン幅は、データが HP-GL のときだけ有効です。

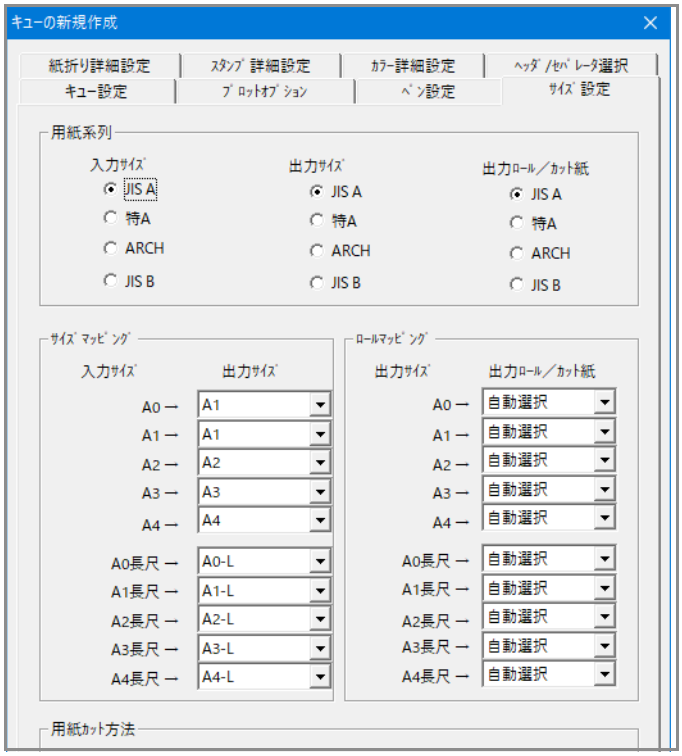
(2) ［終端処理］で、線の終端形状を選択します。
［SQUARE］、［ROUND］、［EXTEND］、［TRIANGLE］があります。

(3) ［結合処理］で、線と線の接続形状を選択します。
［UNJOINT］、［BEVEL］、［MITTER］、［ROUND］があります。

(4) ［色指定］で、ペン色を選択します。
ペン色には、黒、赤、白があります。

補 足 この設定は、［プロットオプション］タブの［2 色描画］で、［2 色描画する］または［ハーフトーン描画する］を選択したときだけ有効です。

6. ［サイズ設定］タブを選択し、出力用紙サイズを設定します。



(1) **［用紙系列］で、用紙の種類を指定します。**
［JIS A］、［特 A］、［ARCH］、［JIS B］があります。
［サイズマッピング］では、入力サイズごとのスケールサイズを入力します。サイズマッピングには、サイズ別出力と同一サイズ出力があります。
サイズ別出力の場合は、各［出力サイズ］で、用紙サイズを選択します。
同一サイズ出力では、すべての出力データを同一サイズに出力するためのスケールサイズを入力します。

(2) **同一サイズ出力の場合は、［用紙カット方法］で、用紙カット方法を選択します。**

(3) **［ロールマッピング］では、出力サイズごとに、出力ロール / カット紙を選択します。各［出力ロール／カット紙］で、用紙サイズを選択します。**

補足 出力サイズで設定したサイズに対して、適切な出力ロールサイズを入力してください。適切なロールサイズについては、次の表を参照してください。

	出力サイズ	適切なロールサイズ
JIS A系	A0	A0
	A1	A0またはA1
	A2	A1またはA2
	A3	A2またはA3
	A4	A3またはA4
	A0L	A0
	A1長尺	A1
	A2長尺	A2
	A3長尺	A3
	A4長尺	A3

	出力サイズ	適切なロールサイズ
特A系	特A0	特A0
	特A1	特A0または特A1
	特A2	特A1または特A2
	特A3	特A2またはA3
	A4	A3またはA4
	特A0長尺	特A0
	特A1長尺	特A1
	特A2長尺	特A2
	特A3長尺	A3
	A4長尺	A3
ARCH系	E	E
	D	D
	C	A1またはA2
	B	A2またはA3
	A	A3またはA4
	E長尺	E
	D長尺	D
	C長尺	A2
	B長尺	A3
	A長尺	A3
JIS B系	B0	B1
	B1	B1
	B2	B1またはB2
	B3	B2またはB3
	B4	B3またはB4
	B0L	B1
	B1長尺	B1
	B2長尺	B2
	B3長尺	B3
	B4長尺	B3

7. [紙折り詳細設定] タブを選択し、設定をします。



補 足
- [プロットオプション] タブの [紙折り] で、[ファン折り]、[ファン折り（単方向）]、[クロス折り]、[クロス折り（単方向）] のどれかが設定されていると、表示されます。
- 出力対象になるプロッターに、フォルダーが接続されているときに設定できます。

◆ ファン折りの場合

(1) [回転する] にチェックマークを付けると、丁合出力時に、配布先ごとに用紙が 90° 回転して出力されます。

(2) [綴じ代] で、とじしろ値を選択します。
[0mm]、[20mm]、[25mm]、[30mm]、[50mm] があります。

補 足 A2 サイズは、とじしろを設定しても 18mm になります。A3 サイズは、とじしろは設定できません。

(3) [仕上げ調整] で、仕上げ調整を選択します。
[調整なし／ 0mm 調整]、[+5mm 調整]、[-5mm 調整] があります。

(4) [耳折りする] にチェックマークを付けると、A2 だけ耳折りされます。

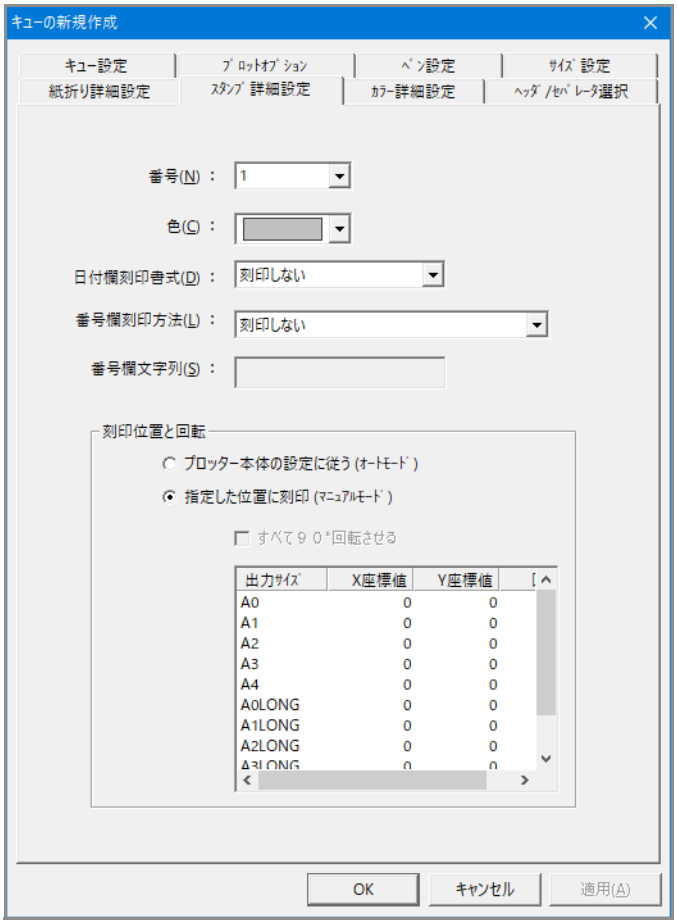
◆ クロス折りの場合

(1) [回転する] にチェックマークを付けると、丁合出力時に配布先ごとに用紙が 90° 回転して出力されます。

◆ 特殊折りの場合

(1) [回転する] にチェックマークを付けると、丁合出力時に配布先ごとに用紙が 90° 回転して出力されます。

8. ［スタンプ詳細設定］タブを選択し、設定をします。



補足 ［プロットオプション］タブの［スタンプ］で、［押印しない］以外に設定されていると、表示されます。

(1) ［番号］にスタンプ番号を入力します。

補足 本体のメモリーに読み込まれていないスタンプ番号は表示されません。

(2) ［色］で、スタンプ色を選択します。

黒とグレーがあります。

FUJI XEROX DocuWide 9095α/9098α の場合は、黒と赤とグレーから選択できます。

(3) ［日付欄刻印書式］で、スタンプの日付欄刻印を選択します。

［刻印しない］、［年 . 月 . 日で刻印する］、［月 . 日 . 年で刻印する］、［日 . 月 . 年で刻印する］があります。

(4) ［番号欄刻印方法］で、スタンプの番号欄刻印を選択します。

［刻印しない］、［データ中の文字列を刻印する］、［指定文字列を刻印する］、［セット番号を指定文字列に付加する］があります。

［セット番号を指定文字列に付加する］に設定すると、指定した文字列に続けて連番を刻印します。

［指定文字列を刻印する］または［セット番号を指定文字列に付加する］を選択した場合は、［番号欄文字列］に、刻印する文字列を入力します。

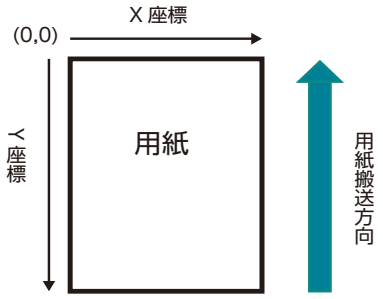
補足 最大半角 12 文字まで設定できます。

入力できる文字は、スペース（空白）、A ～ Z、#、$、%、&、'、(、)、-、,、/、|、0 ～ 9 です。

(5) スタンプの刻印位置を［プロッター本体の設定に従う（オートモード）］または［指定した位置に刻印（マニュアルモード）］のどちらかを選択します。

［プロッター本体の設定に従う（オートモード）］を選択すると、プロッター本体に設定されている位置に、スタンプが刻印されます。

9. [指定した位置に刻印] を選択した場合には、出力サイズごとにスタンプの刻印位置（X 座標、Y 座標）およびスタンプの回転について入力します。



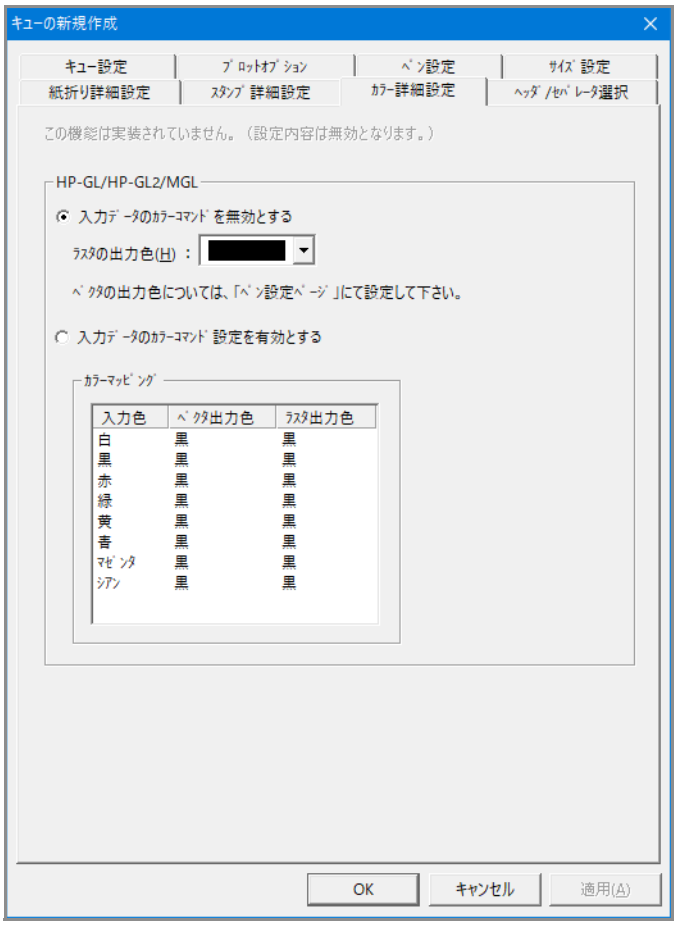
それぞれの項目欄をダブルクリックして表示される入力ボックスに、スタンプの刻印位置の値を入力します。

補 足 ・単位は mm です。

・スタンプ刻印位置の座標は用紙の搬送方向に関係します。データ中の実座標とは関係ありません。上図を参照してください。
出力サイズとは、実際に出力されるサイズ（[サイズ設定] タブで出力用紙サイズを設定した場合は、設定後のサイズ）のことです。

(6) [すべて 90° 回転させる] にチェックマークを付けると、すべてのサイズが 90° 回転されます。

10. [カラー詳細設定] タブを選択し、設定をします。

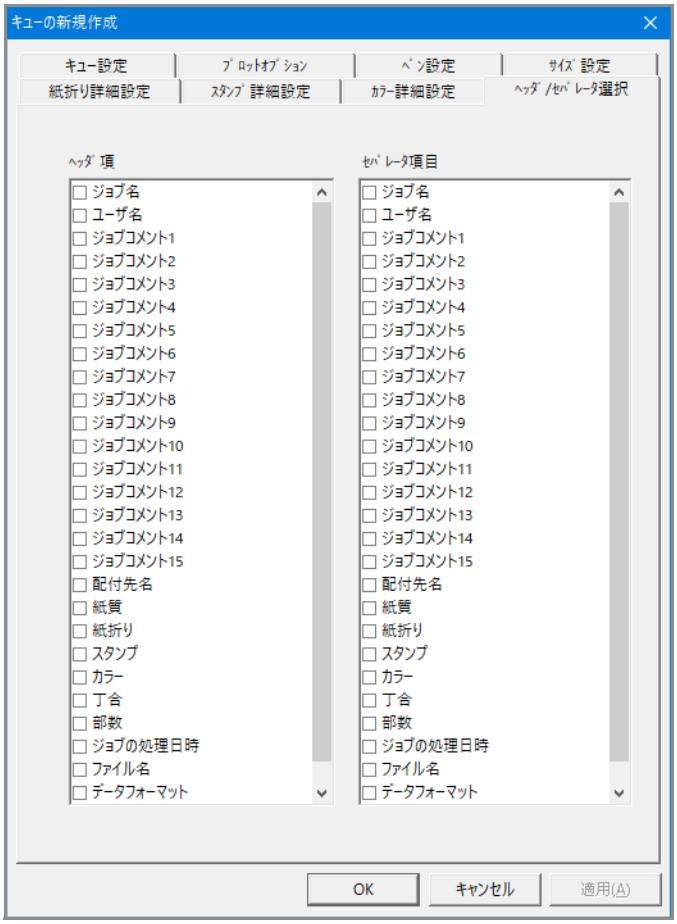


(1) [入力データのカラーコマンドを無効とする] を選択すると、ラスターデータの出力色を設定できます。出力色には、白、黒、赤があります。

補 足 ラスターデータの出力色は、[ペン設定] タブでラスター設定を行います。

(2) [入力データのカラーコマンド設定を有効とする] を選択すると、ベクターデータのカラーマッピングを設定できます。
出力色には、白、黒、赤があります。

11. [ヘッダ／セパレータ選択] タブを選択し、設定をします。



[ヘッダ／セパレータ選択] タブが表示されます。

(1) ヘッダーシートに出力する項目を［ヘッダ項目］から選択します。
項目名にチェックマークを付けると、その項目がヘッダーシートに出力されます。

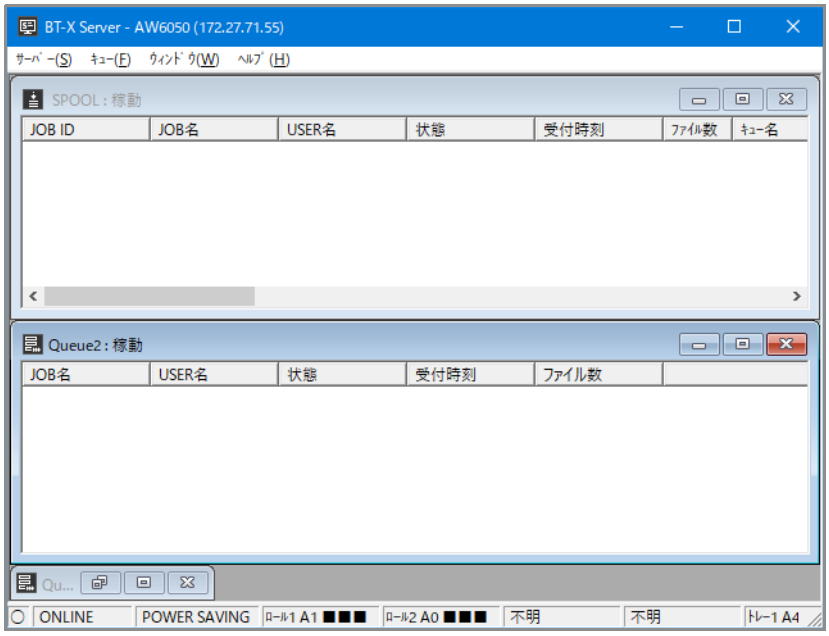
(2) 項目を選択したまま右クリックすると、その項目の出力色を選択できます。［黒］または［赤］のどちらかを選択します。

補足 赤で出力する場合には、［キュー設定］タブの［ヘッダシートの出力］で、［黒／赤］を選択している必要があります。

(3) セパレーターシートについても、ヘッダーシート同様に設定します。

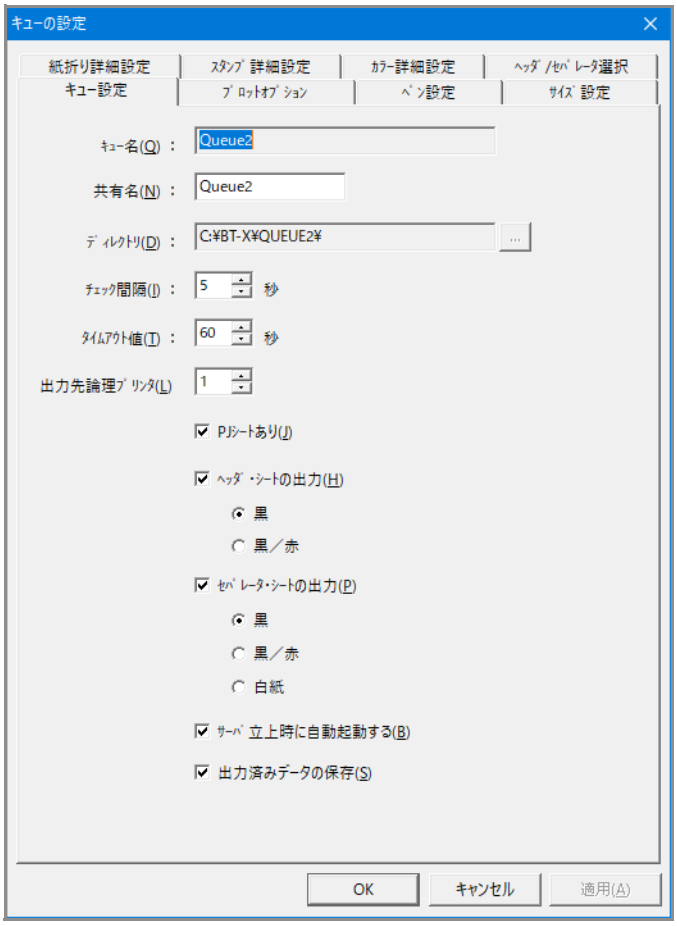
12. [キューの新規設定] 画面の [OK] をクリックします。

[BT-X/Server] 画面に、作成したキューの画面が表示されます。



4.3.2　キューの設定

1. ［キュー］メニュー（P.61）の［キュー設定］を選択します。キューが稼動中の場合には、キューの停止を確認する画面が表示されます。
2. キューの設定をする場合は、［はい］をクリックします。
3. ［キューの設定］画面が表示されるので、各項目の内容を設定します。

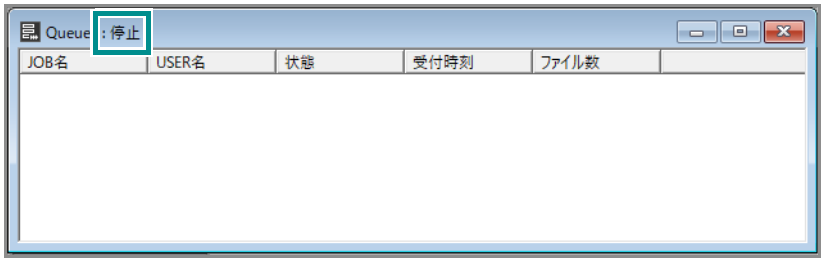


以降の入力については、［キューの新規作成］画面と同様です。

参照　［キューの新規作成］画面については、「キューの新規作成」（P.61）を参照してください。

4.3.3　キューの起動

1. タイトルバーの状態が［停止］であることを確認します。

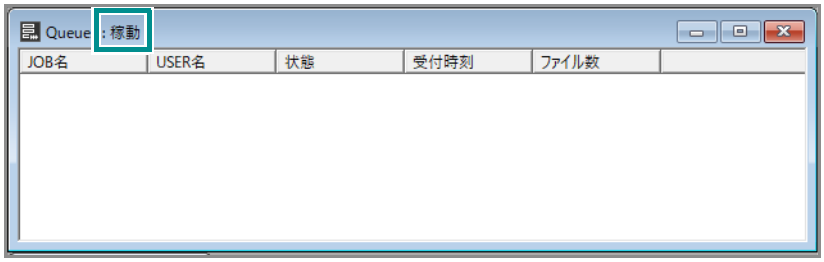


補足　キューが稼動中の場合には、キューの起動は実行できません。

2. ［キュー］メニュー（P.61）の［キュー起動］を選択します。
キューが起動され、タイトルバーの状態が［稼動］になります。

4.3.4　キューの停止

1. タイトルバーの状態が［稼動］であることを確認します。

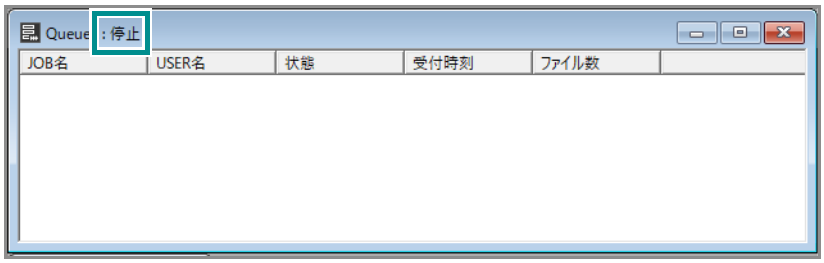


補 足　キューが一時停止の場合には、キューの停止は実行できません。

2. ［キュー］メニュー（P.61）の［キュー停止］を選択します。
キューが停止され、タイトルバーの状態が、［停止］になります。

4.3.5　キューの削除

1. 削除するキューのタイトルバーの状態が一時停止であることを確認して、［キュー］メニューから［キュー削除］を選択します。



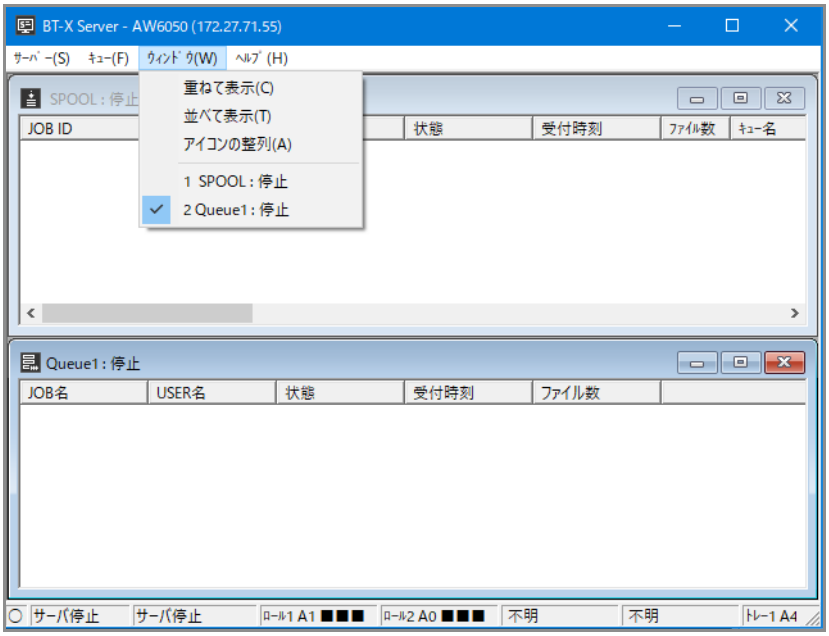
補 足　キューが稼動中の場合にはキューを削除できません。

確認の画面が表示されます。

2. ［はい］をクリックします。
キューおよびキューに指定されていたディレクトリーが削除されます。

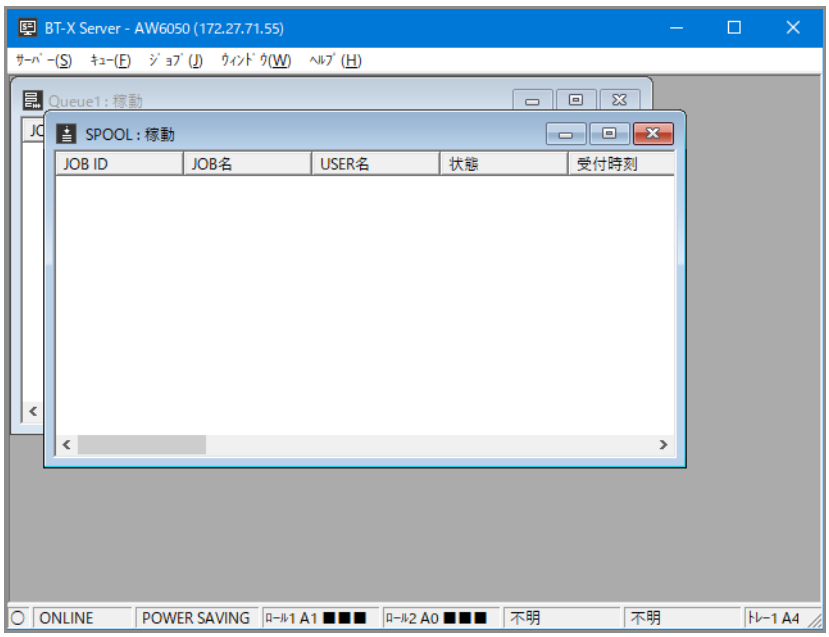
4.4 ［ウィンドウ］メニューの操作

［ウィンドウ］メニューでは、BT-X/Sの画面の操作および設定を行います。



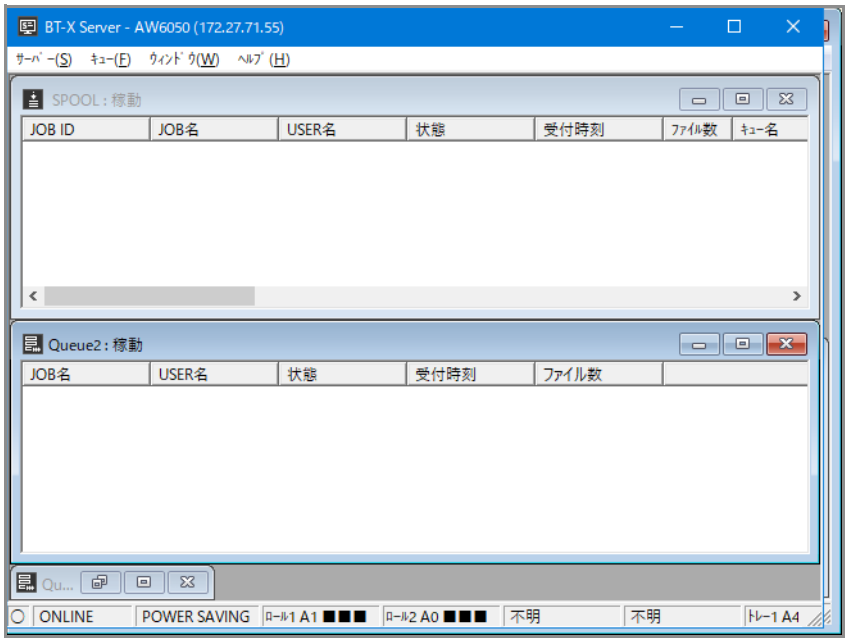
4.4.1 重ねて表示

1. ［ウィンドウ］メニュー（P.76）の［重ねて表示］を選択します。
画面が重なって表示されます。



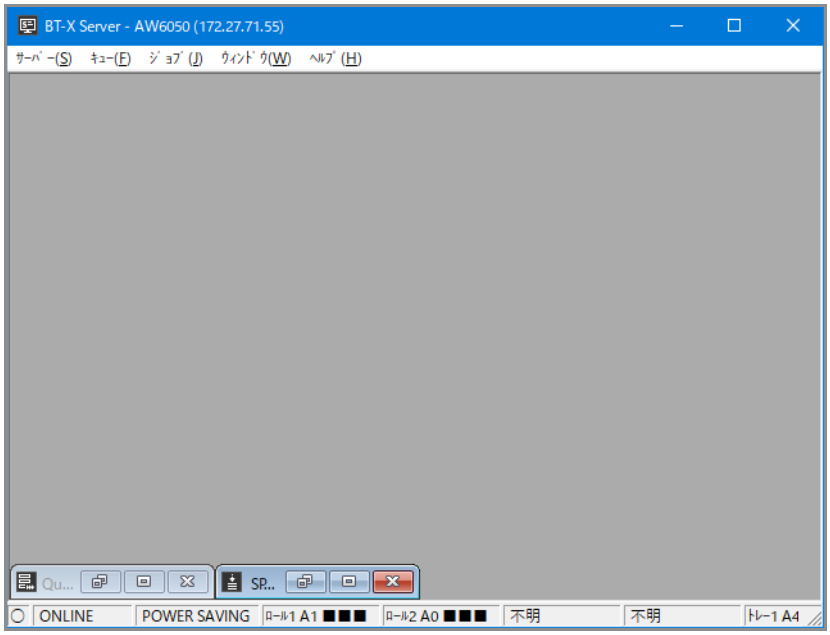
4.4.2　並べて表示

1. ［ウィンドウ］メニュー（P.76）の［並べて表示］を選択します。
画面が上下に並んで表示されます。



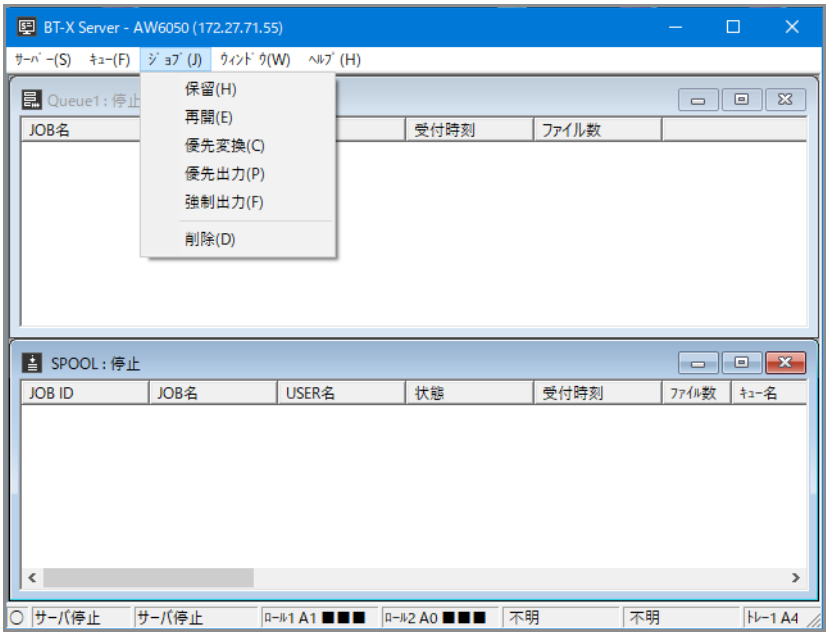
4.4.3　アイコンの整列

1. ［ウィンドウ］メニュー（P.76）の［アイコンの整列］を選択します。
画面が整列し、表示されます。



4.5 ［ジョブ］メニューの操作

［ジョブ］メニューでは、ジョブの操作を行います。



4.5.1 ジョブの保留

1. 状態が［出力待ち］のジョブを選択します。

   補足 保留できるのは、状態が［出力待ち］のジョブです。

2. ［ジョブ］メニュー（P.78）の［保留］を選択します。
   選択されたジョブが［保留］になります。

   補足 保留されたデータは、ジョブを再開すると、出力されます。

4.5.2 ジョブの再開

1. 状態が［保留］のジョブを選択します。

   補足 再開できるのは、状態が［保留］、または［タイムアウト］のジョブです。

2. ［ジョブ］メニュー（P.78）の［再開］を選択します。
   選択されたジョブが、［出力待ち］になります。

4.5.3 ジョブの優先出力

1. 状態が［出力待ち］のジョブを選択します。

   補足 優先出力ができるのは、状態が［出力待ち］、または［保留］のジョブです。

2. ［ジョブ］メニュー（P.78）の［優先出力］を選択します。選択されたジョブが、［優先出力］になります。

   補足 優先出力を指定すると、ほかのジョブより早く出力できます。
   優先出力が複数のジョブに同時に指定された場合は、上に表示されているジョブが、先に出力されます。

4.5.4　ジョブの削除

1. 状態が［出力待ち］のジョブを選択します。

補 足　削除できるのは、状態が［出力待ち］、［保留］、［タイムアウト］のジョブです。

2. ［ジョブ］メニュー（P.78）の［削除］を選択します。

選択されたジョブが削除されます。

補 足　削除すると、［Queue］画面には表示されなくなりますが、［SPOOL］画面に、削除の状態で表示されます。

4.5.5　ジョブの優先変換

1. 状態が［変換待ち］のジョブを選択します。

補 足　優先変換ができるのは、状態が［変換待ち］のジョブです。

2. ［ジョブ］メニュー（P.78）の［優先変換］を選択します。

選択されたジョブが、優先変換になります。

補 足　優先変換を指定すると、ほかのジョブより早く変換できます。
優先変換が複数のジョブに同時に指定された場合は、上に表示されているジョブが、先に変換されます。

4.5.6　ジョブの強制出力

1. 状態が［受信中］のジョブを選択します。

補 足　強制出力ができるのは、状態が［受信中］のジョブです。

2. ［ジョブ］メニュー（P.78）の［強制出力］を選択します。

選択されたジョブが［出力待ち］になります。

補 足　強制出力した場合、キューに送信していなかったファイルは、出力されません。

5 PJ Sheet

5.1 PJ Sheet について

PJ Sheetについて説明します。

PJ Sheet とは

PJ Sheet（Print Job Sheet）とは、出力するファイル名やコピー部数など、出力に関する設定を記述したテキストファイルです。
BT-X/Sのキューに、PJ Sheetと出力対象のファイルを送ると、BT-X/SはPJ Sheetの内容を解析し、PJ Sheetに記述してある出力設定を最優先にして出力を行います。

PJ Sheet のネーミング

PJ Sheetの名前は任意です。ただし、拡張子は「.LST」です。

PJ Sheet の構成

PJ Sheetは、次のセクションから構成されています。

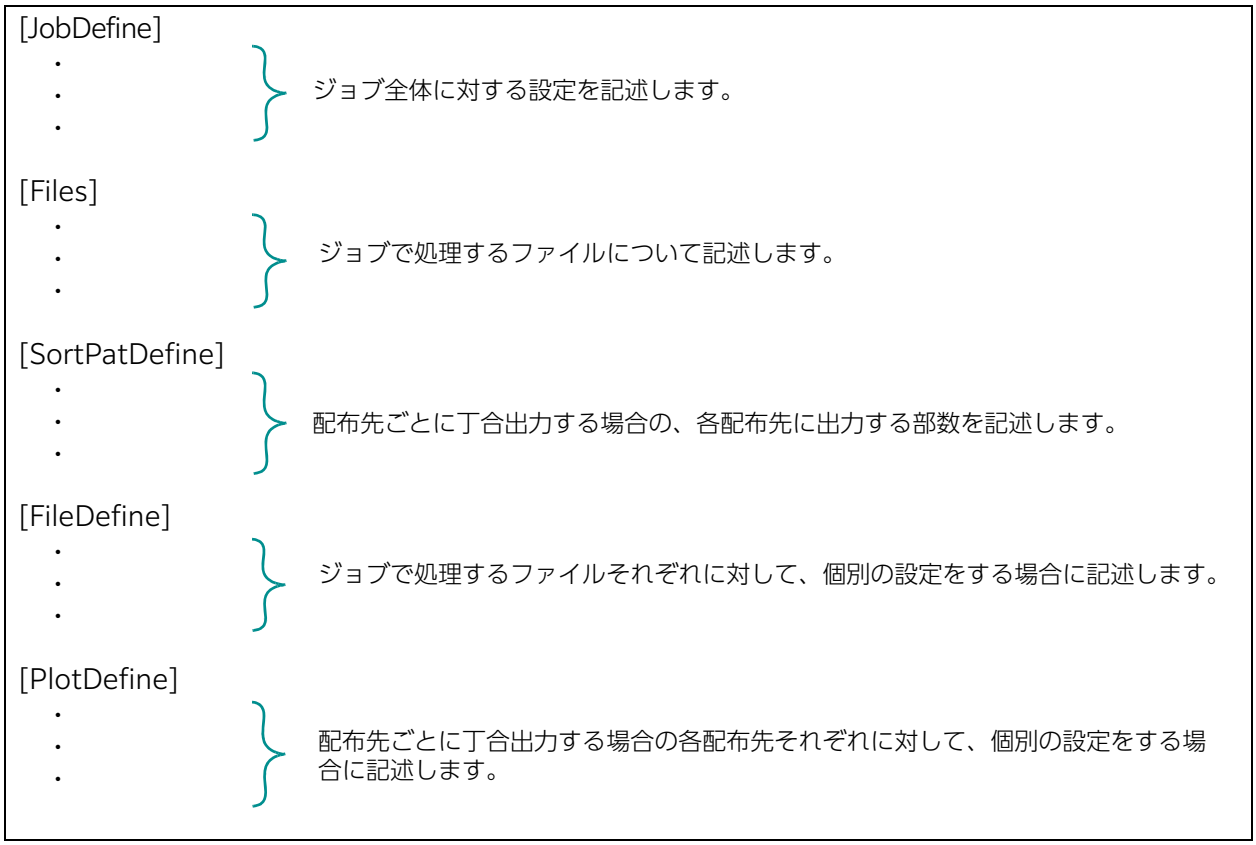
・JobDefine セクション
ジョブ全体に対する設定を記述します。
このセクションは、PJ Sheet に、必ず記述してください。

・Files セクション
ジョブで処理するファイルについて記述します。
このセクションは、PJ Sheet に、必ず記述してください。

・SortPatDefine セクション
配布先ごとに丁合出力する場合の、各配布先に出力する部数を記述します。
このセクションは、配布先ごとに丁合出力する場合に必要であり、それ以外の場合には、記述する必要はありません。

・FileDefine セクション
ジョブで処理するファイルそれぞれに対して、個別の設定を行います。
このセクションは、ファイルに対して個別の設定を行う場合に必要であり、それ以外の場合には、記述する必要はありません。

・PlotDefine セクション
配布先ごとに丁合出力する場合の各配布先それぞれに対して、個別の設定をします。
このセクションは、配布先ごとに丁合出力する場合に、各配布先に対して個別の設定をするときに必要で、それ以外の場合には、記述する必要はありません。



各セクションは、次のように記述します。

```
[SectionName]
Key=Value
Key=Value
   ・
   ・
   ・
```

・[SectionName] には各セクション名を指定します。
・Key には、パラメーター名を指定します。
・Value には、パラメーター項目に対する設定値を指定します。
また、シフト JIS で記述します。

PJ Sheetの各セクションのパラメーターとBT-X/Sのキューのパラメーターには、同一の項目を定義できます。
これらパラメーターの優先順位は、次のようになります。

FileDefine ＞ PlotDefine ＞ JobDefine ＞ BT-X/S のキュー設定

5.2　出力設定を行う

BT-Xでは、プロッター本体の機能（たとえば紙折り、スケールなど）を制御できます。これらの機能を制御するためのBT-X上の設定を、「出力設定」と呼んでいます。出力設定を実際の出力結果に反映する方法として、次の2つがあります。

方法1：PJ Sheetで出力設定を行う

方法2：BT-X/Sのキューに出力設定を行う

5.2.1　PJ Sheet で出力設定を行う

PJ Sheet（Print Job Sheet）とは、出力設定を記述したテキストファイルです。BT-X/Sのキューに、PJ Sheetと出力対象のファイルを送ると、BT-X/SはPJ Sheetの内容を解析し、PJ Sheetに記述してある出力設定を最優先にして出力を行います。

PJ Sheetに記述できる主なパラメーターは、次のとおりです。

	DW9095α/9098α	AW 3030/6050 DW3037/6055/6057
データフォーマット	○	○
ペン設定	○*1	○*1
紙折り	○	○
紙質	○	○
部数	○	○
丁合	○	○*2
スケール	○	○
手差しトレイの指定	○	○
スタンプ	○	○
複製管理	×	○
2 カラー	○	○*3
ヘッダー / セパレーター出力	○	○

○←記述可能　×←記述できても出力結果に反映されない

＊1　データフォーマットによっては、ペン設定が設定できないものがあります。

＊2　フェイスアップ出力のため、出力順番が逆になります。

＊3　赤での出力はできません。

補足　ここでは、ApeosWide を AW に、FUJI XEROX DocuWide を DW に略して説明しています。

5.2.2　BT-X/S のキューに出力設定を行う

BT-X/Sのキューに出力設定を、初期値として設定できます。キューは、複数作成できるので、キューを使い分けることによって、異なった出力結果が得られます。
出力設定としてキューに設定できる主なパラメーターは、次のとおりです。

	DW9095α/9098α	AW 3030/6050 DW3037/6055/6057
データフォーマット	○	○
部数	○	○
ペン設定	○*1	○*1
紙折り	○	○
紙質	○	○
スタンプ	○	○
スケール	○	○
2 カラー	○	○*2
ヘッダー／セパレーターに印字する項目の設定	○	○

○←設定可能 ×←設定不可能、または設定できても出力結果に反映されない
＊1　データフォーマットによっては、ペン設定ができないものがあります。
＊2　赤での出力はできません。

補足　ここでは、ApeosWide を AW に、FUJI XEROX DocuWide を DW に略して説明しています。

5.2.3　出力設定の優先度

出力設定のほとんどのパラメーターが、BT-X/SとPJ Sheetの両方で設定できます。出力設定の優先度は、次のとおりです。

PJ Sheet ＞ BT-X/S のキュー

従って、同じパラメーターをBT-X/SとPJ Sheetの両方で設定した場合には、PJ Sheetのパラメーターが有効になります。

5.2.4　効率のよい PJ Sheet の書き方

最適なパフォーマンスを得るには、次の点に注意してPJ Sheetを作成してください。

・BT-X/S のキューに出力設定をあらかじめ設定しておき、PJ Sheet には変更するパラメータを記述します。
・FileDefine セクションおよび PlotDefine セクションは、JobDefine セクションと異なる設定をファイルごと、または配布先ごとに行う場合に記述するようにし、JobDefine セクションと同じ設定の場合は記述しません。
・JobDefine セクションと Files セクションの DataFormat パラメーターを同じにします。
・ 1 つのジョブで扱うファイルの数を、最大 200 ファイルに制限します。

5.3 JobDefine セクション

JobDefineセクションは、ジョブ全体に対する定義を行います。
設定できるパラメーター名と設定値は、次のとおりです。

[JobDefine]

セクション名です。JobDefineセクションの先頭は、必ず［JobDefine］から記述します。

Job

ジョブ名を設定します。
＜記述方法＞

```
Job=ジョブ名
```

補足 ジョブ名の最大文字数は、半角 80 文字です。

User

ユーザー名を設定します。
＜記述方法＞

```
User=ユーザー名
```

補足 ユーザー名の最大文字数は、半角 80 文字です。

Comment1 ～ 15

ジョブに対するコメントを記述します。
ここで設定したコメントは、プロッターに出力するときのヘッダーページに出力されます。
＜記述方法＞

```
Comment1=コメント
Comment2=コメント
   ・
   ・
   ・
Comment15=コメント
```

補足 各 Comment の最大文字数は半角 80 文字です。Comment1 ～ 15 は、80×15=1200 文字まで記述できます。

SectionName1 ～ 40

丁合時の配布先に対する配布先名を設定します。
ここで設定したコメントは、プロッターに出力するときのセパレーターシートに出力できます。
＜記述方法＞

```
SectionName1=配布先名
SectionName2=配布先名
   ・
   ・
   ・
SectionName40=配布先名
```

補足 各 SectionName の最大文字数は、半角 80 文字です。

DataFormat

出力するファイルのフォーマット記述子を設定します。
AUTOが指定された場合、ファイルの拡張子と同じフォーマット記述子をBT-X/Sが自動で選択します。

＜記述方法＞

```
DataFormat=設定値
```

＜設定値＞

データフォーマット	設定値
—	AUTO
HPGL	HPGL
HPGL2 or HPRTL	HPGL2
TIFF	TIFF

補足 ・AUTO は予約語です。変更しないでください。
・上記設定はデフォルトで設定されている内容です。データフォーマットは自由に設定できます。設定の詳細については、「4.2.3 サーバーの設定」（P.57）を参照してください。

PenWidth1 ～ 32

ペンの幅を設定します。

補足 ペン設定は、データフォーマットが HP-GL のときに有効です。

＜記述方法＞

```
PenWidth1=ペン幅
PenWidth2=ペン幅
   ・
   ・
   ・
PenWidth32=ペン幅
```

補足 ・PenWidth1 ～ 32 は、データ上の 1 ～ 32 番ペンに対応しています。
・ペン幅の範囲は、0 から 511 です。
単位は、dot です。

EndStyle1 ～ 32

線の終端処理を設定します。

補足 ペン設定は、データフォーマットが HP-GL のときに有効です。

＜記述方法＞

```
EndStyle1=設定値
EndStyle2=設定値
   ・
   ・
   ・
EndStyle32=設定値
```

＜設定値＞

終端処理	設定値
SQUARE	0
ROUND	1
EXTEND	2
TRIANGLE	3

補足 EndStyle1 ～ 32 は、データ上の 1 ～ 32 番ペンに対応しています。

参照 終端処理の詳細については、接続されているプロッターのマニュアルまたはインターネットサービスのヘルプ（富士ゼロックス製のプロッターの場合は、CentreWare Internet Services のヘルプ）を参照してください。

JointStyle1 ～ 32

線の接続部処理を設定します。

＜記述方法＞

```
JointStyle1=設定値
JointStyle2=設定値
   ・
   ・
   ・
JointStyle32=設定値
```

＜設定値＞

接続形状	設定値
UNJOINT	0
BEVEL	1
MITTER	2
ROUND	3

補足 1 ～ 32 番ペンに対応しています。

参照 接続処理の詳細については、接続しているプロッターの操作説明書、またはインターネットサービスのヘルプ（富士ゼロックス製のプロッターの場合は、CentreWare Internet Services のヘルプ）を参照してください。

PenColor1 ～ 32

線の色を設定します。

＜記述方法＞

```
PenColor1=設定値
PenColor2=設定値
   ・
   ・
   ・
PenColor32=設定値
```

＜設定値＞

色	設定値
白	0
黒	1
赤	2

補足 1 ～ 32 番ペンに対応しています。

Fold

紙折り処理を設定します。

＜記述方法＞

```
Fold= 設定値
```

＜設定値＞

紙折り処理	設定値
紙折りしない	1
ファン折り	2
ファン折り（単方向）	3
クロス折り	4
クロス折り（単方向）	5
特殊折り	6
特殊折り（単方向）	7
170mm折り（単方向）	8

補足 プロッターにシンプルフォルダーを接続して 170 mm 折りを行う場合、特殊折り（単方向）を指定してください。

参照 紙折り処理の詳細については、接続しているプロッターのマニュアル、またはインターネットサービスのヘルプ（富士ゼロックス製のプロッターの場合は、CentreWare Internet Services のヘルプ）を参照してください。

FoldRotate

紙折り排出時の用紙回転の有無を設定します。

補足 Fold パラメーターで 2 または 4 が設定されたときに有効です。

<記述方法>

```
FoldRotate=設定値
```

<設定値>

回転	設定値
回転しない	0
回転する	1

FoldMargin

紙折り時のとじしろ幅を設定します。

補足 Fold パラメーターで 2 または 3 が設定されたときに有効です。

＜記述方法＞

FoldMargin=設定値

＜設定値＞

とじしろ量	設定値
0mm	0
20mm	20
25mm	25
30mm	30
50mm	50

補足 A2 サイズは、とじしろを設定しても 18 mm になります。A3 サイズは、とじしろは設定できません。

FoldSize

紙折り時の仕上げ調整を設定します。

補足 Fold パラメーターで 2 または 3 が設定されたときに有効です。

＜記述方法＞

FoldSize=設定値

＜設定値＞

仕上げ調整	設定値
調整なし（0 mm調整）	0
+5 mm調整	1
-5 mm調整	2

FoldCornerFold

紙折りのときの耳折り有無を設定します。

補足 Fold パラメーターで 2 または 3 が設定され、さらに出力用紙サイズが A2 のときに有効です。

＜記述方法＞

FoldCornerFold=設定値

＜設定値＞

耳折り	設定値
耳折りしない	0
耳折りする	1

StackerMode

スタッカーの動作モードを設定します。

＜記述方法＞

StackerMode=設定値

＜設定値＞

動作モード	設定値
ビン指定モード	1
ソートモード	2
ミックスモード	3
サイズモード	4

参照 各モードの詳細については、スタッカーのマニュアルを参照してください。

StackerBinNo

スタッカーのビン番号を設定します。

＜記述方法＞

StackerBinNo=設定値

＜設定値＞

ビン番号	設定値
トップトレイ	0
ビン1	1
ビン2	2
ビン3	3
ビン4	4
ビン5	5
ビン6	6
ビン7	7
ビン8	8
ビン9	9
ビン10	10

補足 ・「ビン 0 およびビン 3 ～ 10」は、10 ビンスタッカーが接続されているときに有効です。
・StackerBinNo は、StackerMode パラメーターが、ビン指定またはソートモードのときに有効です。

Baler

ベーラーを使用するかどうかを設定します。

＜記述方法＞

Baler=設定値

＜設定値＞

利用方法	設定値
本体設定に従う	0
使用しない	1
使用する	2

Paper

出力する紙質を設定します。

＜記述方法＞

Paper=設定値

＜設定値＞

紙質	設定値
コントローラー設定に従う	0
普通紙に出力	1
トレーシングペーパーに出力	2
フィルムに出力	3

Copy

出力部数を設定します。

補足 配布先ごとに丁合を行う場合は、このパラメーターは無視されます。

＜記述方法＞

Copy=出力部数

補足 1～99の範囲で指定できます。

Sort

丁合処理を設定します。

＜記述方法＞

Sort=設定値

＜設定値＞

丁合処理	設定値
丁合しない	0
丁合する（可能な限り本体丁合する）	1
プロッター本体で丁合する	2
BT-Xで丁合する	3

補足 本体丁合機能がない場合、設定値1は「BT-Xで丁合する」と同じ動作をし、設定値2はPJ Sheetエラーになります。

InSize

入力サイズを設定します。

補足 ・このパラメーターを設定するときは、次のサイズに関連するパラメーターの値にも注意してください。
- InputPaperGroup
- OutSize
- OutputPaperGroup と SizeMapA0 ～ 4、SizeMapA0L ～ 4L
- OutputRollGroup と RollMapA0 ～ 4、RollMapA0L ～ 4L

・パラメーター名の A0 ～ 4、A0L ～ 4L は、サイズを意味します。

＜記述方法＞

InSize=設定値

＜設定値＞

入力用紙サイズ	設定値
すべてA0、特A0、E-ARCH、B0	0
すべてA1、特A1、D-ARCH、B1	1
すべてA2、特A2、C-ARCH、B2	2
すべてA3、B-ARCH、B3	3
すべてA4、A-ARCH、B4	4
定形、長尺定形（AUTO）	5

InputPaperGroup

出力用紙サイズの種類を設定します。

補足 ・このパラメーターを設定するときは、次のサイズに関連するパラメーターの値にも注意してください。
- InSize
- OutSize
- OutputPaperGroup と SizeMapA0 ～ 4、SizeMapA0L ～ 4L
- OutputRollGroup と RollMapA0 ～ 4、RollMapA0L ～ 4L

・パラメーター名の A0 ～ 4、A0L ～ 4L は、サイズを意味します。

＜記述方法＞

InputPaperGroup=設定値

＜設定値＞

出力用紙サイズの種類	設定値
JIS A系	0
特A系	1
ARCH系	2
JIS B系	3

補足 設定値 3 に設定する場合、B 系列に対応していないモデルでは、B 系列対応キットが必要です。

参照 出力用紙サイズの詳細については、接続しているプロッターのマニュアル、またはインターネットサービスのヘルプ（富士ゼロックス製のプロッターの場合は、CentreWare Internet Services のヘルプ）を参照してください。

OutSize

出力用紙サイズを設定します。

補足 ・このパラメーターを設定するときは、次のサイズに関連するパラメーターの値にも注意してください。
- InSize
- InputPaperGroup
- OutputPaperGroup と SizeMapA0 ～ 4、SizeMapA0L ～ 4L
- OutputRollGroup と RollMapA0 ～ 4、RollMapA0L ～ 4L

・パラメーター名の A0 ～ 4、A0L ～ 4L は、サイズを意味します。

＜記述方法＞

OutSize=設定値

＜設定値＞

出力用紙サイズ	設定値
すべてA0、特A0、E-ARCHに出力	0
すべてB1、A1、特A1、D-ARCHに出力	1
すべてB2、A2、特A2、C-ARCHに出力	2
すべてB3、A3、B-ARCHに出力	3
すべてB4、A4、A-ARCHに出力	4
定形、長尺共に定形カット	5
定形は定形カット、 A1以上長尺はシンクロカット	6
すべてシンクロカット	7
定形は定形カット、 すべての長尺をシンクロカット	8

参照 出力用紙サイズの詳細については、接続しているプロッターの操作説明書、またはインターネットサービスのヘルプ（富士ゼロックス製のプロッターの場合は、CentreWare Internet Services のヘルプ）を参照してください。

OutputPaperGroup

出力用紙サイズの種類を設定します。

補足 ・このパラメーターを設定するときは、次のサイズに関連するパラメーターの値にも注意してください。
- InSize
- InputPaperGroup
- OutSize
- SizeMapA0 ～ 4、SizeMapA0L ～ 4L
- OutputRollGroup と RollMapA0 ～ 4、RollMapA0L ～ 4L

・パラメーター名の A0 ～ 4、A0L ～ 4L は、サイズを意味します。

＜記述方法＞

OutputPaperGroup=設定値

＜設定値＞

出力用紙サイズの種類	設定値
JIS A系	0
特A系	1

出力用紙サイズの種類	設定値
ARCH系	2
JIS B系	3

補足 設定値 3 に設定する場合、B 系列に対応していないモデルでは、B 系列対応キットが必要です。

参照 出力用紙サイズの詳細については、接続しているプロッターのマニュアル、またはインターネットサービスのヘルプ（富士ゼロックス製のプロッターの場合は、CentreWare Internet Services のヘルプ）を参照してください。

SizeMapA0 ～ 4

SizeMapA0L ～ 4L

サイズごとのスケール値を設定します。

補足
- このパラメーターを設定するときは、次のサイズに関連するパラメーターの値にも注意してください。
  - InSize
  - InputPaperGroup
  - OutSize
  - OutputPaperGroup
  - OutputRollGroup と RollMapA0 ～ 4、RollMapA0L ～ 4L
- 本パラメーターは JIS A 系だけでなく、特 A、ARCH、JIS B 系列のサイズも設定します。たとえば、B1 を設定するには、SizeMapA1 の値を変更する必要があります。
- パラメーター名の A0 ～ 4、A0L ～ 4L は、サイズを意味します。

＜記述方法＞

SizeMapA0～4=設定値

SizeMapA0L～4=L設定値

＜設定値＞

スケール値	設定値
B0、A0、特A0、E-ARCH	0
B1、A1、特A1、D-ARCH	1
B2、A2、特A2、C-ARCH	2
B3、A3、特A3、B-ARCH	3
B4、A4、A-ARCH	4
UB0、U0、特A0、E-ARCH	5
UB1、U1、特A1、D-ARCH	6
UB2、U2、特A2、C-ARCH	7
UB3、U3、B-ARCH	8
UB4、U4、A-ARCH	9
B0L、A0L、特A0、E-ARCH	10
B1L、A1L、特A1、D-ARCH	11
B2L、A2L、特A2、C-ARCH	12

スケール値	設定値
B3L、A3L、B-ARCH	13
B4L、A4L、A-ARCH	14

参照 出力用紙サイズの詳細については、接続しているプロッターのマニュアル、インターネットサービスのヘルプ（富士ゼロックス製のプロッターの場合は、または CentreWare Internet Services のヘルプ）を参照してください。

OutputRollGroup

カット紙またはロール紙の種類を設定します。

補足 ・このパラメーターを設定するときは、次のサイズに関連するパラメーターの値にも注意してください。
- InSize
- InputPaperGroup
- OutSize
- OutputPaperGroup と SizeMapA0 ～ 4、SizeMapA0L ～ 4L
- RollMapA0 ～ 4、RollMapA0L ～ 4L

・パラメーター名の A0 ～ 4、A0L ～ 4L は、サイズを意味します。

＜記述方法＞

```
OutputRollGroup=設定値
```

＜設定値＞

出力用紙サイズの種類	設定値
JIS A系	0
特A系	1
ARCH系	2
JIS B系	3

補足 設定値 3 に設定する場合、B 系列に対応していないモデルでは、B 系列対応キットが必要です。

参照 出力用紙サイズの詳細については、接続しているプロッターのマニュアル、またはインターネットサービスのヘルプ（富士ゼロックス製のプロッターの場合は、CentreWare Internet Services のヘルプ）を参照してください。

RollMapA0 ～ 4

RollMapA0L ～ 4L

出力するロール紙またはカット紙をサイズごとに設定します。

補足 ・このパラメーターを設定するときは、次のサイズに関連するパラメーターの値にも注意してください。
- InSize
- InputPaperGroup
- OutSize
- OutputPaperGroup と SizeMapA0 ～ 4、SizeMapA0L ～ 4L
- OutputRollGroup

・本パラメーターは JIS A 系だけでなく、特 A、ARCH、JIS B 系列のサイズも設定します。たとえば、B1 を設定するには、SizeMapA1 の値を変更する必要があります。

・パラメーター名の A0 ～ 4、A0L ～ 4L は、サイズを意味します。

＜記述方法＞

RollMapA0～4=設定値 RollMapA0L～4L=設定値

＜設定値＞

出力ロール紙／カット紙	設定値
特A0、E-ARCHロール紙に出力	0
B1、A1、特A1、D-ARCHロール紙に出力	1
B2、A2、特A2、C-ARCHロール紙に出力	2
B3カット紙に出力 A3、B-ARCHロール／カット紙に出力	3
B4、A4、A-ARCHカット紙に出力	4
プロッターが用紙を自動選択	5

参照 出力用紙サイズの詳細については、接続しているプロッターのマニュアル、またはインターネットサービスのヘルプ（富士ゼロックス製のプロッターの場合は、CentreWare Internet Services のヘルプ）を参照してください。

PaperTray

手差しトレイにセットされている用紙を、使用するかどうかを設定します。

＜記述方法＞

PaperTray=設定値

＜設定値＞

手差しトレイの指定	設定値
使用しない （自動選択またはRollMapに従う）	0
使用する	1

Stamp

スタンプ処理を設定します。

＜記述方法＞

Stamp=設定値

＜設定値＞

スタンプ	設定値
スタンプしない	0
スタンプする	1
プロッター本体の設定に従う	2

補足 スタンパーキットが必要です。

StampNo

スタンプ番号を設定します。

補足 Stamp パラメーターで、1 が設定されたときに有効です。

＜記述方法＞

StampNo=設定値

補足 1 ～ 99 の範囲で指定できます。

StampColor

スタンプ色を設定します。

補足 Stamp パラメーターで、1 が設定されたときに有効です。

＜記述方法＞

StampColor=設定値

＜設定値＞

スタンプ色	設定値
黒	1
赤	2
グレー	3

補足 設定値 2 は、FUJI XEROX DocuWide 9095α/9098α の場合に有効です。

StampRot

スタンプの回転について設定します。すべての出力サイズに対して有効になります。

補足 ・Stamp パラメーターで、1 が設定されたときに有効です。
・StampRotA0 ～ 4、StampRotA0L ～ 4L のパラメーターと同時に設定された場合には、StampRotA0 ～ 4、StampRotA0L ～ 4L のパラメーターの設定が有効になります。
・回転方向は時計回り 90° です。

＜記述方法＞

StampRot=設定値

＜設定値＞

スタンプ回転	設定値
回転しない	0
90°回転する	1

StampDate

StampDateには、スタンプの日付欄への刻印を設定します。

補足 Stamp パラメーターで、1 が設定されたときに有効です。

＜記述方法＞

StampDate=設定値

＜設定値＞

スタンプ日付欄	設定値
刻印しない	0
年.月.日で刻印	1
月.日.年で刻印	2
日.月.年で刻印	3

StampNumber

スタンプの番号欄への刻印を設定します。

補足 Stamp パラメーターで、1 が設定されたときに有効です。

＜記述方法＞

```
StampNumber=設定値
```

＜設定値＞

スタンプNumber	設定値
刻印しない	0
データ中の文字列を刻印	1
StampNumberDataの内容を刻印	2
StampNumberDataの最後に連番を付加して刻印	3

StampNumberData

スタンプの番号欄に刻印する文字列を設定します。

補足 Stamp パラメーターで 1 が設定され、さらに、StampNumber で 2 および 3 が設定されたときに有効です。

＜記述方法＞

```
StampNumberData=設定値
```

補足 ・設定できる文字数は、最大半角 12 文字です。
・指定できる文字は、スペース（空白）、A ～ Z、#、 $、%、&、’、(、)、-、/、|、0 ～ 9 です。

StampPositionMode

スタンプの刻印位置についてどこの設定を有効とするか設定します。

補足 ・Stamp パラメーターで、1 が設定されたときに有効です。
・このパラメーターは、スタンプオプションが搭載されているモデルの場合に有効です。

＜記述方法＞

```
StampPositionMode=設定値
```

<設定値>

スタンプ位置指定	設定値
プロッター本体の設定に従う (オートモード)	0

スタンプ位置指定	設定値
BT-Xの設定に従う (マニュアルモード)	1

StampRotA0 ～ 4

StampRotA0L ～ 4L

出力サイズごとのスタンプの回転について設定します。

補足
- Stamp パラメーターで、1 が設定されたときに有効です。
- このパラメーターは、スタンプオプションが搭載されているモデルの場合に有効です。
- 本パラメーターは JIS A 系だけでなく、特 A、ARCH、JIS B 系列のサイズも設定します。たとえば、B1 を設定するには、SizeMapA1 の値を変更する必要があります。
- パラメーター名の A0 ～ 4、A0L ～ 4L は、サイズを意味します。
- 回転方向は、時計回りです。

＜記述方法＞

```
StampRotA0～4=設定値

StampRotA0L～4L=設定値
```

＜設定値＞

スタンプ回転	設定値
回転しない	0
90°回転する	1
180°回転する	2
270°回転する	3

StampPositionXA0 ～ 4

StampPositionXA0L ～ 4L

スタンプの刻印位置（X座標）をサイズごとに設定します。

補足
- Stamp パラメーターで 1、さらに StampPositionMode で 1 が設定されたときに有効です。
- 本パラメーターは JIS A 系だけでなく、特 A、ARCH、JIS B 系列のサイズも設定します。たとえば、B1 を設定するには、SizeMapA1 の値を変更する必要があります。

＜記述方法＞

```
StampPositionXA0～4=設定値

StampPositionXA0L～4L=設定値
```

補足
- 単位は mm です。
- パラメーター名の A0 ～ 4、A0L ～ 4L は、サイズを意味します。

StampPositionYA0 ～ 4

StampPositionYA0L ～ 4L

スタンプの刻印位置（Y座標）をサイズごとに設定します。

補足 ・Stamp パラメーターで 1、さらに StampPositionMode で 1 が設定されたときに有効です。
・本パラメーターは JIS A 系だけでなく、特 A、ARCH、JIS B 系列のサイズも設定します。たとえば、B1 を設定するには、SizeMapA1 の値を変更する必要があります。

＜記述方法＞

```
StampPositionYA0～4=設定値

StampPositionYA0L～4L=設定値
```

補足 ・単位は mm です。
・パラメーター名の A0 ～ 4、A0L ～ 4L は、サイズを意味します。

Stamp2

スタンプ処理を設定します。

＜記述方法＞

```
Stamp2= 設定値
```

＜設定値＞

スタンプ	設定値
スタンプしない	0
スタンプする	1

Stamp2No

スタンプ番号を設定します。

補足 Stamp2 パラメーターで、1 が設定されたときに有効です。

＜記述方法＞

```
Stamp2No= 設定値
```

補足 1 ～ 99 まで指定できます。

Stamp2Color

スタンプ色を設定します。

補足 Stamp2 パラメーターで、1 が設定されたときに有効です。

＜記述方法＞

```
Stamp2Color=設定値
```

＜設定値＞

スタンプ色	設定値
黒	1
赤	2
グレー	3

補足 設定値 2 は、FUJI XEROX DocuWide 9095α/9098α の場合に有効です。

Stamp2Date

Stamp2Dateには、スタンプの日付欄への刻印を設定します。

補足 Stamp2 パラメーターで、1 が設定されたときに有効です。

＜記述方法＞

Stamp2Date=設定値

＜設定値＞

スタンプ日付欄	設定値
刻印しない	0
年.月.日で刻印	1
月.日.年で刻印	2
日.月.年で刻印	3

Stamp2Number

スタンプの番号欄への刻印を設定します。

補足 Stamp2 パラメーターで、1 が設定されたときに有効です。

＜記述方法＞

Stamp2Number=設定値

＜設定値＞

スタンプNumber	設定値
刻印しない	0
データ中の文字列を刻印	1
Stamp2NumberDataの内容を刻印	2

Stamp2NumberData

スタンプの番号欄に刻印する文字列を設定します。

補足 Stamp2 パラメーターで、1 が設定され、さらに Stamp2Number で 2 が設定されたときに有効です。

＜記述方法＞

Stamp2NumberData=設定値

補足 ・設定できる文字数は、最大半角 12 文字です。
・指定できる文字は、スペース（空白）、A ～ Z、#、 $、%、&、’、(、)、-、/、|、0 ～ 9 です。

Stamp2PositionMode

スタンプの刻印位置についてどこの設定を有効とするか設定します。

補足 Stamp2 パラメーターで、1 が設定されたときに有効です。

＜記述方法＞

Stamp2PositionMode=設定値

＜設定値＞

スタンプ位置指定	設定値
プロッター本体の設定に従う (オートモード)	0
BT-Xの設定に従う (マニュアルモード)	1

Stamp2RotA0 ～ 4

Stamp2RotA0L ～ 4L

出力サイズごとのスタンプの回転について設定します。

補足
- Stamp2 パラメーターで、1 が設定されたときに有効です。
- 本パラメーターは JIS A 系だけでなく、特 A、ARCH、JIS B 系列のサイズも設定します。たとえば、B1 を設定するには、SizeMapA1 の値を変更する必要があります。
- パラメーター名の A0 ～ 4、A0L ～ 4L は、サイズを意味します。
- 回転方向は、時計回りです。

＜記述方法＞

```
Stamp2RotA0～4=設定値

Stamp2RotA0L～4L=設定値
```

＜設定値＞

スタンプ回転	設定値
回転しない	0
90°回転する	1
180°回転する	2
270°回転する	3

Stamp2PositionXA0 ～ 4

Stamp2PositionXA0L ～ 4L

スタンプの刻印位置（X座標）をサイズごとに設定します。

補足
- Stamp2 パラメーターで 1、さらに Stamp2PositionMode で 1 が設定されたときに有効です。
- 本パラメーターは JIS A 系だけでなく、特 A、ARCH、JIS B 系列のサイズも設定します。たとえば、B1 を設定するには、SizeMapA1 の値を変更する必要があります。

＜記述方法＞

```
Stamp2PositionXA0～4=設定値

Stamp2PositionXA0L～4L=設定値
```

補足
- 単位は mm です。
- パラメーター名の A0 ～ 4、A0L ～ 4L は、サイズを意味します。

Stamp2PositionYA0 ～ 4

Stamp2PositionYA0L ～ 4L

スタンプの刻印位置（Y座標）をサイズごとに設定します。

補足 ・Stamp2 パラメーターで 1、さらに Stamp2PositionMode で 1 が設定されたときに有効です。
・本パラメーターは JIS A 系だけでなく、特 A、ARCH、JIS B 系列のサイズも設定します。たとえば、B1 を設定するには、SizeMapA1 の値を変更する必要があります。

＜記述方法＞

Stamp2PositionYA0～4=設定値 Stamp2PositionYA0L～4L=設定値

補足 ・単位は mm です。
・パラメーター名の A0 ～ 4、A0L ～ 4L は、サイズを意味します。

Wicp

複製管理を設定します。

＜記述方法>

Wicp=設定値

＜設定値＞

複製管理	設定値
複製管理なし	0
複製管理あり	1
本体の設定に従う	2

補足 ・弊社製 ApeosWide 3030/6050、FUJI XEROX DocuWide 3037/6055/6057 で有効です。
・プロッター側で強制複製管理の指定をすると、このパラメーターは無視され、BT-X からの出力に複製管理が必ず印字されます。

2ColorMode

2色描画の動作の有無を設定します。

＜記述方法＞

2ColorMode=設定値

＜設定値＞

2色描画	設定値
2色描画を行わない	0
2色描画を行う	1
ハーフトーン描画を行う	2

HpglRasterColor

HP-GL系のラスターデータ（HP-RTL）の色を設定します。

補足 2ColorMode パラメーターで、1 が設定されたときに有効です。

＜記述方法＞

HpglRasterColor=設定値

＜設定値＞

HP-GL系ラスターデータの色	設定値
白	0
黒	1
赤	2

補足 設定値 2 は、DocuWide 9095α/9098α の場合に有効です。

HpglCommandMode

HP-GL系のベクターデータ（HP-GL/2）の色の割り当ての優先を設定します。

補足 2ColorMode パラメーターで、1 が設定されたときに有効です。

＜記述方法＞

HpglCommandMode=設定値

＜設定値＞

HP-GL系ベクターデータの色	設定値
コントローラーの設定が優先	0
コマンドの設定が優先	1

HpglVectorMapWhite（白）

HpglVectorMapBlack（黒）

HpglVectorMapRed（赤）

HpglVectorMapGreen（緑）

HpglVectorMapYellow（黄）

HpglVectorMapBlue（青）

HpglVectorMapMagenta（マジェンタ）

HpglVectorMapCyan（シアン）

HP-GL系のベクターデータ（HP-GL/2）の各入力色に対する出力色を設定します。

補足 2ColorMode パラメーターで 1 が設定され、さらに HpglCommandMode パラメーターで 1 が設定されたときに有効です。

＜記述方法＞

HpglVectorWhite=設定値

HpglVectorBlack=設定値

HpglVectorRed=設定値

HpglVectorGreen=設定値

HpglVectorYellow=設定値

HpglVectorBlue=設定値

HpglVectorMagenta=設定値

HpglVectorCyan=設定値

＜設定値＞

HP-GL系ベクターデータの色	設定値
白	0
黒	1
赤	2

補足 設定値 2 は、DocuWide 9095α/9098α の場合に有効です。

HpglRasterMapWhite（白）

HpglRasterMapBlack（黒）

HpglRasterMapRed（赤）

HpglRasterMapGreen（緑）

HpglRasterMapYellow（黄）

HpglRasterMapBlue（青）

HpglRasterMapMagenta（マジェンタ）

HpglRasterMapCyan（シアン）

HP-GL系のラスターデータ（HP-RTL）の各入力色に対する出力色を設定します。

補足 2ColorMode パラメーターで 1 が設定され、さらに HpglCommandMode パラメーターで 1 が設定されたときに有効です。

＜記述方法＞

HpglRasterWhite=設定値 HpglRasterBlack=設定値 HpglRasterRed=設定値 HpglRasterGreen=設定値 HpglRasterYellow=設定値 HpglRasterBlue=設定値 HpglRasterMagenta=設定値 HpglRasterCyan=設定値

＜設定値＞

HP-GL系ラスターデータの色	設定値
白	0
黒	1

HeaderSheet

ヘッダーシートの出力有無を設定します。

＜記述方法＞

HeaderSheet=設定値

＜設定値＞

ヘッダーシート	設定値
出力しない	0
出力する（黒）	1
出力する（黒／赤）	2

補足 設定値 2 は、FUJI XEROX DocuWide 9095α/9098α の場合に有効です。

SeparatorSheet

セパレーターシートの出力有無を設定します。

＜記述方法＞

SeparatorSheet=設定値

＜設定値＞

セパレーターシート	設定値
出力しない	0
出力する（黒）	1
出力する（黒／赤）	2
白紙	3

補足 設定 2 は、FUJI XEROX DocuWide 9095α/9098α の場合に有効です。

TimeOut

PJ SheetがBT-X/Sに送付されてから、PJ Sheetに指定されているすべてのファイルがBT-X/Sに送付完了するまでの最大待ち時間を設定します。

＜記述方法＞

TimeOut=最大待ち時間

補足
・この時間に達することなく、すべてのファイルが送付完了した場合は、その時点で出力処理を開始します。
・この時間に達しても送付完了しない場合は、BT-X/S で出力を保留します。
・単位は秒です。

Del

PJ SheetがBT-X/Sに処理されたあとに、キューのファイルを削除するかどうかを設定します。

＜記述方法＞

Del=設定値

＜設定値＞

キューのファイルの削除	設定値
削除を行わない	0
削除を行う	1

PortDrawingRotateA0 ～ 4

PortDrawingRotateA0L ～ 4L

縦長図面の回転について設定します。

＜記述方法＞

PortDrawingRotateA0～4=設定値 PortDrawingRotateA0L～4L=設定値

＜設定値＞

出力図面の回転	設定値
表題欄後だし	0
表題欄先だし	1

LandDrawingRotateA0 ～ 4

LandDrawingRotateA0L ～ 4L

よこ長図面の回転について設定します。

＜記述方法＞

```
LandDrawingRotateA0～4=設定値

LandDrawingRotateA0L～4L=設定値
```

＜設定値＞

出力図面の回転	設定値
表題欄後だし	0
表題欄先だし	1

DrawingRotateA0 ～ 4

DrawingRotateA0L ～ 4L

出力図面の回転について設定します。

補足 ・本パラメーターは JIS A 系だけでなく、特 A、ARCH、JIS B 系列のサイズも設定します。たとえば、B1 を設定するには、SizeMapA1 の値を変更する必要があります。

・PortDrawingRotate、LandDrawingRotate が設定された場合は、PortDrawingRotate、LandDrawingRotate が優先されます。

＜記述方法＞

```
DrawingRotateA0～4=設定値

DrawingRotateA0L～4L=設定値
```

＜設定値＞

出力図面の回転	設定値
表題欄後だし	0
表題欄先だし	1

PaperExit

用紙の排出先について設定します。

＜記述方法＞

```
PaperExit=設定値
```

＜設定値＞

用紙の排出先	設定値
プリンタ上部トレイ／後方排出	0
フォルダ上部トレイ／前方排出	1

補足 このパラメーターは、次の場合に有効です。

・FUJI XEROX DocuWide 9095α/9098α で用紙を折らずに出力したとき

Reverse

用紙の出力順序を設定します。

＜記述方法＞

```
Reverse=設定値
```

＜設定値＞

用紙の出力順序	設定値
正順出力	0
逆順出力	1

5.4　Files セクション

Filesセクションは、出力ファイルについて定義します。

設定できるパラメーター名と設定値は、次のとおりです。

[Files]

セクション名です。Filesセクションの先頭は、必ず［Files］から記述します。

File1 ～ n

ファイル名、データフォーマット、コメントを設定します。

＜記述方法＞

```
File1=ファイル名,[データフォーマット],[配布パターン]　　[#コメント]
File2=ファイル名,[データフォーマット],[配布パターン]　　[#コメント]
  ・
  ・
  ・
```

補足
- ［　］で囲まれた項目は省略できます。
- ファイル名には、出力するファイル名を設定します。
- データフォーマットには、ファイル名に指定したデータのフォーマットを設定します。設定値は、JobDefine セクションの DataFormat パラメーターと同様です。
- コメントには、ファイル名に指定したデータに対するコメントを設定します。

5.5 SortPatDefine セクション

SortPatDefineセクションは、配布先ごとに丁合するときの配布パターンの定義、および各配布先とPlotDefineセクションとの関連付けをします。
設定できるパラメーター名と設定値は、次のとおりです。

[SortPatDefine]

セクション名です。
SortPatDefineセクションの先頭は、必ず［SortPatDefine］から記述します。

Ptn1 ～ 300

配布先ごとに丁合するときの配布パターンを設定します。
＜記述方法＞

```
Ptn1=配布先1への部数、配布先2への部数、      ～ 配布先40への部数
   ・
   ・
   ・
Ptn300=配布先1への部数、配布先2への部数、   ～ 配布先40への部数
```

補足 ・Ptn パラメーターで定義できる配布パターンは、最大 300 パターンです
・定義できる配布先は、最大 40 部門です。

OutputP

配布先1～40とPlotDefine1～40の関連付けを行います。
＜記述方法＞

```
OutputP=配布先1のP×、配布先2のP×、          ～ 配布先40のP×
                          ↓
                  P×・・・・・・・  PlotDefine×に対応
              例）P5・・・・・・・  PlotDefine5に対応
```

補足 P0 と指定すると PlotDefine セクションではなく、JobDefine セクションへ関連付けされます。

5.6 FileDefine セクション

FileDefineセクションは、出力ファイルに対する定義をします。
設定できるパラメーター名は、次のとおりです。

参照 各パラメーターの設定方法については、「5.3 JobDefine セクション」（P.84）を参照してください。

[FileDefine1 ～ n]

セクション名です。FileDefineセクションの先頭は、必ず［FileDefine1～n］から記述します。
FileDefine1～nは、FilesセクションのFile1～nパラメーターに対応しています。

PenWidth1～32
EndStyle1～32
JointStyle1～32
Stamp2Date
Stamp2Number
Stamp2NumberData

PenColor1～32
Fold
FoldMargin
FoldSize
FoldCornerFold
StackerBinNo
Paper
Copy
InputPaperGroup
OutSize
OutputPaperGroup
SizeMapA0～4
SizeMapA0L～4L
OutputRollGroup
RollMapA0～4
RollMapA0L～4L
PaperTray
Stamp
StampNo
StampColor
StampRot
StampDate
StampNumber
StampNumberData
StampPositionMode
StampRotA0～4
StampRotA0L～4L
StampPositionXA0～4
StampPositionXA0L～4L
StampPositionYA0～4
StampPositionYA0L～4L
Stamp2
Stamp2No
Stamp2Color
Stamp2PositionMode
Stamp2RotA0～4
Stamp2RotA0L～4L
Stamp2PositionXA0～4
Stamp2PositionXA0L～4L
Stamp2PositionYA0～4
Stamp2PositionYA0L～4L
Wicp
2ColorMode
HpglRasterColor
HpglCommandMode
HpglVectorMapWhite（白）
HpglVectorMapBlack（黒）
HpglVectorMapRed（赤）
HpglVectorMapGreen（緑）
HpglVectorMapYellow（黄）
HpglVectorMapBlue（青）
HpglVectorMapMagenta（マジェンタ）
HpglVectorMapCyan（シアン）
HpglRasterMapWhite（白）
HpglRasterMapBlack（黒）
HpglRasterMapRed（赤）
HpglRasterMapGreen（緑）
HpglRasterMapYellow（黄）
HpglRasterMapBlue（青）
HpglRasterMapMagenta（マジェンタ）
HpglRasterMapCyan（シアン）
PortDrawingRotateA0～4
PortDrawingRotateA0L～4L
LandDrawingRotateA0～4
LandDrawingRotateA0L～4L
DrawingRotateA0～4
DrawingRotateA0L～4L
PaperExit

5.7 PlotDefine セクション

PlotDefineセクションは、各配布先に対する定義をします。
設定できるパラメーター名は、次のとおりです。

参照 各パラメーターの設定方法については、「5.3 JobDefine セクション」（P.84）を参照してください。

[PlotDefine1 ～ 40]

セクション名です。
PlotDefineセクションの先頭は、必ず［PlotDefine1～40］から記述します。
PlotDefine1～40は、SortPatDefineセクションのOutputPパラメーターのP1～P40に対応しています。

PenWidth1～32
EndStyle1～32
JointStyle1～32
PenColor1～32
Fold
FoldMargin
FoldSize
FoldCornerFold
StackerBinNo
Paper
InputPaperGroup
OutSize
OutputPaperGroup
SizeMapA0～4
SizeMapA0L～4L
OutputRollGroup
RollMapA0～4
RollMapA0L～4L
PaperTray
Stamp
StampNo
StampColor
StampRot
StampDate
StampNumber
StampNumberData
StampPositionMode
StampRotA0～4
StampRotA0L～4L
StampPositionXA0～4
StampPositionXA0L～4L
StampPositionYA0～4
StampPositionYA0L～4L
Stamp2
Stamp2No
Stamp2Color
Stamp2Date
Stamp2Number
Stamp2NumberData
Stamp2PositionMode
Stamp2RotA0～4
Stamp2RotA0L～4L
Stamp2PositionXA0～4
Stamp2PositionXA0L～4L
Stamp2PositionYA0～4
Stamp2PositionYA0L～4L
Wicp
2ColorMode
HpglRasterColor
HpglCommandMode
HpglVectorMapWhite（白）
HpglVectorMapBlack（黒）
HpglVectorMapRed（赤）
HpglVectorMapGreen（緑）
HpglVectorMapYellow（黄）
HpglVectorMapBlue（青）
HpglVectorMapMagenta（マジェンタ）
HpglVectorMapCyan（シアン）
HpglRasterMapWhite（白）
HpglRasterMapBlack（黒）
HpglRasterMapRed（赤）
HpglRasterMapGreen（緑）
HpglRasterMapYellow（黄）
HpglRasterMapBlue（青）
HpglRasterMapMagenta（マジェンタ）
HpglRasterMapCyan（シアン）
PortDrawingRotateA0～4
PortDrawingRotateA0L～4L
LandDrawingRotateA0～4
LandDrawingRotateA0L～4L
DrawingRotateA0～4
DrawingRotateA0L～4L
PaperExit

5.8　使用例

PJ Sheetの使用例について説明します。

作成例１（紙折り出力）

TIFFファイルをファン折りして1部出力します。

条件
・BT-X/S のキューには、あらかじめ、紙折りすると設定されています。

＜PJ Sheet作成例＞

```
[JobDefine]
Job = SAMPLE JOB1
User = FUJI
DataFormat = TIFF

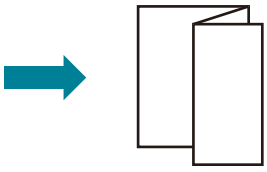
[Files]
File1 = Data1.tiff,TIFF
```

キューに「紙折り設定が行われている」ため、PJ Sheetには、紙折りについて記述する必要がありません。

＜BT-X/Sのキュー設定＞

```
部数 = 1
紙折り = ファン折り
綴じ代 = 20mm
   ・
   ・
```

＜出力結果＞



作成例２（スタンプ出力）

TIFFファイルにスタンプを刻印して、1部出力します。

条件
・BT-X/S のキューには、あらかじめ、スタンプを刻印しないと設定されています。

＜PJ Sheet作成例＞

```
[JobDefine]
Job = SAMPLE JOB2
User = FUJI
DataFormat = TIFF
Stamp = 1
StampNo = 1
StampColor = 1
StampDate = 1
StampNumber = 0
StampPositionMode = 1
StampRotA1 = 1
StampRotA2 = 1
StampRotA3 = 1
StampRotA4 = 1
StampPositionXA1 = 50
StampPositionXA2 = 40
StampPositionXA3 = 20
StampPositionXA4 = 10
StampPositionYA1 = 500
StampPositionYA2 = 450
StampPositionYA3 = 380
StampPositionYA4 = 270

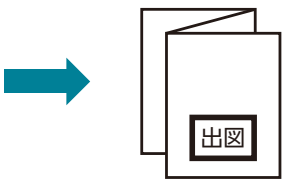
 [Files]
File1 = Data1.tiff,TIFF
```

キューに「スタンプを刻印しない」と設定されているため、PJ Sheetでスタンプについて設定する必要があります

＜BT-X/Sのキュー設定＞

部数 = 1
スタンプ = 刻印しない
・
・

＜出力結果＞



作成例３（単純丁合出力）

TIFFファイルを紙折り、丁合して、3部出力します。

条件

・BT-X/S のキューには、あらかじめ紙折りを行うと設定されています。

＜PJ Sheet作成例＞

```
[JobDefine]
Job = SAMPLE JOB3
User = FUJI
DataFormat = TIFF
Sort = 1
Copy = 3

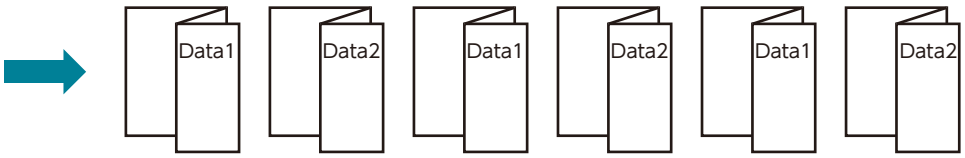
[Files]
File1 = Data1.tiff,TIFF
File2 = Data2.tiff,TIFF
```

「3部丁合を行う」と
PJ Sheetに設定します。

＜BT-X/Sのキュー設定＞

```
部数 = 1
   ・
紙折り = ファン折り
綴じ代 = 20mm
   ・
   ・
```

＜出力結果＞



作成例４（プログラム丁合出力１）

TIFFファイルを紙折りし、配布先ごとに丁合して出力します。

条件

・次の配布先に対して丁合出力します。
　設計部　2 部、購買部　1 部、品質管理部　1 部
・ヘッダーシートとセパレーターシートを、黒／赤の 2 色で印字して出力します。
・配布先ごとに用紙を 90° 回転させます。

＜PJ Sheet作成例＞

```
[JobDefine]
Job = SAMPLE JOB4
User = FUJI
DataFormat = TIFF
Sort = 1
SectionName1 = 設計部
SectionName2 = 購買部
SectionName3 = 品質管理部
HeaderSheet = 2
SeparatorSheet = 2

[SortPatDefine]
Ptn1 = 2,1,1
OutPutP = P0,P0,P0

[Files]
File1 = Data1.tiff,TIFF,Ptn1
File2 = Data2.tiff,TIFF,Ptn1
```

配布先名を記述すると、ヘッダーシートおよびセパレーターシートに、配布先名を印字できます。

ヘッダーシート、セパレーターシートを「黒/赤の2色で印字する」に設定します。

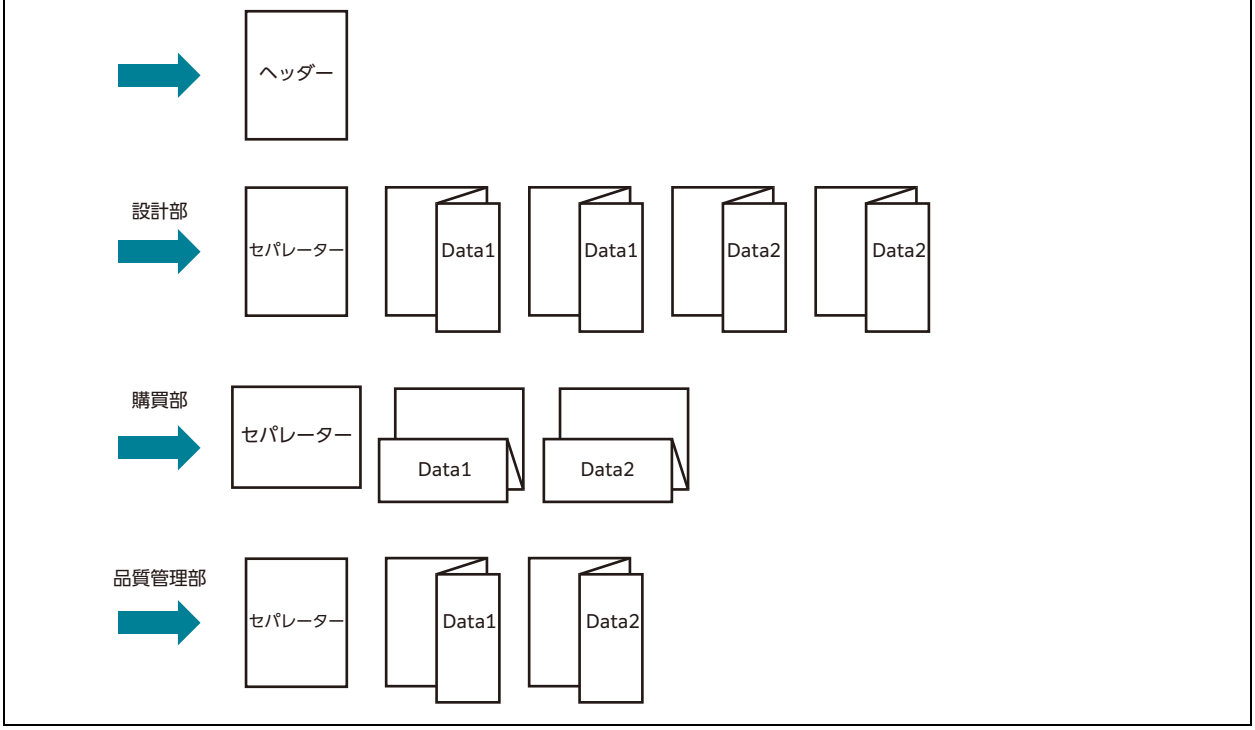
配布パターンを定義します。
配布先ごとに、出力設定を変更する必要がないため、OutPutPパラメーターには、「P0」（JobDefineの設定を使用）を設定します。

＜BT-X/Sのキュー設定＞

```
部数 = 1
　・
　・
紙折り = ファン折り
綴じ代 = 20mm
紙折り回転 = 回転する
　・
　・
ヘッダーシートに印字す
る項目 = ジョブ名、配布先名、ファイル名･･･････
セパレーターシートに印字する項目 = ジョブ名、配布先名、ファイル名･･･････
```

丁合時に「紙折り回転を行う」と、配布先ごとに90°回転が行われます。

＜出力結果＞


ヘッダー
設計部
セパレーター
Data1
Data1
Data2
Data2
購買部
セパレーター
Data1
Data2
品質管理部
セパレーター
Data1
Data2

作成例５（プログラム丁合出力２）

TIFFファイルを紙折りし、配布先ごとに丁合して出力します。

条件

・次の配布先に対して、丁合して出力します。
　設計部　2 部、購買部　1 部、品質管理部　1 部
・設計部には、紙折りしないで出力します。
・ヘッダーシートとセパレーターシートを、黒／赤の 2 色で印字して出力します。
・配布先ごとに用紙を 90° 回転させます。

＜PJ Sheet作成例＞

```
[JobDefine]
Job = SAMPLE JOB5
User = FUJI
DataFormat = TIFF
Sort = 1
SectionName1 = 設計部
SectionName2 = 購買部
SectionName3 = 品質管理部
HeaderSheet = 2
SeparatorSheet = 2

[SortPatDefine]
Ptn1 = 2,1,1
OutPutP = P1,P0,P0

[PlotDefine1]
Fold = 1

[Files]
File1 = Data1.tiff,TIFF,Ptn1
File2 = Data2.tiff,TIFF,Ptn1
```

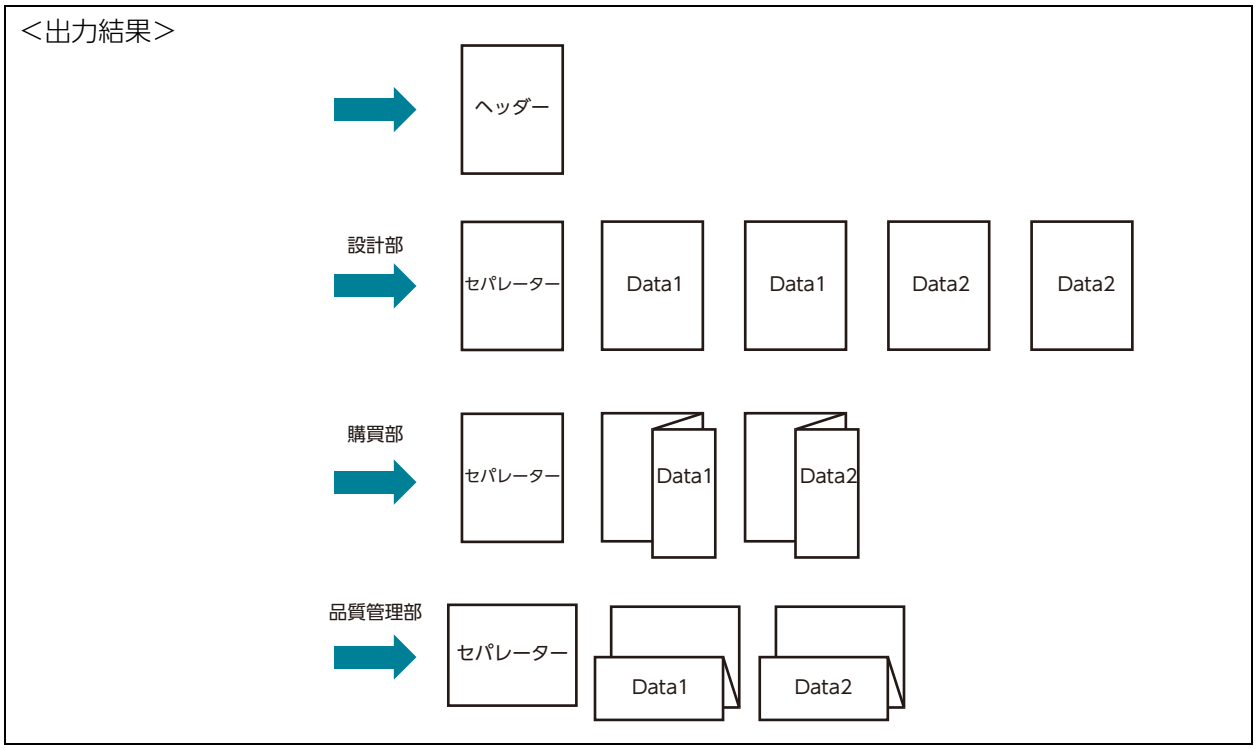
配布パターンを定義します。
1番目の配布先（設計部）には、個別の設定を行うため、「P1」（PlotDefine1の設定を使用）を指定します。

配布先ごとの設定を定義します。
SortPatDefineセクションのOutPutPパラメーターで指定したP1について、「紙折りをしない」と設定します。

＜BT-X/Sのキュー設定＞

```
部数 = 1
　・
　・
紙折り = ファン折り
綴じ代 = 20mm
紙折り回転 = 回転する
　・
　・
ヘッダーシートに印字する項目 = ジョブ名、配布先名、ファイル名・・・・・・・
セパレーターシートに印字する項目 = ジョブ名、配布先名、ファイル名・・・・・・・
```

＜出力結果＞


ヘッダー
設計部
セパレーター
Data1
Data1
Data2
Data2
購買部
セパレーター
Data1
Data2
品質管理部
セパレーター
Data1
Data2

作成例６（プログラム丁合出力３）

TIFFファイルをスタンプ刻印、紙折りし、配布先ごとに丁合して出力します。

条件

・次の配布先に対して、丁合して出力します。
　設計部　2 部、購買部　1 部、品質管理部　1 部
・Data1.tif は、スタンプを刻印しないで出力します。
・ヘッダーシートとセパレーターシートを、黒／赤の 2 色で印字して出力します。
・配布先ごとに用紙を 90° 回転させます。

＜PJ Sheet作成例＞

```
[JobDefine]
Job = SAMPLE JOB5
User = FUJI
DataFormat = TIFF
Sort = 1
SectionName1 = 設計部
SectionName2 = 購買部
SectionName3 = 品質管理部
HeaderSheet = 2
SeparatorSheet = 2

[SortPatDefine]
Ptn1 = 2,1,1
OutPutP = P0,P0,P0

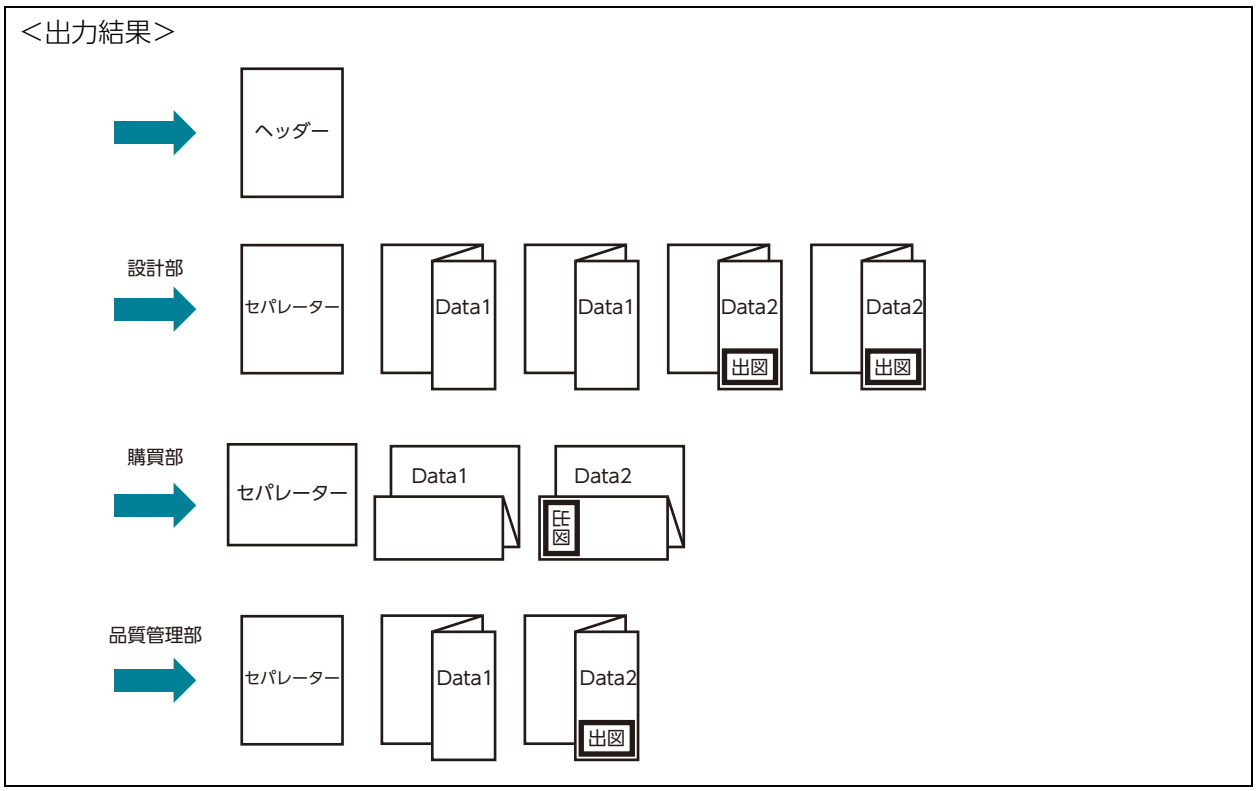
[FileDefine1]
Stamp = 0

[Files]
File1 =
Data1.tiff,TIFF,Ptn1
File2 = Data2.tiff,TIFF,Ptn1
```

ファイルごとの設定を定義します。
FilesセクションのFile1パラメーターで指定したファイル（Data1.tif）に対して、「スタンプを刻印しない」と設定します。

＜BT-X/Sのキュー設定＞

```
部数 = 1
　・
　・
紙折り = ファン折り
綴じ代 = 20mm
紙折り回転 = 回転する
　・
　・
スタンプ = 刻印する
スタンプ番号 = 1
スタンプ色 = 赤
　・
　・
ヘッダーシートに印字する項目 = ジョブ名、配布先名、ファイル名･･･････
セパレーターシートに印字する項目 = ジョブ名、配布先名、ファイル名･･･････
```


＜出力結果＞
ヘッダー
設計部
セパレーター
Data1
Data1
Data2
出図
Data2
出図
購買部
セパレーター
Data1
Data2
出図
品質管理部
セパレーター
Data1
Data2
出図

6 画面にないパラメーターの設定方法

6.1 画面にないパラメーターの設定方法

プロッターのもつパラメーターのうち、一部のパラメーターはBT-Xの画面で設定できません。その場合は、次の2つの方法で設定できます。

補足 利用できる方法は、プロッターの種類および設定するパラメーターによって異なります。詳細については、「表：パラメーターの設定方法と画面で設定できないパラメーターの関係」を参照してください。

① プロッター本体のパラメーターをBT-X以外の方法（インターネットサービスなど）で設定し、その設定値を利用する。
② BT-Xのキューの INIファイルに指定する。
詳細については、「6.2 INIファイルによるパラメーターの設定」（P.123）を参照してください。

補足 BT-X 以外の方法（インターネットサービスなど）でパラメーターを設定する方法については、プロッター本体のマニュアルを参照してください。

また、ウィンドウで設定できないパラメーターには、次の2種類があります。

（A）PJ Sheetには設定できるが、画面で設定できないパラメーター
（B）プロッター本体でだけ設定できるパラメーター

（A）に該当するパラメーターは、次のとおりです。
InSize
StackerMode
StackerBinNo
PortDrawingRotateA0～4
PortDrawingRotateA0L～4L
LandDrawingRotateA0～4
LandDrawingRotateA0L～4L
DrawingRotateA0～4
DrawingRotateA0L～4L
Baler
Reverse
Stamp2
Stamp2No
Stamp2Color
Stamp2Date
Stamp2Number
Stamp2NumberData
Stamp2PositionMode
Stamp2RotA0～4
Stamp2RotA0L～4L
Stamp2PositionXA0～4
Stamp2PositionXA0L～4L

Stamp2PositionYA0～4
Stamp2PositionYA0L～4L
Wicp

（B）に該当するパラメーターは、次のとおりです。
AutoScale
90°回転
Error、Labelログ設定
ストリップ
プライオリティ
Size Recognition
Multi Page Tiffの丁合い出力
Multi Page Tiffの逆順出力
Mirror出力
OFFSET
Monitor Mode
HPGL終了コマンド
Default Size
Pre Margin
Post Margin
ユーザー定義サイズ
CALS Rotateコマンド
ペン幅の拡大／縮小

TIFFの描画色の指定

パラメーターの設定方法と画面で設定できないパラメーターの関係は次のようになります。

	①	②
A	×	○
B	○	×

表：パラメーターの設定方法と画面で設定できないパラメーターの関係

6.2 INI ファイルによるパラメーターの設定

INIファイルについて説明します。

補足 PJ Sheet には指定できても、画面で変更できないパラメーターの設定に使用します。

INI ファイルとは

キューの各種設定を保存したファイルです。「{インストールしたフォルダー} ¥BTX-S¥PARAM¥ {キューの名前} .ini」として作成されます。

INI ファイルの構成

PJ Sheetは、次のセクションから構成されています。

・Queue セクション
キュー自体に関する設定を記述します。このセクションの値は変更しないでください。

・JobDefine セクション
このキューを利用するジョブに関する設定を記述します。

・HeaderDefine
ヘッダーシートに関する設定を記述します。このセクションの値は変更しないでください。

・SeparatorDefine
セパレータシートに関する設定を記述します。このセクションの値は変更しないでください。

・Position セクション
キュー自体の画面に関する設定を記述します。このセクションの値は変更しないでください。

JobDefineセクションの記述は、次のようにします。

```
[JobDefine]
Key=Value
Key=Value
   ・
   ・
   ・
```

・Key には、パラメーター名を指定します。
・Value には、パラメーター項目に対する設定値を指定します。また、シフト JIS で記述します。

次のパラメーターは画面で設定できません。そのため、初期値の設定が必要な場合は、INIファイルで設定してください。設定値は「5 PJ Sheet」（P.80）を参照してください。

InSize
StackerMode
StackerBinNo
PortDrawingRotateA0～4
PortDrawingRotateA0L～4L
LandDrawingRotateA0～4
LandDrawingRotateA0L～4L
DrawingRotateA0～4

DrawingRotateA0L～4L
Baler
Reverse
Stamp2
Stamp2No
Stamp2Color
Stamp2Date
Stamp2Number
Stamp2NumberData
Stamp2PositionMode
Stamp2RotA0～4
Stamp2RotA0L～4L
Stamp2PositionXA0～4
Stamp2PositionXA0L～4L
Stamp2PositionYA0～4
Stamp2PositionYA0L～4L
Wicp

補足
- INI ファイルを変更したあとは、BT-X 本体を再起動してください。
- INI ファイルを変更する前に、必ずインストールディレクトリー ¥BTX-S¥PARAM にあるオリジナルの「{キューの名前} _Vxxxy.prm」ファイル（xxx：バージョン、y：フォーマット種類）をバックアップしてください。
  変更した INI ファイルの設定を初期状態に戻したときは、バックアップしておいたオリジナルの「{キューの名前} _Vxxxy.prm」ファイルを元のディレクトリーにコピーします。
- 「5 PJ Sheet」（P.80）に記述されているパラメーターすべてを INI ファイルで設定できません。上記以外のパラメーターは INI ファイルを直接変更しないで、ウィンドウで値を変更するか、プロッター本体のパラメーターを変更してください。詳細については、「6.1 画面にないパラメーターの設定方法」（P.121）を参照してください。

作成例（A4 の向きを 180 度回転したい場合）

＜INIファイル記入例＞

```
[Queue]
＊変更しないでください。
[JobDefine]
DrawingRotateA4=1
TimeOut=60
SeparatorSheet=0
・
・
・
[HeaderDefine]
＊変更しないでください。
[SeparatorDefine]
＊変更しないでください。
[Position]
＊変更しないでください。
```

A4を180度回転指定します。

7 バッチファイル起動

7.1 バッチファイルについて

BT-X/Sでは、データを変換するために、バッチファイルを起動できます。
バッチファイルについて説明します。

起動するバッチファイルの指定

データフォーマットごとに、起動するバッチファイルを指定できます。データフォーマットは、任意に作成できます。

補足 設定の詳細については、「4.2 「サーバー」メニューの操作」（P.56）を参照してください。

バッチファイルは、1つジョブの中で処理されるデータごとに起動されます。したがって、1回のバッチファイルの起動で受け渡されるデータは、必ず1つとなります。

バッチファイルの引数

バッチファイルには、次のような引数1～4が渡されます。

引数1　入力ファイル名
引数2　出力ファイル名
引数3　PJ Sheetファイル名
引数4　リターンコードファイル名

・入力ファイル名
　バッチファイルに受け渡すデータファイル名を設定します。
・出力ファイル名
　バッチファイルから BT-X/S に受け渡すデータファイル名を設定します。
・PJ Sheet ファイル名
　入力ファイルに対して有効になる PJ Sheet ファイル名を設定します。
・リターンコードファイル名
　バッチファイル内で実行された処理の終了コードを設定します。正常終了した場合には 0 を、異常終了した場合には 1 以上の値を設定します。リターンコードに 0 より大きい値が設定された場合、BT-X/S は画面上の状態表示を「変換エラー」とし、そのジョブの実行を中止します。

記述例

バッチファイルの記述例は次の通りです。

```
HENKAN.EXE %1 %2                    →  ①

IF  ERRORLEBEL  1  GOTO  ERR        →  ②

ECHO  0  >  %4                      →  ③
EXIT                                →  ③

ERR:                                →  ④
ECHO  1  >  %4                      →  ④
```

・説明
① 任意のデータ変換処理 (外部ソフトウェアの呼び出しなど)
② 任意のデータ変換処理実行結果のチェック
③ 実行結果が正常であった時の処理（リターンコード =0)
④ 実行結果が異常であった時の処理（リターンコード =1)

8 出力集計情報

8.1 出力集計情報について

BT-X/Sでは、出力したデータの処理結果をログ情報として収集できます。

この収集結果を出力集計情報と呼んでいます。出力集計情報は、ファイルに保存できます。
出力集計情報について説明します。

ファイル形式

CSV形式でファイルに保存します。

補足 BT-X/S では、出力集計情報として出力結果を収集し、集計処理は行いません。

出力集計情報の内容

出力集計情報として、次の内容を収集します。

No.	項目	設定項目	
		PJ Sheetあり	PJ Sheetなし
1	ジョブID	BT-X/Sで管理しているID	BT-X/Sで管理しているID
2	ジョブ名	PJ SheetのJOBパラメーター	データ名
3	ユーザー名	PJ SheetのUserパラメーター	ー
4	ジョブコメント1	PJ SheetのComment1パラメーター	ー
5	ジョブコメント2	PJ SheetのComment2パラメーター	ー
6	ジョブコメント3	PJ SheetのComment3パラメーター	ー
7	ジョブコメント4	PJ SheetのComment4パラメーター	ー
8	ジョブコメント5	PJ SheetのComment5パラメーター	ー
9	ジョブコメント6	PJ SheetのComment6パラメーター	ー
10	ジョブコメント7	PJ SheetのComment7パラメーター	ー
11	ジョブコメント8	PJ SheetのComment8パラメーター	ー
12	ジョブコメント9	PJ SheetのComment9パラメーター	ー
13	ジョブコメント10	PJ SheetのComment10パラメーター	ー
14	ジョブコメント11	PJ SheetのComment11パラメーター	ー
15	ジョブコメント12	PJ SheetのComment12パラメーター	ー
16	ジョブコメント13	PJ SheetのComment13パラメーター	ー
17	ジョブコメント14	PJ SheetのComment14パラメーター	ー
18	ジョブコメント15	PJ SheetのComment15パラメーター	ー
19	キュー名	BT-X/SのQueue名	BT-X/SのQueue名

No.	項目	設定項目	
		PJ Sheetあり	PJ Sheetなし
20	配布先名	PJ SheetのSectionNameパラメーター	―
21	ファイル名	PJ SheetのFileパラメーター／ ファイル名	データ名
22	データフォーマット	PJ SheetのFileパラメーター／ データフォーマット	BT-X/SのQueue設定／ データフォーマット
23	ファイルコメント	PJ SheetのFileパラメーター／ コメント	―
24	BTX/Sの受け付け日時	BT-X/Sでの受け付け時間	BT-X/Sでの受け付け時間
25	M/F-Ⅰの出力日時	プロッター／JOBLOGのOUTPUT START時間または排紙終了時間	プロッター／JOBLOGの OUTPUT START時間または排 紙終了時間
26	オリジナルサイズ	プロッター／JOBLOGのORIG.SIZE またはSizeIN	プロッター／JOBLOGの ORIG.SIZE またはSizeIN
27	プリントサイズ*1	プロッター／JOBLOGのPRINT SIZE またはSizeOut	プロッター／JOBLOGの PRINT SIZE またはSizeOut
28	出力枚数	プロッター／JOBLOGのPRINTED またはCopyOUT	プロッター／JOBLOGの PRINTED またはCopyOUT
29	入力ステータス	プロッター／JOBLOGのIN-STATUS またはInput	プロッター／JOBLOGのIN- STATUS またはInput
30	出力ステータス	プロッター／JOBLOGのOUT-STATUS またはOutput	プロッター／JOBLOGのOUT- STATUS またはOutput
31	丁合区分	XEまたはXP	XEまたはXP

*1　シンクロカットされたデータは、プリントサイズに「OTHER」が設定されるため、正確なプリントサイズは得られません。
シンクロカットは、PJ Sheet で OutSize パラメーターに 6、7 が、または BT-X/C の［サイズ設定］でシンクロカットが指定された場合に行われます。

補足　PJ Sheet がある場合とない場合とで、設定項目に違いがあります。

・出力データ 1 つにつき 1 行作成されます。

・NO.1 ～ 19 の項目はジョブの一番先頭の行に内容が記載されます。
（同一ジョブ内のそのほかの行には、カンマ区切りだけで内容は記載されません。）

・ヘッダーシート、セパレーターシートを出力した場合には、ファイル名が「ヘッダシート」、「セパレータシート」となって行が作成されます。

9 丁合機能

9.1 丁合機能について

丁合機能について説明します。

BT-X 丁合

丁合する順番どおりに1データずつ対象プロッターに出力します。配布先ごとに部数を振り分けるだけでなく、配布先ごとに紙折り方法を変更するなどの複雑な出力ができます。

BT-X で丁合する

BT-Xで丁合を行います。BT-Xで丁合ができない場合には、エラーとして出力処理をしません。

設定上の制限について

・BT-X で丁合する場合
スタンプの番号欄刻印方法に、［セット番号を指定文字列に付加する］が指定されている場合は、BT-X で丁合はできません。

10 エラーメッセージ

10.1　エラーメッセージ一覧

BT-Xの各モジュールのエラーメッセージについて説明します。

10.1.1　BT-X/C のメッセージ

選択処理でのメッセージ

既に登録済みファイル名が入力されました。
【対処】選択したファイルをキャンセルするか、または上書きするかを指定してください。

BT-X/C 設置環境のディスク容量が不足しています。
【対処】設置環境が存在するドライブの不要なファイルを削除してください。

削除処理でのメッセージ

削除するファイルが選択されていません。
【対処】削除するファイルを選択してから削除してください。

出力処理でのメッセージ

出力設定が選択されていません。
【対処】出力設定を選択してください。

出力するファイルが選択されていません。
【対処】ファイルを選択してください。

BT-X/S 転送先のディスク容量が不足しているか書き込み禁止になっています。出力処理を中止します。
【対処】BT-X/Sの転送先のディスク容量が不足していないか、または書き込み禁止になっていないかを確認してください。

BT-X/S 転送先に同一ファイル名が存在しています。出力処理を中止します。
【対処】ファイル名を確認してください。

出力設定一覧（新規登録）でのメッセージ

出力設定名を入力して下さい。
【対処】出力設定名を入力してください。

転送先を入力して下さい。
【対処】BT-X/Sのキュー名を入力してください。

入力ディレクトリーは存在しません。再入力して下さい。
【対処】存在するディレクトリーを入力してください。

ドライブ指定に誤りがあります。再入力して下さい。
【対処】正しい指定先を入力してください。

出力設定一覧（変更／参照）でのメッセージ

出力設定名を入力して下さい。
【対処】出力設定名を入力してください。

転送先を入力して下さい。
【対処】BT-X/Sのキュー名を入力してください。

入力ディレクトリーは存在しません。再入力して下さい。
【対処】存在するディレクトリーを入力してください。

ドライブ指定に誤りがあります。再入力して下さい。
【対処】正しい指定先を入力してください。

(変更／参照）する出力設定が選択されていません。
【対処】出力設定を選択してから、変更および参照を行ってください。

出力設定一覧（削除）でのメッセージ

削除する出力設定が選択されていません。
【対処】出力設定を選択してから削除してください。

出力設定一覧（OK）でのメッセージ

出力設定が選択されていません。
【対処】出力設定を選択してから［OK］をクリックしてください。

10.1.2　BT-X/S のメッセージ

キュー作成時でのメッセージ

キューの名前を入力してください。
【対処】キュー名を入力してください。

キューの名前が重複しています。変更してください。
【対処】重複しないキュー名を入力してください。

キューのディレクトリーが重複しています。
【対処】重複しないキューのディレクトリーを入力してください。

キューのディレクトリーを選択してください。
【対処】キューのディレクトリーを選択してください。

キュー削除時でのメッセージ

キューを選択してからメニューを選択してください。
【対処】削除するキューを選択してください。

キューを停止してから操作を行ってください。
【対処】削除する対象のキューを停止してください。

ディレクトリーが削除できませんでした。Error No. = xx
【対処】Error No.を控えたあと、弊社までご連絡ください。

キュー設定時でのメッセージ

キューを選択してからメニューを選択してください。
【対処】設定するキューを選択してください。

キューを停止してから操作を行ってください。
【対処】設定する対象のキューを停止してください。

ジョブ保留時でのメッセージ

選択したジョブの保留はできません。
【対処】出力待ちのジョブに対して、保留を行ってください。

選択したジョブは出力終了しています。
【対処】出力待ちのジョブに対して、保留を行ってください。

ジョブを選択してからメニューを選択してください。
【対処】保留する対象のジョブを選択してください。

ジョブ再開時でのメッセージ

選択したジョブの再開はできません。
【対処】保留、タイムアウトのジョブに対して、再開を行ってください。

選択したジョブは出力終了しています。
【対処】保留、タイムアウトのジョブに対して、再開を行ってください。

ジョブを選択してからメニューを選択してください。
【対処】再開する対象のジョブを選択してください。

ジョブ削除時でのメッセージ

選択したジョブの削除はできません。
【対処】出力待ち、保留、またはタイムアウトのジョブに対して、削除を行ってください。

選択したジョブは出力終了しています。
【対処】出力待ち、保留、またはタイムアウトのジョブに対して、削除を行ってください。

ジョブを選択してからメニューを選択してください。
【対処】削除する対象のジョブを選択してください。

ジョブ優先出力時でのメッセージ

選択したジョブの優先出力はできません。
【対処】出力待ち、保留のジョブに対して、優先出力を行ってください。

選択したジョブは出力終了しています。
【対処】出力待ち、保留のジョブに対して、優先出力を行ってください。

ジョブを選択してからメニューを選択してください。
【対処】優先出力する対象のジョブを選択してください。

サーバー設定時でのメッセージ

サーバーを停止してから操作を行ってください。
【対処】設定対象のサーバーを停止してください。

サーバー立ち上げ時でのメッセージ

プロッターとの設定に失敗しました。プロッターの状態を確認してください。
【対処】プロッターの電源が入っているか、イーサネットケーブルが抜けていないかなどを確認してください。

サーバー終了時でのメッセージ

現在出力プロセスが稼動中です。強制終了しますか。
【対処】[はい] を選択すると、出力が中断してサーバーが終了します。

サーバー実行時でのメッセージ

データスプール領域（ドライブ X:）が不足しています。
【対処】スプールディレクトリーが存在するドライブX:の不要なデータを削除してください。

データ保存領域（ドライブ Y:）が不足しています。
【対処】データ保存ディレクトリーが存在するドライブY:の不要なデータを削除してください。

11 注意制限事項

11.1　注意制限事項

BT-Xの注意と制限について説明します。

BT-X の動作環境について

・BT-X/S が動作するコンピューター上に、BT-X/C 以外のアプリケーションを同時に稼動した場合、動作を保証できないことがあります。

富士ゼロックス製の BT-X との共存について

・1 つのコンピューターに、弊社製の BT-X と富士ゼロックス製の BT-X を両方インストールして使用することはできません。
必ず、富士ゼロックス製の BT-X をアンインストールしてから、弊社製の BT-X をインストールしてください。

・富士ゼロックス製の BT-X から弊社製の BT-X への設定の引継ぎはできません。
弊社製の BT-X をインストールした後、あらためて必要な設定をしてください。

・富士ゼロックス製の BT-X をアンインストールしたあと、作成したバックアップファイルやインストールされていたフォルダーとフォルダー内のファイルをすべて削除してください。
インストールされていたフォルダーのデフォルトは、「C:¥BT-X」です。

他のシステムとの共存について

・同一のプロッターを使用して、BT-X と BT-X 以外のシステムを別々に運用する場合は、出力集計情報を取得しないように設定してください。

・同一のプロッターを使用して、複数の BT-X/S からは出力できません。

プロッターとの接続が失敗したときの BT-X/S の動作について

・一度オンライン状態のプロッターに接続すると、その後プロッターがオフライン状態になったり電源が切れたりしても、エラーメッセージは表示されません。

・［BT-X/Server］ウィンドウのフレーム下部に表示される用紙種類や残量の状態は更新されません。プロッターの受け付け状態やプリンターの状態は［接続失敗］と表示されます。

・BT-X/S は接続のリトライを繰り返します。

ジョブのファイル名について

・半角カンマ（,）を含むファイル名の動作は保証できません。

保管されたデータの削除について

・出力後にデータを保存する場合は、データ保存ディレクトリーに保存されたデータを定期的に削除してください。BT-X/S には、保管データの削除機能はありません。

参照 ・出力済みデータの保存については、「4.3.1 キューの新規作成」（P.61）を参照してください。
・データ保存ディレクトリーについては、「4.2.3 サーバーの設定」（P.57）を参照してください。

出力機器のトラブルに伴うジョブリカバリー機能について

・BT-X には、対象プロッターのトラブルに伴う、出力ジョブのリカバリー機能はありません。

BT-X/C の選択可能ファイル数について

・コンピューター上のドライブから一度に選択できるファイル数は、8.3 形式のファイルでおよそ 158 ファイルです。

丁合・紙折りでの用紙排出時の 90° 回転について

・紙折り指定で［プロッター本体の設定に従う］が設定されている場合は、用紙排出時に 90° 回転しません。90° 回転する場合は、紙折り指定で［プロッター本体の設定に従う］を設定しないでください。

スタンプ時の指定文字列の文字制限について

・指定文字列は最大 12 文字です。ただし、セット番号と同時に使用する場合は、最大 8 文字に制限されます。

認証機能について

・BT-X は、プロッターの認証機能に対応していません。

・プロッターでプリンター認証機能を使用している場合は、プリンター本体の［プライベートプリントの設定］で、［User ID なしのジョブ］を［プリント］に設定してください。

複製管理について

・プロッター側で強制複製管理の指定をすると、複製管理のパラメーター「Wicp」は無視され、BT-X からの出力に複製管理が必ず印字されます。

BT-X のヘッダーシート／セパレーターシート出力について

・紙折り指定でヘッダーシート／セパレーターシートを指定して出力する場合は、プロッターに A4 カット紙がセットされていないときは、ヘッダーシート／セパレーターシートが 180 度回転して出力されます（図面の出力向きと反転することになります）。

・ヘッダシートはジョブ全体の設定で指定された折り指定先に出力されます。
JobDefine セクション＞ BT-X/S のキュー設定
セパレータシートは各配布先に対する次の設定で指定された折指定先に出力されます。
PlotDefine セクション＞ JobDefine セクション＞ BT-X/S のキュー設定
折り指定先の設定によって、排出先が決まります。
・「折らない」を指定の場合はプリンタ側
・「折り」の指定の場合は Folder 側ベルトスタッカ

補足 FileDefine セクションの Fold 指定は対象データだけに有効なものであり、ヘッダシート／セパレータシートの排出先を決定するものではありません。

出力フォーマットが複数（TIFF と HPGL など）混在するジョブの出力について

・複数のデータフォーマットが混在するジョブで、データフォーマットによって図面の生成向きが異なるジョブを出力する場合、どちらかのフォーマットのデータは紙折りが 180 度回転して出力されます。
例：TIFF は全サイズ 0 度で生成されていますが、HPGL は A1 と A2 が 180 度回転して生成されているジョブの場合では、どちらかの A1 と A2 の紙折りが 180 度回転して出力されます。

ウィンドウ設定にないパラメーター設定の追加設定項目について

・「{キューの名前} .ini」ファイルに追加設定項目を追記する場合
次回 BT-X を起動したときに、INI ファイルによるパラメーター設定はすべてのデータフォーマットに適用されます。データフォーマットの種類ごとに値を変えることはできません。

・「{キューの名前} .ini」ファイルの追加設定項目を削除する場合
「{キューの名前} .ini」ファイルのパラメーターを削除しても、実際のプリントには削除前の設定項目の値が反映されます。
これを回避するには、オリジナルの INI ファイルを変更する（追加設定項目を追記する）前に、次の対処をしてください。

(1) {インストールしたディレクトリー} ¥BTX-S¥PARAM にあるオリジナルの「{キューの名前}_Vxxxy.prm」ファイル（xxx：バージョン、y：フォーマット種類）をバックアップします。

(2)「{キューの名前} .ini」ファイルに追加設定項目を追記します。

(3) BT-X を再起動します。

INI ファイルの追加設定項目を削除するときの手順は、次のとおりです。

(1) {キューの名前} .ini」ファイルの追加設定項目を削除します。

(2) オリジナルの「{キューの名前} _Vxxxy.prm」ファイルを元のディレクトリーに戻します。

(3) BT-X を再起動します。

設置時に作成される Queue1 について

・Queue1 のキュー設定のディレクトリーパスが「C:¥BT-X¥BTX-S¥..¥QUEUE1¥」になっていることで、同一フォルダー「C:¥BT-X¥QUEUE1¥」を指定したキューを 1 つ作成できます。この場合、同じフォルダーを監視するキューが 2 つあることになり、正常に動作しません。「C:¥BT-X¥QUEUE1¥」を指定したキューは作成しないでください。作成した場合には、［キュー］メニューの［キュー削除］でどちらかのキューを削除してください。このとき、ディレクトリーは残すように設定してください。

キューの共有設定／名前削除／変更について

・BT-X/S のキュー設定で、フォルダーの共有設定をする場合、Windows の［スタート］メニューから、［FUJIFILM BT-X Server］＞［BT-X Server Version X.X.X］を右クリックし、ショートカットメニューから［管理者として実行］を選択してください。

補足 「X.X.X」にはバージョン番号が入ります。

・キュー設定で共有名を削除しても、実際の共有は解除されません。
他の共有名にした場合は、前回の共有名は残ったまま新たな共有がかかります。これを回避する手順は、次のとおりです。

◆ 共有を解除する場合

(1) エクスプローラーで、共有にしたフォルダーのプロパティを開きます。

(2) ［共有］タブで［このフォルダを共有しない］を選択します。

◆ 他の共有名に変更する場合

(1) エクスプローラーで、共有にしたフォルダーのプロパティを開きます。

(2) [共有] タブの [共有名] のプルダウンメニューから古い共有名を選択します。

(3) [共有解除] を選択します。

(4) [コメント] を新しい共有名に変更します。

ジョブ（PJ Sheet）の処理順序について

・キューまたはキュー用のディレクトリーに入力したジョブが、順序どおりに出力されないことがあります。
BT-X は PJ Sheet の処理順序を入力されたタイムスタンプで判断しますが、PJ Sheet が連続して入力された場合、OS が付けるタイムスタンプに同じ時間が付くことがあるためです。
これを回避する方法は、次のとおりです。
（1）の方法でうまくいかない場合は、（2）の方法を行ってください。

(1) PJ Sheet の入力間隔を十分に取ってください。

(2) キュー用のディレクトリーを設定するパーティションを NTFS フォーマットにします。さらに、入力する PJ Sheet の名前を、出力したい順序に合わせてアルファベット順に作成します。

パラメータの組み合わせの制限について

・BT-X はキューの設定と PJ Sheet の各セクションごとに、パラメータの組み合わせの有効性のチェックを行います。有効性のチェックで無効となったパラメータは、他のセクションには引き継がれません。
その場合、各セクションでパラメータの設定を行ってください。

例えば、「紙折りする：ファン折り」（Fold=2）と「排出先有効：フォルダ上部トレイ」（PaperExit=1）は、組み合わせに制限があります。
キュー設定で「紙折りしない」と「排出先」が設定されている場合でも、[JobDefine] セクションでの「紙折りする」の記述で、排出先が無効であることを判定します。
その後に処理される PJ Sheet の [PlotDefine] セクションで「紙折りしない」が記載されても、ここで「排出先」が有効に変更されることはありません。
そのため、このケースで用紙の排出先を有効にする場合、[PlotDefine] セクションで「排出先」を指定する必要があります。

Windows セキュリティ強化機能搭載について

・「BT-X/Server」を使用する場合は、初期設定状態では、次のような現象が発生します。
- BT-X/S 起動時に［Windows セキュリティの重要な警告］画面が表示される
- 異なるセグメントにある Windows 上の共有フォルダーにアクセスできない

・BT-X/S 起動時に表示される［Windows セキュリティの重要な警告］の画面表示を解除する設定
Windows では、Windows ファイアウォール機能が初期設定値として 「有効」になっています。この設定が適用されているコンピューターで BT-X/S を使用した場合、BT-X/S 起動時に［Windows セキュリティの重要な警告］が表示されます。
この表示を回避するには、Administrator 権限を持つユーザーでサインインし、次の設定 A、または B のどちらかを実施し、「許可されたアプリおよび機能」として登録してください。

補足 Windows のバージョンにより、表示内容は多少異なります。

◆ A. 使用時に設定する

(1) Administrator 権限を持つユーザーでサインインし、BT-X/S を起動します。

(2) [Windows セキュリティの重要な警告] 画面が表示されるので、[アクセスを許可する] をクリックします。

◆ B.［例外］にプログラムを追加する

(1) Administrator 権限を持つユーザーでサインインし、［コントロールパネル］を選択します。

(2) ［システムとセキュリティ］をクリックします。

(3) ［Windows ファイアウォールによるアプリケーションの許可］をクリックします。

(4) ［設定の変更］をクリックしたあと、［別のアプリの許可］をクリックします。
［アプリの追加］画面が表示されます。

(5) ［参照］をクリックして、BT-X のインストールディレクトリーから「BT-X.EXE」を選択し、［追加］をクリックします。
［許可されたアプリおよび機能］に［BT-X MFC アプリケーション］が表示されます。

(6) ［プライベート］または［パブリック］にチェックマークが付いていることを確認します。
チェックマークが付いていない場合は、チェックマークを付けてください。

・異なるセグメントから Windows の共有フォルダーにアクセスするための設定
ファイアウォールが有効な初期設定状態では、ファイル共有は同一サブネット内だけで許可されています。そのため、異なるサブネットのコンピューターから BT-X/S が起動している Windows の共有フォルダーにアクセスする場合には、接続先のコンピューターで次の設定を実施する必要があります。

(1) 共有フォルダーがある Windows コンピューターの［コントロールパネル］を選択します。

(2) ［システムとセキュリティ］＞［Windows Defender ファイアウォール］をクリックします。
［Windows Defender ファイアウォール］画面が表示されます。

(3) ［詳細設定］をクリックします。
［セキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォール］画面が表示されます。

(4) ［受信の規制］を選択し、画面右側の［新しい規則 ...］をクリックします。
［新規の受信の規制ウィザード］画面を開きます。

(5) ［ポート］を選択し、［次へ］をクリックします。

(6) ［TCP］、［特定のローカルポート］を選択して、テキストボックスに「139」を入力し、［次へ］をクリックします。

(7) ［接続を許可する］を選択し、［次へ］をクリックします。

(8) ［ドメイン］、［プライベート］、［パブリック］からネットワークの接続形態を選択し、［次へ］をクリックします。

(9) ［名前］に「TCPPort139」を入力し、［完了］をクリックします。

(10) ［受信の規則］から、手順（9）で作成した［TCPPort139 ］のプロパティをクリックします。

(11) ［スコープ］タブの［リモート IP アドレス］で、［これらの IP アドレス］を選択し、［追加］をクリックします。

(12) ［IP アドレス］画面で、IP アドレスとサブネットを入力し、［OK］をクリックします。

また、これらの設定を実施しても Windows を搭載したコンピューターのイーサネットカードとその設定に依存して、正常に動作できないネットワーク環境があります（上述の手順（6）、（9）および（10）に関しては、ネットワークの環境によっては「139」ではなく「445」とする必要があります）。

補足 Windows のバージョンにより、表示内容は多少異なります。

問い合わせ先

カストマーコンタクトセンター、または販売店にご連絡ください。
電話番号は、プリンター本体に貼付のカードやシールに書かれています。

受付時間　土曜、日曜、祝日を除く
9時～17時30分（一部の地域では異なります）

電話番号　機械本体の貼付カードをご確認ください。

●ご意見やご相談の受付窓口
お客様相談センター
電話　：0120-27-4100（通話料無料）
FAX　：0120-05-5035（通話料無料）

土、日、祝日および弊社指定休業日を除く　9時～12時、13時～17時
フリーダイヤルは、海外からはご利用いただけません。また、一部のIP電話からはつながらない場合があります。お話の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただくことがあります。

リプロサーバ BT-X 操作説明書

著作者 ― 富士フイルムビジネスイノベーション株式会社
発行者 ― 富士フイルムビジネスイノベーション株式会社

発行年月日 ― 2026 年 11 月　第 1 版

（管理 No.:GM1065J1-2）